

○次は折紙で各自違ったもの作り、3、4人グループに分かれて作った折紙でお話を作り、大変傑作だった。

○美術教育は、じょうずな絵をかかせるのではなく子供が楽しめる素材作りが大切である。今迄にないユニークな授業であった。

第2時限 リトミック 小野先生

前回の続きで今迄より深く複雑になる我々の体も少し馴れた感じでいくらかやりやすくなった。皆人もスムーズになった様である。我々の体が動物等あらゆるものに变化するのはびっくりした。先生の芸の深さに驚く。

第3時限 近代詩 金平先生

始めに夏期スークリング(伊豆長岡)の説明がある。

初めての短歌の授業である、あまりむずかしく考えず、そのまま感じた事を言葉に現わす事等の説明、なんとなくやさしい様な気持ちになる。故意に言葉をつくと不自然である等説明があり、有意義な授業であった。

2、3日続いた雨もあがり気持ちの良い天気であった。一生懸命がんばったつもりであったけどついにコックリやる時差ボケの重傷ではすまされぬと思う。以後気をつけます。

馬場 記

6月29日 金曜日 曇 (気温19℃)

第1時限 児童心理学(大井先生)

第2時限 日本語を考える(片山先生)

第3時限 近代詩歌(金平先生)

8時40分にセンターを出発。17時50分にセンターに帰着。

今日などは、すっかり落ちついた学習態度と通学ぶりである。

ちょうど、きょうで来日して3週間。実ははやい。

夕食後、一同会して打ち合せを行い、研修生としての自覚を心新たにした。

今のこの境遇がもったいない。ありがたいと思う。

“曇天なれど一憂もなく、この学びの日々をありがたく思ふ”

江上 記

6月30日 土曜日 曇

今朝は11時15分 玄関に集合という事であったが、遅れた数名は後から急ぎ足で根岸駅へ向かう。

昨日玉川学園国際室の事務の方に詳しく教えて頂いていたので電車や道を間違えることなく本厚木にある文化会館に辿り着く。午前の部が遅れていたらしく30分程待つ事になり、その間を利用して

未だ昼食を済ませていない先生達（出発までに腹捲えをしておく様にと通達されていた筈なのに…）は急いで食事に行く。

午前の部が終わると参観の父兄の後から生徒達が一齐に出て来て、池の周りや木陰でお弁当を開いて楽しそうに食べ始める。“お弁当の時間は30分しかないのかしら？”等と同情しながらロビーに行きしばらく待つ。

1時半頃、会場に入る様にと案内の先生が呼んで下さりプログラムを貰って一同2階へ上がって行く。正面の一番良い席が空けてあり、そこに着席すると間もなくドラの合図で会場が暗くなり、1時45分開演となる。

舞台に置かれてあった7…の太鼓に法被姿も勇ましい男女13名（大学生のお兄さんお姉さん達に見え尤が）が並ぶと同時に声がかかり力強い連打が始まる。強く、弱く波のうねりの様に響く太鼓の音は聴く者をリズムの世界へと誘い込んで行く。

司会の生徒が一年生の曲目を読み上げると一番目の合唱が始まった。2組或は3組合同になっている。

プログラムは学年別に3部に組まれて、1年生はピアノ伴奏で合唱とブラスバンド部のクラリネットアンサンブルが1曲入る。2年生は合唱とハンドベルの演奏、そして3年生は伴奏をなしで男子、女子と別々に歌うのが1曲ずつあり、オーケストラ伴奏では“グロリア”より選ばれた2曲を歌う。最後は生徒全員による“ハレルヤコーラス”を子供とは思えない程の力強さで歌い上げた。

2部から3部に移る時は、教師、職員の方々と塾生の余興的な番組もあり生徒達からアンコールされる程の人氣で会場は湧いた。

生徒達の発表が終了すると全員がオーケストラの伴奏で玉川学園校歌を歌い、軽快な行進曲に送られて退場。

全般を通じて無駄な時間をとらず、整然とプログラムが進行していくのは日頃の訓練の賜物であり見ていて気持ち良かった。

未だ幼さの残る1年生は元気一杯、はつらつと歌って可愛らしいが、2年生にかわると合唱らしくなっている。3年生は混声にならない曲もあり、それぞれ印象に残る美しい合唱だった。

プログラムの中程にあったハンドベルの演奏も、やわらかい音色と演ずる少女達の可憐さが何とも言われぬ滑らかな雰囲気をかもし出していた。

歌声やピアノの音が絶えない玉川学園ならではの充実しれ合唱祭、素晴らしい音楽会を鑑賞できたのは本当に幸せな事だった。

大山 記

7月2日 月曜日 梅雨の中休みとか久し振りのお天気

第1時限 表現教育の研究 リトミック 方先生

集中 始めに床に寝ころび静かに心を集中して音楽を聞く

解放 身体各部別々に音楽に合わせて動かして行く

手、足、肩、腰、背中、頭、口、目、皆各々思いのままに解放感を味わい乍ら気持ちよく無我の境地となる。

感觸の世界へ 2人1組となり1人が目をつぶり1人は案内人となって何人かの人(これも育人と仮定した目をつぶった人)に合わせ手だけを触れ誰だろう…と感觸のみに集中する。

解放 球なしのバレーボール

今日は2組に分かれて試合をする。ボールの無いゲームはなかなかむずかしい。ボールを使つての本試合の様に皆汗びっしょりでの大熱戦であった。

お話作り テーマが設定され音楽が流れ起承転結のある短かいお話作りをする。

(飛行場、うめぼし、タンポポ)

各組4、5人がグループとなり各々苦心の楽しいお話が出来上る。

電話での対話 背中合わせとなりテーマが決まり各々が相手の顔を見ないで設定されたテーマにそつて話し合いが始まる。各々が個性のある話し合いが行われた様である。

第2時限 現地授業研究 正善先生

ビデオテープの鑑賞

・パラグアイ 佐藤先生の学校の学会の様子

・去年の中南米教師研修の模様

その後ベールの具志堅先生の学校の日語教育についての発表があった。

第3時限 音楽 小学部高学年音楽室 小宮路先生

私達にとってそれは懐かしい歌。“ふるさと”“花”を始めに思い切り歌う。今ふるさとに在るといふ感觸にひたりながら、その後“おお牧場は緑”の歌に合わせてリズムを取り乍ら(肩たたき)歌う楽しさを教えられる。

ころころたまご、大きな畑、一年中の歌、たったひとつのさくらんぼ、おかたづけ

小学校低学年向けの動作、リズムのともなった小宮路先生の徹底した音楽教育の姿勢にすっかり共鳴、感服、学ばされること多くあり。

“ひとりひとりを大切にす教師こそ一流である”

“気憶の花束”として一人一人の誕生日をノートし必ずその子に誕生日のお祝いの言葉をその日にさり気なく送るといわれる先生の教育者としてのこまやかな心使い——これぞ教育者としてのあるべき姿と感服する。

私も小宮路先生の様な教師に一步近づくことと心に期する、こんな機会を与えて下さった事業団に改

めて感謝の気持ちがわく。

ぼんの 記

7月3日 火曜日 晴れ

今日はスカットした“日本晴れ”と言いたいが私にはブラジルのベレンを思わせるようなお天気
10:40分美術の佐藤先生“暑いですね”と言いながら教室へ入られ次のような絵の指導をして
下さる。

- 絵を画く事によって子供は何をいわんとしているかを察する。
- 上手, 下手は2の次。
- 先生も生徒と一緒に画く。
- 絵は観察眼と心がなくてはだめ。
- 全体から部分へと画いてバランスを考える。

2時間目は片山先生の“日本語を考える”

- 助詞の使い方
 - 「に」と「へ」
 - 「に」と「を」
 - 「に」と「と」
- 漢字をとり入れたためにおこった諸問題
- 和語
- 漢語
- 外来語

以上について大変興味深く講義をされた。

3時間目の習字はAクラスのみ(私たち20人のグループはスペースの関係上10人づつAとBクラスに分れる)。

4:30分 松下村塾にて玉川大学の生徒さん達の落語を観賞させていただく。

まだ挨拶のうちから私たちは度々笑いだしとても楽しいひと時をすごす事が出来た。

小山 記

7月4日 水曜日 晴

今日は朝からとても暑かった。いよいよ夏に入ったのか、冷房の入っている電車から一步外に出たらムッとしてまるで蒸風呂にでも入ったような気持。一日中気分がすくれなかったのは私だけか知ら
...

今日初めてお習字を習った。

成宜園でたたみの部屋で過ごそかな感じだった。

石橋先生の講義の時間に

鋭きも鈍きもともに捨てがたし、

錐と槌とに使いわけなげ

という広瀬淡窓先生が作られたという歌を教えていただいたがその先生を記念して労作で作られたそりだ。

正座するのに足がしびれて大変だった。二世の人達はまるでお仕置きされているみたいと言っていた。

でも石川先生は若くてとても美しい方。

正座されている姿は感激があってとても引きつけられる、あと2回しか習えないなんてとても残念この貴重な一日一日過ぎるのがとても早く感じる……。

大天 記

7月5日 木曜日 晴

第2時限目 美術 佐藤講師 文IB102

授業の内容：

1. おもちゃとその構造を見ること。
2. 箱、紙、ビー玉、糊、セロテープなどで何か、見せていただいたおもちゃのような物を2人で工夫すること

第3時限目 - リトミック 小野講師 リトミック教室

授業の内容

1. 円から離れ、又、自分の所へスキップで戻って、2人、3人、5人組になること。
2. 1人ずつティッシュを持ち、そのティッシュを2人で持ち、色々な形を作っていく、又もとの形に戻ることに、だんだんと人数を殖やしていく、最後はみんなで大きな輪を作り、同じことを繰り返すこと。
3. 音を聞いて、それからお話を作ること。
4. 粘土遊び
ア 最初には、みんな粘土になり、先生のいわれた物になること
イ 2人ずつの組に分かれ、一人が粘土になり、もう一人がその粘土で何かを作ること。後で粘土で作られた物の展示会をやり、同じことを人を変えて繰り返すこと。
5. ジャンけん遊び、2人でじゃんけんして、又その2人が新しいじゃんけんのやり方を工夫すること。
6. 縄飛び遊び、グループに分けて、それぞれ縄飛びをし、後で大きな輪になり、組なして飛ぶ

こと。

7. 忍者遊び、私達は忍者になり、お城の中の密書を取りに行く役目である。先生は色々と私達にお城の道を案内する。それによって色々な歩き方をすること。

8. ボンキキサンバ

第4時限目 習字 A組 石川講師 成宜園

私達はB組 国立能楽堂へ行く時間までのんびりと時間を過した。

6:00時より、国立能楽堂で能楽鑑賞会が行なわれた。最初に中森唱三さんより能についての解説があった。中森さんは能の歴史について話され、「棒しばり」と「甘鄺」の内容について、話された。続いて「棒しばり」と「甘鄺」の演劇があり、その後、中森さんは又、出ていらして皆さんの質問に答えられた。

お能を見に行くのは、私には2回目なのだが、能楽堂でお能を見せていただいたのは初めてだった。600年も続いてきた日本の伝統的な演劇の一つ、「能」には能そのものの素晴らしさがあるからまだ減びていないのだと思う。なんとかして、又見に行きたいと思う。今日の能楽鑑賞会は一生涯の思い出に残ることだろう。

物部 記

7月6日 金曜日 曇

第1時限目 日本文化史 瀬山講師

日本文化史は今日はじめてなので瀬山先生は解説のような形ではじめられた。先生は本も見なくて頭の中から自然に次々と出て来る言葉で少しの時間も無駄にしないように手際よく、少しユーモアさえ交えて集中力を試されたようだ。素晴らしい講義だった。

世界の目標になっているアジア。その中の日本、単に勤勉だけでこの国が栄えて来ているとは言えない。何千年の文化、国民性があればこそ、ここまで日本は栄えて来た。しかし以前として世界の日本に対する常識はタイム誌にも載ったようにフジャマとゲイシャガールである。外国人の見た日本人論「菊と刀」にたとえられた「やさしさと闘争さ」、何か矛盾しているような気がする。私の感じ方では、菊のようなやさしさがあっても、いつそこから刀がとんで来るかわからないといった一種の無気味さではないかと思う。その事についてもっと知りたかったが、講義は進んで日本の風土が日本の文化に大きな影響を与えていること。日本人は言葉に対しても繊細であると言われ、『しぐれ、つゆ、うとうしさ、さびしさ』と並べられた言葉をセンターへかえり、ボ語辞典で見ると、場合によっては通用しても、その意味を現わす事は出来ない。日本の文化はやはり日本語でなければ伝えきれないのではないかと思う。

第2時限目 表現教育の研究 方先生

今日は集中力を養う訓練と表現力を豊かにする遊び。これはブラジルへかえってすぐ実行出来るの

で昨日のリトミックと共に生徒たちと遊ぶ日が楽しみになる。目をつぶって音を聞く(集中力)。どろぼろごっこ(表現)など、応用すればいろいろなことが出来ると思う。

第3時限目 習字 Bクラス 石川先生

今日は2回目なのでこの前の授業で解説の後一度だけ書いてみた十王を何度も何度も書く。正座をして沈黙の中でまず心を整え、「静寂を愛さなければ書道は出来ない。」と言われた石川先生の言葉をかみしめる。正座は心をひきしめ、日本的に気持を落ち着かせる。しかし私の手ははじめて筆を持って思うように動いてくれない。この時間で正座が一番好きになったのは私だけかも知れない。ということ静寂を愛することのみに私の授業は終わってしまったのでなさない。

中原 記

7月7日 土曜日 曇

今日はたなばた様、あいにくの曇天で一年に一度の逢瀬もあやういような天気、でも昨日までの暑さがうそのように、しのぎやすい日になった。

10時40分より、金平先生の近代詩歌の授業(文II 406) 初めに私たちの短歌習作のプリントをくださる。さっと読んでみると、とても皆、上手に思えた。私のも二つのっていて、ドキッとする名前は書かれてないのだけれど、誰のものか分かるのが数首あった。先生は次々添削された歌は、なるほどと合点のゆくことばかりで、添削された歌は、すっきりと気持ちがよくわかって、さすがと思う。歌には、その人の心がそれぞれはっきりと現れていて、その分恥しい気がする。まだ提出されていない先生方の歌も是非拝見いたしたいと思った。私は午後は友人宅へ、脇田さん、高市さん、太田さん、大天さん、中原さんは、大天さんの伯父様(?)のご案内で、平塚の七夕祭を見物、すばらしい色彩と手のこんだ細工、“すーごい、きれい”という感想でした。よかったですね

四方 記

7月9日 月曜日 曇のち晴

蒸し暑さはなく、しのぎやすい一日でした。冷房のきいた短大会議室での講義だったせいでしょか。

第2時限目 日本文化史は日本文化の特質としての連続性と摂取同化性につき、いろいろ例をあげながら、写真を見せてくださりながら進み、非常に興味深い講義でした。

第3時限目 習字 B組は休講でした。

石橋先生のおっしゃった教育博物資料館を訪ねましたが残念な事に臨時休館と札がかかっていたのですごすごと会議室まで帰ってまいりました。

そこには皆さん机にもたれたり、いすを並べた上に休まれています。

私も同様にしばらく眠りました。

明日も同じ時間に眠くなるのではないかと少々心配ですが……。

第4時限目は大井先生の児童心理学で社会性の発達、社会性の意義、社会性の発達を規定する要因について講義を受けました。

センターに帰りますと江崎さんが“今日からクーラーを入れます”とおっしゃり一部屋一部屋まわられお世話くださいました。

夕食の時、7月20日に日本を出発されるためセンターに入られた移住者の方々の紹介がありました。ブラジル、アルゼンチン、パラグアイに行かれるとか……。

食後それぞれの国の先生方に現地の様子など聞かれています。

冷房のきいたお部屋で宿題の習字の練習をしてから床につきました。

脇田 記

7月10日 火曜日 晴

毎朝の通園にも皆だいが慣れてきた。それもそのはず早訪日以来1ヶ月を過ぎてしまった。夢中で過した1ヶ月が懐しく思い出される。今日の第2時限目は、美術の佐藤先生、福島の方とお聞きしただけで何かしら親しさを感じさせて戴いている。絵をかく姿勢などについて。

絵 { 独創的であること — 子供のオリジナル
のびのびしていること。
自然を大切にすること

真の美術教育とは、人間の美しい心を育てる。

ラフな生活、ラフな家族関係、のびのびした子供をつくるのが先決問題である。

この様にかき方の指導よりも児童の生活指導をする。

美術は楽しいものでなくてはならない。絵を書くことを楽しみとする。

身近かなところから始まり、子供の心をひらいて行く。

教える先生になるより、育てる先生になれ！

リアリズムに入るのは10才～13才時代

グローキー } 見た第一印象を的確にかかせる。
デッサン }

この年齢に達すると間違いを指摘できるようになる。

色について

環境を最も左右するので色彩環境を良くすること。

配色の指導

物に即して覚える。理屈抜きにやる。色で遊ばせる。色彩ゲーム。

こんなもので、もっと有ったが省く事にする。第三時限目は習字、今日で3日目だが座る方はまだまだ

だ足が慣れてくれない。しかし私はこの時間が好きである。我々は日本人であるということを確認できる場である。一枚一枚に心を落ちつけ書いていく、からすがないたり、笹の葉がこする音などが学園の中とは思えない位の静かな気持ちに浸ることができる。

ひとりひとり手を取って教えて下さる石川先生には感謝の気持ちでいっぱい、第4時限目は大井先生の児童心理学、はじめはかた苦しかったか知れませんが今日は4日目なので何かうちけた感じでしたけど、今日で大井先生と終りになった、おしい、各先生方の授業時間がもう少し増やしてもらいたいと思う。帰りは弟と待ち合わせていたので皆と別れ、秋葉原の方へ買物へ行く。ちょっとした買物をしてさっと帰っても9時だった。明日も暑くなければいいがなあ。

西尾 記

7月11日 水曜日 曇のち晴

だんだん暑い夏になりましたが今日も元気よく玉川学園で勉強をしました。今日は小川先生の最後の“折り紙工作”授業でした。それぞれの先生方は一生懸命頑張りました。折り紙は美しいものであり、折るのは楽しいことです。そして又、人間の創造力を発達させるものです。私達は体験を通して創造することがどんな大事なことか大変よく分かりました。子供に対してはもっとも大切なものではないのかしらと思いました。折り紙工作は芸術活動であり創造性を養うものであり、人格を作るものであると思います。

永井千恵子先生の“幼児教育”授業も最後でした。今まで、永井先生から沢山学びましたが、今日の授業では「命を大事にすること」と教わりました。私達は帰国後、日本語学校の生徒達を一人一人大事にすること、“一人一人の命を大切に育てていく”ことが教師として一番大事な責任だと思えます。

電車でこの事についてつくづく考えながらセンターへ着きました。

小川先生、永井先生 どうもありがとうございました！

高市 記

7月12日 木曜日 曇

10:40 海外日本語教育(上原先生)

一週間前から期待していた海外日本語教育の授業が上原先生の急な用事により休講になりました。その代り事業団の鶴木さんが見えたので今までの印象や出身地研修計画について話してもらいました。

13:00 児童音楽(朝日先生)

事務の方達の手違いで教室が変更になり音楽の時間が少なくなってしまいました。

音楽は人間の純粋なものを呼び覚ます作用をする。

- 感性を養おうと言う事が大切、感覚で音楽のすばらしさを教える事。
- おんちの子供は大きな声で歌うと直る。そのために遊び歌が必要。
- 正しく歌うのも大事だけど精一杯表現する事がもっと大事と言う。

歌遊びを楽しくやりました。こんな楽しい時間ももっとあればいいと思いました。

14:20 現地授業の研究(正善先生)

- 日本語の教え方は各国、各学校によって違い、みんなのを参考にして自分の学校に一番適切なカリキュラムを作り上げる。
- 今勉強しているのはすぐに役にたたないかもしれないがその基礎を取り入れ是非生かすようにする事。生かし方は自分自身が創造していく、そうするとすばらしいカリキュラムが吹き上がると話して下さった。

最後に私達は是非と希望したよう曲の高砂の練習をして下さった。

今日の一日は早く過ぎた感じがする。

大田 記

7月13日 金曜日 曇り時々晴

2時限 日本文化史 瀬山先生

3時限 体操 中山先生

4時限 表現教育の研究 方先生

明け方ドシャ降りだった雨もセンターを出る時は止み、13日の金曜日 dia de suerte (ディア・デ・スエルテ) 幸運の日ですと言いながら出発。皆さん毎日の通学に慣れました。

ヨタヨタ・ドキドキ始まった第1期の研修もあと一週間足らず、最初の授業では「何をやらされているやら…? /」と見当もつかめなかった(私だけでしょうかこんな気持) リトミック、美術、表現教育 etc …。でも今まで何? と思っていた実習の意図が見えてきた、おそまきながらも。

これからもたとえ授業はなくとも、各国に帰っても勉強、研究を続け生徒の為に頭張り、この研修を無駄にはしたくない。それにしても日一日と玉川学園のすばらしさ、先生方のすばらしさに頭が下がる思い、人格的にも授業運びの上手なテクニックにも、夜ノートを整理しながら、先生方の授業運び、内容を思い出しながら、自分はいつそうなるのだろうと考え込んでしまう。とに角一生懸命頑張って、たとえ $\frac{1}{4}$ 歩でも玉川の先生方に近ずきたい(精神的にも)と願うだけ。

明日は鎌倉へ。今日瀬山先生の授業で勉強した仏教文化を思い浮かべながら、有意義なツアーにしたい。(明日はどうか良いお天気でありますように)

夕食の後8時から伊豆長岡での余興のための踊りの練習。少々私は出過ぎた感じだが皆さん一生懸命練習して下さい。どうもありがとう、そしてお疲れ様、でも団長さんは具合が悪かったのかナ。

御一人だけあまりのっていない感じでしたが。

具志堅 記

7月14日 土曜日 晴

鎌倉ツアー

よいお天気に恵まれ全員元気で出発

瀬山先生の説明で5ヶ所見学

- 1) 瑞鹿山円覚寺
- 2) 鎌倉観音霊場(あじさい寺)
- 3) 鎌倉建長寺
- 4) 鎌倉大仏
- 5) 海光慈照院長谷寺(長谷観音)

昼食 鶴ヶ岡会館 2テーブルで美味を頂く

久しぶりに歩いたので帰りは大変疲れました。

日本文化の美しさに目を開き大変勉強になりました。

4時30分に大船駅で先生にお礼を言って帰る。

センター 9:30分集合

9:40分出発

9:40分北鎌倉着 少し遅れ、先生に御迷惑をおかけ致しました。

筒井 記

7月15日 日曜日 午前中降ったり止んだり、夕刻より晴れる

昨夕は、日本に来て以来はじめて、きれいに晴れ上がり17日目の月が美しく輝いていたのに、明け方よりはげしい雨。

今日はお盆の中日。墓参はかなわぬので、また実家に線香をあげに行く。10年前に一家で里帰りをした時は、いそいそと句会に伴ってくれ滞在の間中、心楽しそうに俳句のよもやま話をしてくれたやさしい義父の位はいの前に座すとき、不思議と心が澄み、昨日の鎌倉ツアーの余韻のせいか、彼岸の世界のことが思われた。線香のけむりが静かにゆらめき、心にしみ入る。

センターに帰ってみれば部屋の中は、うっすらとほこりに包まれたよう。着がえる前にクリーナーをかけ、バケツになみなみと水を充たし掃除をする。311、313、315、317の部屋にもいよいよクーラーが入るのだ。これで夜半窓外のけたたましい物音に眠りを破られるいら立ちから開放されるのだと思うとほっとする。御配慮下さいましたJICAの皆様心から感謝する。

鈴木 記

7月16日 月曜日 晴 つゆ明け

2時限 海外日本語教育 上原先生

3 " 体操 永井先生

4 " 習字 A組 石川先生

上原先生の講義

要約:

日本語教育は地球的規模で考えなくてはならない時期に来ている。

つまりそれは日本人の血を持った者が移住するからである。ことばの問題は血の問題である。

例えば、どうして日本語を習う。教える。又研修に日本迄来た。など。その最大の要因は日系であると言う事、血がそうさせるのである。日本人として日本語が一番良く感じるからである。

但し、先生の日本語教育(私達がやっている?)は移住の意識があつて移住者の子弟に丈に限って行われるべきだろう。(玉川の方針として)、又この教育方法では都会ではだめだろう。などの先生の結論。未だ未だ突込んでお聞きする必要があると思う。又それに対してはいかなる方法をとるべきか。これからお話があると思うが今日の所は納得しかねる。

永井先生の体操、主に幼児向けで布を持っての教育、遊びの中でリズム感、反射神経、協調感などを養う指導で大変興味深いものだった。

最後の石川先生のA組の習字沐、風の練習と作品の鑑賞のし方についてのお話があった。終了は5時半だったが初歩的な書き方などもシェロックス取ってお渡し下され、先生の御誠意、思いやりなどがとても嬉しく感じられた。見る所昔の習字の上達も著しい様だ。

夜8時より9時10分迄ダンスと歌の練習、その賑やかなこと、ダンス大部整って来たようだ。

宇都 記

7月17日 火曜日 晴

一昨日夕刻より晴れ模様で気分良好だが、蒸し暑いのに一寸閉口

2時限 体操 古谷先生

○音楽のリズムに乗っての動作

(但、これだけではピンッとしたきまりがないのでこの点に注意)

○感覚という点に留意したい

○暑さも忘れて一同笑いの中に真剣に取り組む

○終了間近になり全員にアイスクリームを御馳走して下さる。

先生の真情、うれしく戴く、何ともいえぬ美味しさだった、深謝

3時限 児童音楽 朝日先生

二部合唱、四声輪唱

音楽の好きでない私さえも精神を集中、曲がりなりにも頑張った。教える先生によることを痛感、最後の「十五夜の餅つき」は特に楽しかった。

4時限 習字 石川先生

B組のみ

午後8時より9時迄 歌、踊りの練習

(但し私は丁度その時間に思いがけない面会人で欠席)

近藤 記

7月18日 水曜日 晴時々くもり

2～3時限 海外日本語教育 上原先生

上原先生の御説は、2年前の研修OBの先生からお聞きした事があり、特に感覚的音声言語としての日本語教授論に、新鮮な感動を覚えたものでした。

今回、直接御講義をお聞きしているうちに、自分の学校の生徒達の作文が、もうひとつ情感に乏しい理由が、我々の解釈中心、説教型の国語授業に原因が在るのだなと悟られました。

短歌の練習を通して、私は、やまとこととの奥ゆかしさを再認識させられたのですが、上原先生の御講義で、その認識を一層強くした次第でした。

魂	大		大	し
ゆ	和		和	き
す	の	と	の	し
る	民	こ	こ	ま
ら	の	と	と	の
む		わ	の	
		に	は	

本日、全研修生の部屋にクーラーが入りました。何から何まで、色々とお心を配って頂きまして、本当にありがとうございます。

佐藤 記

7月19日 木曜日 雨のち曇ときどき晴

今日は第1期最後の授業だ。昨夜から降り続いた雨も登校時には上がり、気温も午前10時で26度、涼しい1日になりそうだ。

第1時限は、昨日に続いて上原先生の海外日本語教育、

海外に於ける日本語指導の方法として、まず日本のことばは日本の自然現象から生まれたものである。それを感覚としてとらえ、更に生活形式の基本態度を学ばせていく時、ことばは獲得されていくものであると、つまり文字指導に先行して生活基本感覚から湧き出た例の音声教育から、指導していかなければならないという例を上げて御指導下さった。

その後、上原先生専門の音声学の上から、場所をL11教室に移し、無秩序にたてに配列されたひらがなが予め用意されており、それを一同一斉に録音して今日の授業を終える。これは海外に在住している人の日本語の発音について国内の人と、どう違うかということについて研究されたいとの事であった。その他の事も含まれるとは思うが。

午後は神田本屋街ツアーで、玉川の駅を12時54分発の新宿行に乗る様にと吉成さんより連絡があった為、第1時限が終わったのが12時20分で、皆大急ぎで昼食をとり、女性の先生等は、長足?をできる限り早く回転させて、私等は熱いカレーを食べた為全身汗びしょりになって、ホームに滑り込みセーフ、駅には既に地主さんがお待ち下さっており、三省堂の営業課長の引率をうけて一同三省堂に向かった。

三省堂では、本店長の挨拶を頂いて、その後それぞれ求められる先生は求めて解散をした。

第1期が今日で終わったのだけれども、日一日と玉川学園のすばらしさ、先生方のすばらしさに引き付けられる思いがする。

ツアー、第2期も頑張るぞー

今日一日、皆様御苦労様でした。

藤野 記

7月20日 金曜日 曇後小雨

10:40分短大会議室に集合し、第II期の入塾の為の説明をきく。そして、通大出納課に赴いて、各々入塾費69,800円を支払った。

これで第I期は完了した。

午後からは第II期との2日半の休日を利用して、半数が地方へ出向いて行き、センターは寂しかった。

山下公園で花火大会があり、お留守番組は花火を見に出かけた。

しかし、これから夏本番であり、そして研修の戦いの山場である。

江上 記

7月21日 土曜日 曇小雨

久しぶりの休日を利用して、レジストロ市長の親書を持って中津川市へ行く。中津川駅で市役所の方々の出迎えを受け市役所へ直行。市長、市会議長、中学校長、中学生徒達と会見し、両市長の親書交換、色々姉妹提携の事、ブラジルの事、話題となる。

要は折角出来た“きずな”をいつまでも大切に交流したいとの事である。

豪華な昼食を皆様と共に頂き、姉妹提携のたどった道等色々思い出話にはながさく、ピフテキの厚かったのが意外であった。

3期連続市長とは、ブラジルでは考えられない事である。皆んなの話し合いが和気あいあいというムードが印象的であった。

昼食後、市内各所見学、記念撮影、私の為に市長他多数貴重な時間をさいて下さった事誠に感謝に絶えない気持である。

15時30分に別れをつけ夕方東京着

馬場 記

7月23日 月曜日 晴

I 帰国日程についての説明会 午後10時より移住センター

II 玉川通大スクーリング参加の為入塾 午後4時より受付

I 説明会

センターは4階会議室に旅行中の先生を除きほぼ集まったところで説明会が始められる。

研修生を成田まで出迎えて下さった加藤様が旅行者の方を伴っておいでになる。

先に加藤様からお話を伺う。スクーリングに入る前に全員の帰国予定を確認し、航空券の手配をして下さるという事で、各自が希望する日を申し出る。できれば地域別にまとまっていくのが望ましいとの事 一行大勢のブラジル組は7月14日帰国を希望の先生が多い。

一応個人別に旅行者の方とお話し、予定日を控えて貰う。

II 入塾

入塾受付は午後4時に始まるのだが、混雑するので研修生は早目に通大事務局へ行く様にと通達があった事を江上団長から知らされる。

それぞれ昼食をとり荷物をまとめて玉川学園に向かう。荷物が大きいので電車の乗り換えや階段が大変。やっと学園にたどり着くが、通大事務局の前には先着の人達が大勢並んで待っている。その顔ぶれは、はつらつとした若者ばかりで中年組の私達はついて行けるのだろうかと不安がよぎる。

全員受付を済ませ指定された塾へ行き塾名が記入された名札を受け取り、敷布団、シーツ、上掛け、枕等を貰って部屋に入る。

塾名と部屋割り

男子	梁山塾	101号室	近藤,	藤野
		102 "	宇都,	佐藤
		202 "	馬場,	江上
女子	龍胆塾	202 "	四方,	脇田
		203 "	坂野,	大山
		206 "	具志堅,	大田
		210 "	西尾,	高市
		211 "	中原,	物部
		214 "	鈴木,	筒井
		306 "	小山,	大天

大山 記

7月24日 火曜日 晴れ蒸し暑さひとしお

玉川通信大学夏期 schooling 入塾番一夜が明ける。

今迄の横浜移住センターとは違い各々中南米2人組に日本全国から集まった通大生2人がルームメイトとなり嬉しい対面をする。

・朝9時よりオリエンテーション(大体育館)

私達は既にこのオリエンテーションは受講済み、でも熱心な数人の先生は又行った方もあるとか……。

・11時より入学式、開講式が挙行される

玉川大学のオーケストラ、合唱団によるベートーベン第9“歓喜の歌”に始まり数千人に及ぶ通大生が一同に会したのは感激的であった。小原哲郎学長の御言葉の中で問題多き現代にあって“待たれる教師たれ”の言葉を胸にきざむ。

私達は2階一列目にまとまって席を取り感動的な通大入学への喜びと決意を新たにす。

昼食後は集団生活を長くする為健康管理と公衆衛生上全員レントゲンの撮影を実施する。場所は大体育館。

レントゲン撮影終了後は夕食まで、自由時間となり思い思いに過ごす。

6時より塾生全員が食堂に集合し楽しい会食をする。これが又独特の雰囲気の中で“ひとつ釜のめし”を食べる親密感に浸り乍ら塾生としての喜びと決意を再確認する。

和気あいあいの中、7時よりその場で塾オリエンテーションが行われた。各塾の舎館先生、その他塾生の中よりお世話係り等が紹介される。各々がこれから3週間の塾生活への期待と不安、喜びに浸る。

各塾に帰り、夜10時、又全員が集まって自己紹介をする。全国津々浦々、沖縄から北海道まで、そして私達中南米、カナダ組という顔ぶれに一樣に皆驚く。

沢山のことが一度に過ぎて行った塾生活第一日目が夜11時半無事終了する。

りんどう塾にて ばんの 記

7月25日 水曜日 晴

スリーリングのための塾生活は今日で3日目。朝はドーンドーンという大鼓の音とともに6時起床。聖山礼拝、体操とつづき強行軍。朝食は今日は純日本式。ここの食事は栄養満点だと思う。食事がすむとお掃除が始まる。各室にそれぞれ当番があり、私達の室は洗面所のお掃除であった。

8:40分、国語専の授業にすべりこみセーフ。授業中眠気がでて困った。私だけかと思ったら半数位時々、コックリ、コックリとやっていた。やはり皆さん大変なのだなあとと思う。

午後は絵画製作の授業だった。半分以上の時間を“人間教育”“人間にとって真の救いは何か”と先生ご自身の体験をまじえて語られた。とても心うたれるお話だった。

夕食は会食、歌をうたった後、「いただきまーす」と威勢のいい声があがる。

同室の谷沢さんは入塾何回目かのベテラン。とても良く気がつき明るい人。

夜、何かしようと思ったがつかれてしまってどうしようもない。

明日も早い おやすみなさい

小山 記

7月26日 木曜日 晴

昨夜はとても蒸し暑く扇風機が回っているのに汗が流れる…?ほどだった。寝苦しかったせいか、年のせいか南米組は、今日は疲れた顔が多かった。女学生さん達はさすがに若いせいかハツラツとさされている方が多い。

6時の大鼓の音で皆準備をし、6時半に聖山礼拝に行き、礼拝がすんだら運動場に急いで行き、体操をしてから塾食堂に行き、愛吟集からいくつか歌を歌ってから朝食が始まる。

塾に帰ったら各部屋のお掃除と、当番で当たった所のお掃除をしてから、8時半からの講義に間に合うように急いで行く。授業は途中10分間の休みがあり11時半に終り、すぐ食堂に行き食べ終わったら次の授業は12時半から……。

3時限目が終るのが5時。

夕食は会食の時は6時半からで食事の前後に必ず愛吟集の中の歌を歌うのだが、知らない歌ばかり。でも音楽一般を3時限目に取っているせいもあるが、毎日こんなに大声で歌えるなんて幸せ、出ない声まで引き出されるみたいです。

今日は夕食後塾責任者の米山先生が、塾の心得や玉川学園の塾に入ると言う事は、奥座敷に入ったのと同じで、大切な物がふんだんに見れるから心して見るようにと教えられた。

最後に広瀬淡窓の詩吟を説明され、その後、朗々と歌って下さった。(食後話し続けた後で声が出

ませんが)と言われたが聞いている内に涙が出て来た。

疲れたが有意義な一日だった。

大天 記

7月27日 金曜日 曇り後晴れ後曇り

今日は午前6時より、「学内避難訓練」を行なった。それは、地震、火災の非常事態に備え、万一の災害発生時に於いて塾生を安全かつ迅速に避難させる為の訓練だった。男子はスラックス、女子はジャージを履き、実際に火事が起ったように「ただ今、日番室で火災が発生しました。塾生はただちに避難して下さい」との非常放送を聞き、タオルで口を塞ぎながら非常階段を通過して小学部のグラウンドへ向かった。そこには、あちらこちらの塾生が集まっており、保安管理課警備員の方に、「講評及び防災について」の説明をして頂いた。6:45分、「講評及び防災についての説明が終わり、みんな揃って、塾食堂に集まり、愛吟集の歌を2曲ぐらい歌って朝食を食べた。

7:15分みんなそれぞれ塾の部屋に戻り当番をした。私の第1時限目の授業は上原先生の国語教材研究だったので文学部第二校舎へ向かった。道では中南米組の先生方と会い、色々と塾生活についてのお話をしながら歩いていった。みんな塾生に負けないよう毎日の疲れを忘れて、頑張っているようだった。

11:30分、1時限目の授業が終わり、塾食堂で貴重な1時間の休みを利用し、食事をしながら、外の先生方と朝の授業について色々と話し合った。

12:30分の授業は、大竹先生の教育心理学、そして15:40分の授業は迫先生の音楽(一般)であった。あちらこちらと走り回っているうちに一日の授業が終わりとなった。

18:30分から19:30分までの時間は、会食の時間で塾生全員集まり、みんなで歌を歌って食事をした。会食後、中南米組は食堂に残り、久しぶりの会合を行なった。

部長さんより、私達に関するお知らせがあった。それは

1. 1日の東京ツアーの出発と帰塾時間(8:30分~18:00分)
2. 労作の日とその時間~8月6日(習字の時のA組17:20分~18:20分)
8月10日(" B組 " ")

場 所 - 工学部の玄関の前

3. スクーリングの科目を変えたい人は藤野先生へ知らせること
4. 古谷先生がおっしゃっていたスポーツ用具を買い求めたい人は藤野先生へ知らせること
5. 正善先生の短歌を渡していない人は早目に渡すこと
6. 伊豆長岡への旅行は小田原へ直接行くこと
7. スクーリングのレポートは、書きたい人は書いて土曜日(7月28日)に出すこと

まだ色々とお話があったのだが明日の聖山礼拝の時間に間に合うよう、会合を早く閉会した。

7月28日 土曜日 曇り後雨

1時限目 国語教材研究 上原先生

国語教育の在り方は、どうあらねばならないのか。現在の国語教育を鋭い目で批判しながら、日本及び中南米の例を出し、教育者の痛いところをつかれたと思う。学校の文集作りなどは、気休めになっているだけと言われたが、実際、父兄を意識せずにただ子供の為に、外観よりも内容を考える本当の教育者は果して何人いるのだろうか。ボランティアにしても、本当に自己満足でなく自分を捨てても人の為に尽すと言う人が何人いるのだろうか。平和だからこそ与えているのであって、危機一発の時には、人を差し置いて自分が助かるうとする。上原先生はそれを戦時中に経験されたので、また病気の為、生死の境をさまよわれたとのこと、本当に人間の侘しさ、哀しさを知りつくされたという感じで聞いていて涙が出て来そうになるようなことを先生はたんと語られる。

2時限目 国語(専) 大熊先生

2時限目は、大熊先生の「国語(専)」だ。

宿題は文章の作り方で、テーマは「自己紹介」だ。

昨日の御注意を思い出しながら、昨夜は何回も書いては消し、破れては書き直しといった状態だった。

また、辞典を見ては漢字を直していたので真夜中までかかって、やっと出来上がった原稿だ。

原稿を持って少し離れた工学部へと走る。

途中で雨が降って来たが、それでも教室の中は暑い。学生たちは赤い顔をして汗をふいている。大熊先生も時々、顔を伝って流れる汗をぬぐっては授業を続けられる。そして、スピーチをする時の注意を細かいところまで説明される。聞く人の身になって話すことが大切であることが感じられた。

4人ずつグループになって、一人がスピーチをし、3人が評価をすることになる。

中南米の研修生で、この科目を選んだのは、四方さん(ブラグアイ)、脇田さん(アルゼンチン)、西尾さん(ドミニカ)と、私の4人なので、なるべく一緒にと思っていたのに大熊先生は、私たちを別々にし、一人ずつ日本の通大生の中に入れられた。

私に対する評価は、主題が「A」、材料-「A」、構成-「A」、語句-「A」、音声-「B」、身体「B」で、全体としては「A」

大熊先生はご自分でも「スピーチの点は甘くしても、漢字にはうるさいですよ。」と言われ、書き方に対しては厳しく、赤い線をチェックしたところを「明日までに全部漢字に直して来るように。」と言われた。あれだけ直しても、まだまだ漢字に直せるところはあった。

清書の時、もっと辞書を引いたら、漢字をもう少し多く書けたはずなのに、心残りのまま提出してしまい、先生には「辞書ぐらい引いて来て下さいよ。」と言われた。

先生の目には、その原稿は辞典も引かずに書いたものとしか映らなかったのだと思う。

大学の先生にして見れば、あまりにも幼稚で、下手な字の原稿は漢字も少なく、どうも本気で取り

組んでいないらしいと思われたのだろう。

3時限目は、小宮路先生の音楽だが、休講となっていたので空き時間を利用するため塾へと急ぐ。雨は止んでいて、今日も暑く、また蒸し返すようだった。

中原 記

7月29日 日曜日 晴

入塾してから初めての休日、ゆっくり朝寝をと思っても習慣がもうついたのか、6時には目がパチリとさめる。聖山礼拝はないので朝食までゆっくりした気分だ。

朝食も自由食で、塾に残っている先生方と久しぶりに話をしながら食事をした。火曜日から今日まで、受講科目が同じ方たちには、いつも会えるけど同じ科目を受けていない先生方とはせいぜい道ですれちがうぐらいで淋しい気がする。

昼食までの時間は、復習や予習しておしゃべりとなんだかセンターに帰った気分、横浜のセンターにも、何人も帰られた様子、昼前に友人に電話したら、「パラグアイの人が、ちゃんとユニフォームを着て、オリンピックに行ってるわよ」というので、びっくり。

オリンピックの開催日も忘れていたなんてパラグアイよりひどい感じ(パラグアイでだって、ちゃんとユニフォームぐらい作れますよね)

昼食後、兄の家へゆき、オリンピックのダイジエスト番組を見る、入場行進でParaguayはcutされていて、がっかり、NHKの夜の放送のビデオ録画を頼んで帰塾、明日からの大忙しの生活のため今日は早く休むつもり。

四方 記

7月30日 月曜日 晴

朝6時起床の放送が各部屋に流れました。"¡Buenos Días, Es la hora 6:00. Todos a levantarse por favor. Muchos Gracias" あっと思ひ急に懐しさがこみあげてきました。春子先生すてきな放送ありがとう!!

6時35分聖山にて礼拝、賛美歌は祈禱と送別旅行でした。どうして送別旅行の歌を歌うのだろうと思いつつ階段を降りていると鈴木先生日曜日は試験日で礼拝がないから1期で帰郷される人のために歌ったのね”

朝食後近畿ブロックの支部長さんに紹介され挨拶をする。

8時40分より文学部第1教室400で上原先生の国語教材研究の講義が始まりました。“真の教師とは……。誠の教育とは……。本当に子供達のことを考え、子供達のための教育をしてほしい”という先生の願いがことばの端々に感じとられとても感銘深い講義をしてくださいます。

本日は国語教材演習ということで1人1人学生を指名して対応していただきました。子供を伸ばす

のも伸ばさないのもテーマのきめかただといわれ、授業のテーマをきめるのもよくよく考えなければならぬことだと思いました。

最後に国語教育とは思考、感情、構え、用具言語作用を取り扱うものであるということをおいれました。

II時限目は国語専大熊先生の講義です。例によって標準字体の漢字のテスト、はねや点の角度等まで注意して書かねばならず大変神経を使います。しかしプロは知っておかねばならぬことでその採点のきびしいほど後で感謝されるのだそうです。採点は昨日自己紹介のレポートを提出しなかった学生のスピーチがあり、全員で採点をする。

III時限は音楽一般、千葉先生にかわり小宮路先生、とてもやさしくかつエネルギーが豊富な講義でした。力いっぱい歌い、力いっぱい踊りました。大変楽しく印象深い講義でした。

脇田 記

7月31日 火曜日

入塾10日近くも経つと、朝6時の起床の放送などの必要も無く無事起きている様子。今朝は礼拝は無く会食だけ、今日は通大生の第一期末の試験なのだ。皆良く勉強した後がはっきり見られた。私達は残念ながら試験は受けられない。(玉川大学のせいではないのです。私達の準備ができていないからです。)早い朝食を済ませ、室の掃除をしてから授業へ向かう。

文二の前の夾竹桃は大変美しく、我々の目を楽しませてくれるのは良いが、一番暑い所でもある。今日の上原先生の授業は文二502に変更になった。4人の著名のある方々が集まり、「これからの国語教育はこれでよいか」についてのシンポジウム。大変むづかしい内容であったが、納得できる部分も多かった。1時間余にわたるビデオを終り、その後期末試験。例によって我々はサット立って先生と御一緒にお写真をお願いし、満足して帰る。久しぶりにひまが出来たので休むことにしました。

第二次限目は私は休んでしまった。心苦しかったが体には替えられぬと思い休む事にした。最近疲れがひどい。足のむくみもちっとも良くならないし。三次限目出席することにした。音楽の時間が一番リラックスできる時間だ。夕食後、踊りの練習をするとかで集まったのだが、連絡事項など2、3して解散。我々研修生はもっと団結しなければならない。今の日々はとり戻す事のできない貴重な毎日なのである。一人一人の力で、研修生一同悔いの無い研修を、そして生活をしたものだと思う。皆の力でそれは成し遂げる事は可能だと思う。それが我々の義務でもあると思います。昼食の時のなどやかなひとときの様にきっとできると思います。今は皆にとって一番苦しい時でも有ると思います。そろそろ疲れもで始めたし、3次限びっしりの授業には慣れていないし、しかし若い通大生を見習いなんとか切り抜けようではありませんか。

西尾 記

8月1日 水曜日 晴

相変わらず、今日も大変暑い日でした。

今日は東京ツアーに行きました。(玉川大学で夏期スクーリングのII・III期出席者オリエンテーションのため、私達はお休みがとれました。)

8時30分、玉川を出発、新宿から「はとバス」に乗り、次のコースを廻りました。

1. 靖国神社
2. 浅草寺
3. 東京タワー(展望台から東京をながめると、朝日先生が教えて下さった“…街は大きくなりすぎた空も土もない…”の歌が思い浮びました)。
4. 明治神宮
5. NHK放送センター見学

かわいい、若いガイドさんがいろいろと説明をしてくれました。夏期スクーリングが始まってから、それぞれの先生方は忙しく別々な講義を受けられますので全員集まることが出来ませんでした。今日はお久しぶりの中南米の先生がまた一緒になりました。この旅ではブラジルからいらしています Lafayete I. Salimon 様と4月から玉川で研修なさっている永山礼子さん(ブラジル)と中野文子さん(アルゼンチン)もご一緒にツアーをしました。18時30分、玉川学園へ無事に着きました。残念ながら佐藤先生と中原先生が参加出来ませんでした。

今夜は学校劇夏期大学の準備……

高市 記

8月2日 木曜日 晴

今日は張り切って5時に起きた。いい天気の子供だけでなく今日から中南米日語教師研修生は2泊3日の伊豆長岡での学校劇夏期大学に出席するために行く。8時までに聖山礼拝、会食、掃除をすませみんな重たそうな荷物を持って玉川を出発した。

9時近く町田駅のホームで金平先生とお会いし、ご一緒に伊豆長岡へ向う。小田原の駅で駅弁を買い、急行踊り子号の列車に乗った。

11時40分長岡ホテルに着き、受け付けにて支払いをすませ、それぞれの部屋に入る。連絡がたりなかったためかほとんどの者がお金を充分持たなかったのが急いで銀行へ金をおろしに行く先生もいるし、他の先生方から借りる先生もいた。私も具志堅先生からお金を借りた。そういう時は友達と言うのはとても助かる。一時まで自由時間になっていたので自分の部屋で休む人もいるしホテルの回りを散歩する人もいた。

1時 第32回学校劇夏期大学開会

学校劇の会長や事務長からのごあいさつがあった。

1時40分から5時まで各分科会が始まる。私は近藤先生と鈴木先生と一緒に朗読演習の教室へ向う。今日は声の調律のための体のリラックスや鍛練をやった。

5時半から6時まで夕食、100人以上の先生がそろって夕食をとる。日語教師の先生方も皆一緒なのでなんとなくセンターにもどった感じがする。玉川の熱に入ってからもう一週間半にもなり皆だんだん慣れて来ているそうですが私は6時半になるといつもこの時間にはもうセンターに帰っているのだと思いながら時々センターが恋しくなる。

7時から9時まで「北から南から」と言う面白い自己紹介を全員参加でショー的にやった。同室の者が(4人)一緒に成ってミュージック、パントマイム、まんざいなどを利用して自己紹介をするようにと言われ、たった30分で考えて工夫するのはなかなかむずかしい。けれどもみんなよく出た。9時頃解散になりほとんどがホテルの温泉に入る。各部屋4人で泊まり、2人はベッド、2人はたたみに寝る事になっている。ペルーに帰ったらめったにたたみでねられないと言われ具志堅先生と私はたたみにねる事にした。

今日はとても楽しい一日でした。学校劇夏期大学の皆校どうもありがとうございました。

大田 記

8月3日 金曜日 晴

今朝は長岡で初めての朝、7時半、大宴会場で朝食、玉川での会食よりはリラックスして食べる。可愛いおひつから一人ずつ御飯を感るのが気に入った。

9時から各分科会にわかれて講習。各分科会とも実習があり楽しそうに和気あいあいという感じ。

12時45分、昼食のあと大川大学の学生達による朗読劇の実演、あまりのすばらしさ、楽しさに学校劇夏期大学出席者一同、かたず?を飲んで観賞、改めて玉川っ子ってすてき、玉川学園とてもすばらしい。そしてそこで講義を受けられる身に感謝する。

3時からA~Fまでグループに分けられて即興劇実習、各グループにあてられたテーマで色々な話しに発展、進展、脱線しながら一つの起承転結の劇にまとめるわけ。

さて夕食もそこそこ7時からキャンプファイヤー(実際はキャンドルファイヤー)、そして待望の即興劇発表。一人の落ちこぼれもなく全員参加、本邦研修生達も全国から集まった先生方と混って大活躍、観る人達も演じている人達も楽しくてゆかいで、笑いながら時間が過ぎた。この雰囲気は参加した人じゃなきゃとても私の筆などでは書き表わせないほど楽しくて、すばらしかった。若いも若きも日本人も日系人ものりによって劇に役頭、本当にすばらしい思い出になることだろう。キャンプ(キャンドル)ファイヤーで終了のあとは部屋を替えてのコンパ。飲み物は少々だったがダンスと唄と踊り(日本舞踊?)馬鹿騒ぎに又もや役頭、最後は花祭り(アルゼンチン民謡)でさようなら。各自部屋に戻ったのが10時半すぎ、今日は楽しすぎて疲れた感じ、でもとてもとても幸せな一日でした。

明日は俳優座の加藤剛さんの『稽古の実際』-人間力と演技力-の講演がある。楽しみにして今夜

はもう眠いから寝るとするか、現在4日午前1時です。……ネムーイ、ネムーイ、おやすみ……

追記：今日現在ロスのオリンピックで二つの金メダル、日本頑張れ！

具志堅美智子 記

8月4日 土曜日 晴たり曇ったり

学校劇夏期大会の3日目

7時30分より朝食を全員で頂く、その後荷物整理して大宴会場に集合する。

9時より 劇団俳優座・俳優加藤剛氏の講演、人間力と演技力、並びに稽古の実際並びに御夫婦で朗読される。いくつかの演技もまじえて、目的、行動、集中などの練習、最後に劇あそびで賞を頂いた方、藤野先生、中原先生、江上先生、物部先生
ブラジル4名が加藤剛氏の出版本サイン入を本人より拍手をかわし頂いた。全員感激の一時を過ぎた。

11時より 本年度のまとめ、別れの集い

全員で円を組み、なごりおしみ夏期大学の歌を合唱、その後、別れのジュブレヒコール版49までを告げる。肩をくみ今日の日はさようならを歌った。
閉会。

1時 長岡ホテルのバスにて駅に出発

1時50分 発→玉川学園着 夕方元気で全員帰りつく。又外泊するものもいた、たくさんの表現教育を学び胸はちきれるばかりに全員喜んでいました。そして仲間たちとなごりおしみながら来年あえる日までと約束をかわし別れた。

筒井 記

8月5日 日曜日 快晴

玉川の塾でむかえたはじめての日曜日、外泊者の札がズラリと並び宿舍全体がひっそりと静まりかえっている。

早朝からセミの声がしげく、いよいよ盛夏という感が強い。8時一寸すぎ、もうすっかりガラ空きだろうと食堂に行く。おどろくながれ、ズラリと並んでいるではないか、皆、考えることは同じらしい。ゆっくりと朝食を済ませ、食堂を出ればすでにギラギラと太陽は中天にかかり、一日の暑さを約束するごとし。

11時すぎ、東林間に住む学生時代の友人をたずねる。10年の空白が一気に消え、大いに旧交をあたためる。車で送られて宿舍に帰る頃には半月がかり、どこかで上げる花火の音だろうか。時おり夜空にポーンとひびいていた。

明日から又、スクーリングだ。しっかりやろう。馬追いが鳴き出した。秋の足音が早くも、ひそか

にしのびよって来ているのだろう。

鈴木 記

8月6日 月曜日 晴

午前5時55分 起床

＊ 6時15分 聖山集合 労作

＊ 7時20分 会食

1時限 8:40 文I400 日本教育史 多田先生

2 ＊ 12:30 工学部421 児童心理学 日名子先生

3 ＊ 15:40 文I400 音楽(一般)

今日から再びスクーリングに入る。皆又新しい意気込みで授業に臨んでいる筈だ。中南米日語教師だけの時と違い講義は難しい感、他の先生方は如何に感じているかは疑問だが。蒸し暑い中を各々頑張っている様子、17:20より工学部前集合(A組)、労作に汗を流す。気分爽快と言いつついけれど一寸疲れ気味。後10日間何とか頑張れば……

近藤 記

8月7日 火曜日 晴(薄曇り)

6時起床

6時30分 聖山集合

6時50分 体操 7時 会食

8時40分より各時のスケジュールに入る

終日気温35℃。蒸し暑くて大変だが皆頑張っておられる様子。特に200名ぐらいは入っているような教室(私の児童心理学や道徳教育などがそうだが)教室の真中など37.8℃もなり先生方もさぞ大変なのは。

3時限の音楽一般小宮路先生だが、先生の卓越した技量に引かれてかモグリも多らしく満席で先生自身いいんですよと寛大な所を見せておられた。

夜、予定では自由食だったが二期で帰られる人達の為にお別れの会食となる。特に大きなエビやビールなどが付き皆御満悦、又音楽などが入り楽しい一時を過ごす。

中南米教師一同も立上り藤野先生が代表で御挨拶して下さい。

最後に一人一人小さなローソクを持ち消燈して別れの歌を合唱して別れをおしむ。

8時30分会食を終り、それからダンスパーティ、フォークダンスなどで楽しい一時を過ごし9時30分終了。

宇都 記

8月8日 水曜日 うすぐもり

久しぶりに青空の見えない1日だったが、風もなく蒸し暑かった。

6:00 起床

6:30 聖山集合・礼拝

6:50 体操

7:00 会食

8:40 ~各日受講

通大スターリング第2期終了と同時に退寮する予定の寮生が荷物の整理を始めたり、明日から始まる2期末の試験のことやで、塾の中はあわただしくも緊迫した雰囲気になって来た。その中で、ノンビリムードは中南米組のお歴々。

1時限は音楽(専)。待望のオルガン練習のバイエル15番まで進んだ。学校劇夏期大学に参加した為、最初の3回のレッスンを受け損ねたのだが、塾食堂のピアノで自主トレーニングをしておいたおかげで、初めてのきょうもどうにかついて行くことができた。

2時限は図画工作(専)。本日は染織の2時間目。しぼり染めの糸通しに時間を食う。こういう手間のかかることに、無心に打ち込めるだけの心というものに思いをめぐらせ乍ら、製作を楽しんだ。大天先生も大作をモノしそうでした。

佐藤 記

8月9日 木曜日 快晴

暑い! 日本の夏は実に蒸し暑い。

15年間、アマゾンのあの草木も焦げる程のお天とう様の強烈な日差しを脳天に受けて、なにこれ位と、たかを括っていた小生もこの2、3日の蒸し暑さには少々へこたれ気味だ。

水銀柱も起床太鼓頃には26度と、そして1時限頃には既に28度までかけ上り、誠に頭張っていらっしやる。我々も水銀柱様には負けてはおれぬとイザ出陣。8時頃になるとこの玉川の丘に3,000名以上の通大生の方々が汗を拭きふき昇って来られる。

今日は2期期末試験だ。我がりんどう塾の皆さんも、昨夜は遅く迄頭張って居られたが私は、早く休ませてもらったので体調十分。

授業は、前半講義、後半試験と言ひ形で行なわれ、この蒸し暑い中をお互い自分事とは言え、誠に御苦労様です。夕方には塾も2期で帰郷される方が $\frac{1}{4}$ 位居られ、その上、試験も終わりその安堵感が塾生の方々は町に出られて、塾内は普段よりもひっそりとした感じだった。

小生は5時20分より、戸川先生の道元研究会に出させて頂いた。人間全てに期待を望み、期待ばかりにとらわれて走っていると、もしそこに期待のはずれる様な事が起きた時、人間は失望、挫折する。だから良い期待、悪い期待、都合の良い期待、都合の悪い期待、この二つを受け入れられるだけ

の自分を削り上げる事が人生の上に、大変大事な事であると、その悟りの仕方をお教え下さった。

成宜園で、ひぐらしのささやきを聞きながらのこの御講義は、今日のこの蒸し暑さを一辺に吹き飛ばしてくれ、明日への活力を与えてくれる様だった。暑さ良し、蒸し暑さこれ又良し

藤野 記

8月10日 金曜日 晴

1時限 体育(専) 永井先生

○子供の体はどうなっているか、子供を見る目はどうしたらよいか

現代生活と子供、現代生活と体育、子供のからだとあそび、あそびの条件、実際に子供のあそびをビデオで見る、幼児教育にはかかせない授業である。

2時限 図画工作(専) 土屋先生

○銅板工作

初めてのこころみでやってみて、なんとなく分かりかけてきた時、時間となり、明日の宿題が出て皆んな安心した様な顔をして帰る。

3時限 音楽(一般) 木下先生

○愛吟集色々な歌、時間いっぱい歌う

全部録音する。

○夕方は戸川先生の道元研究会をさそわれるまま聞きに行く、人生とは何か、労作の重要性等、石橋先生が一緒だったとは意外だった。

本日からスクーリングも頂期に入り、残り3/1最後まで健康に留意して頑張りたい。

馬場 記

8月11日 土曜日 晴

ギリシャの哲人がいったという、二つの学問の敵- 1.ねむけ 2.つかれ。確かに、スクーリングの大敵はこの二つであった。毎日が戦っていた。殊に、この一週間の暑さは格別であったし、二大敵に満ちていた。

夕方、日ぐらしの鳴く成宜園にお線香をたき、道元の“善”の道を学んだ。“行持道環”(ギョウジドウカン・くりかえし行の意)の教えに感銘をうけた。“くり返す”ことの平凡さを消極的な生き方とみていたが、そこには勇敢な生きる姿があったのだ。

きょうも早朝の聖山礼拝にはじまり

体操

朝の会朝

掃除

とつづき、二大敵との戦い-授業があった。

体操及びレクリエーション指導の高市、脇田、四方、西尾の4先生は2泊3日のキャンプに出掛けた。全く元気いっぱい。

オリンピックは柔道で日の丸を揚げた。

もうオリンピックも終幕に近。そして、我らがスクーリングも――。

さあ、有終の美を飾ろう！

江上 記

8月13日 月曜日 曇り後雨

昨夜の暑さで熟睡できなかったのか曇天も手伝ってか頭がボンヤリしている。

聖山礼拝の後、朝の体操となるが、女子が当番の時は、ダンスか体操かわからない様な体操が多い。体操が済むと全員脱兎の如く食堂へと駆け出す。(良い席を確保するため)、いつもの通り愛吟集の歌を2曲程歌い朝食となる。

食後は、当番となっている階段の掃除、通路の大きなドアの裏側に埃が溜っていたのに驚いた。

1時限は追先生の“音楽リズム”

第1日目は“心に歌を”，2日目は“リズムに生命を”に続き今日のテーマは“トーン・ペインティング”。芸術学部の学生達の作品――自作の歌にイメージを絵にしたもの――を見ながら録音されている歌を聴き、後で受講生全員で歌ったり、呼びかけの歌の言葉を考えたり、グループで振りつけ等する。

“子供達に歌う歓びを教えること、そのためには教師も表情豊かに童心に還って歌い、踊るのですよ。”と先生の巧みなリードで興に乗り熱演となる。

講義の中に折込まれるエピソードは曲への理解を深め一層印象づけられる。

川期の午後は授業がなく空時間となっているので部屋で自習する。昼頃から空模様があやしくなってきたが、2時頃ふり出した大粒の雨はやがて屋根を仰ぎ道を流れる程の大雨となる。しばし雨に見とれている。

夕食後、7時から塾食堂に於いて、玉川学園紹介の映画が上映された。

大山 記

8月14日 火曜日 酷暑は続く

あと2日で閉講式。思えば長い玉川の学園生活だった。せみしぐれの林間を抜けて、玉の汗をかいでの教室移動もあと2日で終わりだと思いと寂しさがよぎる。

’84年真夏、暑い暑い毎日玉川の丘をかけずり廻った思い出は生涯の私の楽しい思い出の宝庫となるだろう。

第1時限目 音楽(専) 富永先生

ソルフェージュに始まり音楽理論

○音程について

○施律の和声づけ

施律がどの和音に属しているか見分ける

○ピアノ実技

今日は全員が先生と連弾をさせられた。バイエルから離れた練習曲から、先生の隣りに座った時は全身が硬直、指が何処をたたいているのかわからない程上ってしまった。ブラジルに戻ったら又始めから子供と共に練習をやり始めたいと決意する。

第2時限目 音楽教材研究 朝日育也先生

朝日先生の魅力ある授業にはいつも圧倒され通し。力強く、そして人間味溢れる先生の授業の素晴らしさは生徒に生きる喜びを与えてくれるといったら大げさかしら、人に希望を与えられる教師こそ最高だと思ふ。私もそんな教師を日ざして頭張りたい。昨日質問した輪唱の曲を別に頼んだ訳でもないのに今日はコピーを取って授業の始めにさり気なく手渡してくれた。私は先生の細やかな配慮に有頂点になる程嬉しかった。一人一人を大切に先生教育に感腹する。

第3時限 音楽一般

今日は明日の発表会の為の曲、ベートーベンの“第九”をドイツ語で歌う。

今迄に何度か“第九”は歌った事はあるが朝日先生の指導で歌うと本来自分の持っている声以上のボリュームが自然になだらかに出て来るのには驚いた。声をぶつける、目がける場所、姿勢、のどの開け方でこうも違うものかとびっくり、先生は私達の体の中から声を引っぱり出してくれる魔術師。文句なく楽しくてならなかった。私もブラジルへ帰ったら又合唱活動を私自身がまずやってみようかと決意する。

午後6時より芸術校舎で立体紙芸居を鑑賞する。今迄にない画期的な方法で楽しい紙芸居を堪能した。沢山の中南米の先生が見に来ていたのは良かったと思った。終了後直ちに塾食めざしてマラソン大忙しで夕食を済ませ全員で塾食堂の大掃除が始まった。まるでお祭り騒ぎの楽しい大掃除、労作も無事終了、塾食は見違える様にきれいに変身した。

ばんの 記

8月15日 水曜日 晴

スクーリングももう明日まで。暑い中皆さんよく頑張ったと思う。朝はカラス、日中せみ、夜はこおろぎの鳴き声を聞きながら25日間の日々がすぎた。

玉川学園入塾(寮とはいわず塾という)当時は山ゆりの花があちらこちらに咲きみだれていたが、今はそれらも散り夾竹桃がこいピンク色の花を見せている。

私はこのスクーリング第三期は宗教哲学を選択した。テキストに使われた「うしろすがたのイエズ」という本とともに通大生の必修科目ということに興味をおぼえての選択だった。科目名から来るイメージとはちがった授業のはこび方。「日本人の宗教的特性は何か。そしてまた十戒に見られるユダヤ教の特性との対比」の講義であった。私が今まで受けた(キリスト教を主体とした)宗教観念とはまるで正反対。こういうふうに違った方向からとらえるというのも面白いと思う。

8時40分から11時30分までの間に15分間の休憩だけの授業は少々疲れをおぼえる。

午後4時から「中南米を語る会」が開かれる。正善先生の司会のもとに私たちの団長の挨拶があり、つづいて私たち研修生と参加者の自己紹介があった。

始めに「めずらしい話」として「ニューホが現われた」という話からへびなどの話に進んだ。藤野先生のお話をかわきりに現地の教育制度などに話は移るが、まもなく時間がきてしまう。のち個人面談があり、各研修生たちと参加者との間に話がはずんだ。

6時30分、夕食は会食のためいそいで食堂へと向かう。

小山 記

8月16日 木曜日 晴

今日でスクーリングの学生達と共に送った26日間の塾生活も終わった。

今朝も6時の太鼓の音で起こされ、大急ぎで荷作りしたり、お布団を返したり、お部屋のお掃除をすませて最後の会食をしに食堂に行った。松浦事務局長の御挨拶があった。今年の夏は特別暑かったようで、今までこんなに暑かったスクーリングはめずらしく、期間が短かったので特に大変だったのに最後までよく頑張って下さった、というねぎらいのお言葉を下さった。

お一人一人のお言葉、顔、愛吟集の歌の数々、会食、何もかもが今日で最後かと思うと歌う声も詰まってしまう。我々研修生は特にもう二度とは与えられる事もないこの日々を思い返してか、どの顔にも涙が浮かんでいた。

8時40分から始まった最後の授業、試験を受けない私達は10時で終わった。お昼は自由食だった。塾生の為の栄養たっぷりの食事、この暑さに一人の落ちこぼれも出ないで過せたのは、この食事のおかげだったと思う。心から感謝しながらいただいた。

3時半から閉講式が行われた。研修生20名は一番前の席をいただき、学長さんの御挨拶を身近に聞かせていただいた。

団長江上さん、副団長の具志堅さんが研修生一同代表として学長さんに花束贈呈をして下さった。学生歌、校歌、数々の歌を歌いながら涙で詰まる声、それでも最後まで一生懸命歌った。式が終わっても止まらない涙には困った。どの顔も同じく目が赤かった。名残りを惜しみつつ皆、それぞれの家に私達は横浜の移住センターに向かった。センターに帰り着いたら、受付のおじさんや江崎さんがまるで家族を迎えるように一人一人を暖かく迎えて下さった。

暑い中を重い荷物を持ってフーフー言いながら帰った。それぞれの部屋に冷房をつけて待っていて下さったのには、いつもの事ながら、頭が下がるようだった。本当に有りがとうございました。

今日の日も無事に過ぎさせていただけた事に心から感謝いたします。おやすみなさい。

大天 記

8月17日 金曜日 晴

いよいよ夏期スクーリングも終りとなり、センターへ帰って来てからの次の日であり、スクーリングで出会ったお友達との別れの悲しみ、又は、センターへ帰られた嬉しさと私達の心は動揺していた。なんとなく塾での太鼓の音や、聖山礼拝や会食などが懐かしく思い出された。

9時45分より、江崎さんより後のスケジュールについての説明があった。

それは

1. 来週から始まる月～木曜日の授業とその担当の先生の言及
2. 関西旅行についてのスケジュールの説明
3. 関西旅行、出身地旅行を含めての支給額の説明
4. 帰国の荷物の範囲の説明

a 個数 2

b 更量 1 32kg×2

大きさ 2個 タテ+ヨコ+タカサ

273 cm

1 - 158 cm

1 - 115 cm

続いて、団長さんよりもいろいろと連絡があった。それは、9月5日の修了式のスケジュールのことであった。

10時30分 短大前集合

10時45分 記念植樹

11時30分 修了式 文Ⅱさくふう館

12時 昼食会 文Ⅱさくふう館

13時 解散

17時30分 コスモスレストランにて、謝恩会

午後より、サンパウロ総合大学で教えていらした浅見先生がセンターにいらっしゃった。私にとっては、ブラジルで会う機会もなく、話では聞いていた先生と会えて大変よかったと思った。色々ブラジルの話、又は私と同じ学校で教えている先生方の話が次々とあり、懐かしく偲ばれた。

物部 記

8月18日 土曜日 晴

スクーリングも16日に終り、17日、朝、東京を出て、同夕方着いた萩、父の実家であるが、長男であった伯父はすでに亡く、その長男である従兄の家へ父が来ているので訪ね行き、1泊して今朝、たたみの上で目ざめる。日本へ来てはじめての外泊、たたみ、そして押し入れに布団をしまう時、頭をつっこんで見る。いたずらをすると、いられると聞いた押し入れは、やっぱり暗くて息がつまりそうだ。東京では見られなかった青空、すみきった空気、父と2人で歩く小高い丘からは、青々とした稲の穂先がゆれているのを見る。従兄が田植えから始めて、お米はすべて自家製のとのこと、そういえば御飯にはねばりがあり、つやがあり、とてもおいしくこれが日本の味かと思った。細い道があるいて、一度も見たことのなかった祖父母のそして先祖のお墓参りをする。そこから少し上の方へのぼって行くと、萩市が一望に眺められる高台に、吉田松陰先生の誕生地があり、屋敷跡がその形を残している。産湯の井とあるのを見ると、松陰のお母さんがつるべで水を汲む姿を思い浮かべる。その東側には朝日を受けて立つ松陰と、金子重輔との銅像が立っている。まだ希望にもえているような2人の心が伝わって来るようで、美しく、そして哀しい。わずか25才で入獄のまま死んでいった重輔は常に松陰と行動を共にしたと言われる。

21回猛子の墓は、松陰の遺髪しかないが萩門下生、16人の手で建てられたという。最後まで門下生に慕われて死んだ松陰先生の偉大さを思い、手を合わせると何か私の心にまで力強さが手のひらから伝わって来るような気がする。数え年30才、今で言えば29才という、短かくも激しい生涯を吉田松陰歴史館で見て、教育に携わる者として深い感銘を受ける。私ももっと努力しなければと思う。学問一筋で、子弟の教育に身命を捧げ、自分の理想達成のため刑死する様子がわかりやすく描かれて、それほど歴史に関心のなかった私も思わずひきつけられる。テープから流れる説明でもわからないことは父に聞き、見終ると出口の所には、数々の歴史に関した本が並べてある。歴史館で働く名前も知らないおじさんは、私が松陰読本というのを一冊買っただけに、外へ出てから「これがありましたから。」と、わざわざ歴史館に寄せられた感想集とパンフレットのようなものを届けて下さった。ありがたく思う。従兄もいろいろ説明してくれ、松陰神社と松陰の墓について書かれている一新聞の1ページを持って来て、私に下さったのでうれしかった。みんなの心のあたたかさ、それは、松陰先生に関してもひしひしと感じられる。門下生の一人であった久坂玄瑞に、妹、文を嫁がせる場面も歴史館で見られたが、妹を見つめるまなざしはやさしく、そしてその時の言葉が書き記されている。妹思いの兄でもあり、死ぬまぎわまで親のことを思い、詩まで残している松陰は、人間としても先生としても、尊敬する人物である。

玉川学園で見ていた『松下村塾』の実物を見る。そこで教えを受けたと言われる伊藤博文、高杉晋作、それに木戸孝允(桂小五郎)の旧宅も訪ねて歩く。木戸孝允の旧宅には玄関に入った所で20円入れるとテープから説明が流れてくるしかけになっている。その外は昔のままであり、お風呂場などは、ついこの間まで使われていたかのように、焚口には灰も残され、火箸があり、ちりとちりがあり、

家の中から、桂小五郎がはかま姿で出て来そうな気がする。その他、明治時代に数多くいた失業士族救済のため、授産事業として栽培されたのが始まりという夏みかんの、萩でもっとも古いと言われる弱りきったような木を見て、ボンボンとくずれ落ちそうな茶色の土崩を見、古い石垣、武家屋敷、菊屋横丁の土蔵などを見て歩くと、足の疲れも忘れ、感慨無量である。指月城跡には時間が足りず、行けなかつた指月公園まで行き、指月山を遠くからながめる。日本の山ほどの山を見ても神秘性を持っている。日本文化史の瀬山先生が『どこの山にも神さまがいる』と、言われたのを思い出す。今日、ここへ来て初めて私は、日本にいたのだとしみじみと感じた。「日本はいい所ですよ。」と言われたブラジルの先生方の言葉が、今は実感としてやたら思い出され、本当に共感出来ると思う。それは、日本の歴史の一部である萩市を見、歴史の中の人々と会って話したよな錯覚のせいかな、初対面の従兄たちと、うちとけて話し合えたせいかな、なぜなのかわからないが、なんとなく日本人の心を知る機会が得られたと思う。これで今日も一日が終り、明日の朝、東京へ向って出発し、あさってから授業が待っているので、なごり惜しいけれど、別れを告げなければならぬ。もう二度と来ることはないのかも知れない。しかし、この感動は、何年後も一生かかっても忘れられないと思う。

中原 記

8月20日 月曜日 晴

起床7:30 せっかく玉川で6:00起床のくせがついていたのにセンターに帰ると、もうねぼりのくせがついてしまいました。8:00久しぶりのセンターの食事、授業までの時間は自由時間、古巣に帰った感じでのんびりとしてしまいます。

10:00 白鳥先生 日本語児童教育

いかに現地に即した日本語の教育をするかということで、まず、インターナショナルスクールのことを話されました。その中で、スペイン語なり、日本語なりの物の絵とひらがなを結びつけて、学ばせる方法で、50分でひらがなが読めるようになるとか、びっくりしました。CONEJOだから、ことと言っている子供たちが見えるような気がしました。

次に、わたしの日本語(にほんご)Iについて、この本の使い方をいろいろ教えて下さる。折紙を使って、音楽を利用して、又、即興的に劇をしたり、子供たちの興味をひきだしながら、それが言葉とつながるように導びいてゆく、私たちの学校の児童は100%会話を日本語ですることが出来ますが、大いに使える部分があると思いました。

1:00 小峯先生 日本語教授法

6月15日国際学友会に授業参観に行ったこと、マレーシアの青年たち、台湾の青年たちが日本語を一生懸命勉強していたことを思い出しました。

授業にはタイミング、リズム、スピードが大切なこと、言葉を視覚、聴覚をfullに使って、印象づけること、又、いろいろな教材はとていいと思いました。考えるという言葉の言葉と概念を同時

に教える窓のついた絵などは素晴らしいと思いました。小峯先生の歯切れのよい話しぶりも又、素晴らしいと思いました。

四方 記

8月21日 火曜日 小雨後曇

台風が接近しているとのことですが、明け方からの雨も朝食前にはやみ、なんとなくしのぎやすい1日でした。もっともセンターにいと天候の事には無頓着でいられる。荷物を送る準備、写真の焼増しの整理などあわただしい様子

AM 10:00より白鳥先生の講義

補助教材としてのカードの利用の仕方の説明

動詞カード(写真の方が良い)視覚、聴覚に訴えながら基本動詞247を早くおぼえさせます。

数 カ ー ド 数えてみましょう 1ひき2ひき……と

漢 字 カ ー ド 親カードを中心に、小さなカードも利用

ビデオで漢字の成立を見る

カタカナカード 全部地名にし、端に地図を入れたもの

そ の 他 不思議袋を使って、手品を使っての学習

ベニヤ板に紙をはり、やすり紙を切ってはり手でなぞって字をおぼえさせます。

絵など入れないで簡単なもの

・わたしの日本語 Book I のまとめ

第1にぬり絵ではないということ。子供達に興味と関心を与える。

絵だけなので各学校、各先生独自の教材とすること

子供に日本語の種をまくという意味で使用すること

・わたしの日本語 Book II のまとめ

会話指導であること、声のお手本である

日常会話からとり、リズムカルで子供にとりこみやすい

予備知識として基本文型が入っている。

・3分間劇について

エンピツで、指で対話する、絵をかいたものを切り抜き指を入れて即興のお話を作る、これは

とても楽しいもので素晴らしいアイデアと思いました。電話対談、etc

ビンゴ遊びについて説明

PM 1:00より正善多津子先生の講義

・紙ねん土の作り方の説明

・牛と鬼の面を作る

鶴の型を作るとき、先生の方法ですといとも簡単にでき、子供達も迷わずすぐに折れそうです。折り紙は紙質により大変迫力がでる。現地では鬼を作ったような厚紙が手に入らないのが残念に思う。

•バラの花作り

みんなそれぞれ美しい個性的なバラを作りました。

•ソーブバスケット

石けんとりボンを使って楽しく作りました。最後の仕上げにはかわいい花とりボンをそえました。

石けんのよいかかりと共にすてきなプレゼントができます。現地の婦人の方に教えてあげたいと思います。

どうしたわけか(?)男性の先生方が手早くきれいに作られ光っていました。最後にバラ、ソーブバスケットをならべ記念撮影をして楽しい授業を終えました。

脇田 記

8月22日 水曜日 雨後晴

今日も昨日に続き雨と強い風が吹いています。空は真暗、日本で初めて見る天候である。

16日玉川から帰ってからのものは、慌しい毎日を過しております。荷物の整理をはじめなかなか大変。今日は正善先生の授業と森田先生。そして夜は広瀬先生の講義であった。

10:00一同集合。元気な朝の挨拶からすぐ授業に入ります。今日はあねさま人形制作。正善先生が一人一人の材料を全部用意して下さり、我々はそれをつくれればよかった。昨日から今日にかけて感激のし通し。自分で物を作り上げる事が、こんなに楽しい事を初めて感じた。まして日本で材料を使って日本で作るなんて…………。

まず体、頭と先生は順序よく説明して下さい、それに従ってつくっていく。男性群も黙々と作っている。胸を合わせるとぐっと感じがでてくる。そして蒂、そで、頭とつけていくとすばらしいあねさま人形。あまりの感激で作った人形にしばし見とれていた。一人一人着物の模様が違うのでそれぞれとても良いのができている。今日作ったのはかなり大きかったが、これを応用して、小さな「しおり」を作ったり、かべかけ、ようじ入れとか作れる。一同紙を買って帰りたいという。午後の授業は森田先生。

1. 日本語の特徴について

2. 日本語の品詞 — 8つある各品詞について詳しい説明を受けた後「は」と「が」が名詞につく場合を教わる。その後練習を一人づつやった。いくら分った様な気がする。何げなく使っている日本語ですが、とりたてればこんなにむづかしいのかと思う。とても気持の良い先生で、皆もはりきっていたみたいの中で私は不覚にも居眠りをしそうになった。

3. 広瀬先生、7時から9時迄、季節のことばについて（俳句をつくる時の季語）

日本の四季は日本文化を生んだもとである。それから、じ、ちず、づの使い方等、今迄に学ぶことのできなかつた物である。とても良かったと思ひ。最近昔の就寝時間が遅くなつたみたい。頑張っているのだなあ。

西尾 記

8月23日 木曜日 晴

昨日の雨と強い風がおさまリ、今日はいい天気になりました。

本日、センターでの最後の授業が行われました。

○ AM 10:00 より正善先生の「現地授業研究」

正善先生が昨年ブラジルの日本語学校をおたずねなさつた時の「ブラジルの日本語学校を訪ねて」という題で、NHKラジオ日本（東京だより）で放送された録音を聞きました。その時先生が次の問題点を提起されました。

1. 複式授業
2. 会話の力
3. 目的意識
4. 幼児の指導
5. 教材～教具
6. 授業の内容
7. ブラジル語
8. 日本語を全く知らない子供
9. 教師後継者

われわれ、中南米の教師はこれから日本文化を通して、現地に居る2、3世のことを考へ、日系人の問題、また国家、民族について大きく考へる必要があるのではないかというまとめのことばでした。最後に、金平先生の授業で作つた短歌を心をこめて先生が歌つて下さいました。

○ PM 13:00 森田先生の「文法・文型」

授業の内容：

- ・因果関係を表わす言い方（「-て」、「-ので」、「-から」）
- ・敬語
- ・接続詞（文<段落>と文<段落>をつなぐ場合）
- ・仮定条件を表わす言い方（「-ば」、「-た」、「-なら」、「-と」）

それぞれの先生方は研修のまとめや帰国の準備などにつかれていましたが、森田先生の講義は生き生きとしておもしろかつたのでみんなは最後まで頑張りました。とても参考になりました。

Ⅲ期の先生方は残暑の中、遠い所からセンターまでいらして下さって大変ご苦労様でした。

白鳥先生、小峯先生、正善(多)先生、森田先生、広瀬先生、正善先生

どうもありがとうございました！

いつでもやさしい笑顔の江崎さん、いろいろと相談に乗って下さってどうもありがとう。これからもどうぞよろしくお願い致します。

高市 記

8月24日 金曜日 晴

玉川大学の塾からセンターへ帰ってもう一週間たちました。

6時起床の太鼓の音も聞こえなくなったが塾生活の習慣がまだとれないのか、毎朝6時になると目が覚める。しかしまだ眠たいので又ねてセンターの7:30の起床音楽で飛び起きる。

昨日で研修授業を終了し、今日は国際協力事業団の本部へ報告に行くため、それぞれ研修のまとめを完成している。

13:00 江崎さんと事業団の本部へ向う。

14:30 三井ビルの48階にあるJICA本部の会議室で報告会が行われた。

-長谷川様のご挨拶があり続いて

-団長さんの江上先生が20人の研修生の代表として報告されました。

-副団長さんと佐藤先生と鈴木先生がそれぞれ報告や感想を述べた。

-いつもお世話になっている江崎さんや加藤さんに感謝の言葉とあつい拍手

16:30 解散となる

17:00 同ビル内のロビーで買物をするグループやセンターに帰るグループなどがあったが、私は故障したカセットテープを直してもらうため秋葉原へ行く。しかしカセットテープを自分で落した場合は保証がきかないそうで¥10,000から¥15,000かかりそうと言われた。そこで具志堅先生がお店の主人と交渉してただで直す事になった。その時私は日本人は不思議な人だなあと思いました。

20:20 センターに帰る

あしたから関西旅行、つづけてふるさと研修へ行くためみんなかばんの準備をしている。

ねむけと戦った授業も終り、JICAの報告会も日誌当番も終り、今晚からぐっすりねられると思っていたが明日7:50にセンターを出発するそうでいつもよりもっと早く起きなければならない。

長いようであった3カ月間もまたたく間に過ぎ去った。同じ家族のように親しくなって来た先生方、その中に親代りになって下さった先生方と別れる日がだんだん近づいて来て考えるだけでも淋しくなって来る。

今夜は今日の報告会で四方先生が言っていた「何年かたったら6回目の研修生がどこ

かで又集まるように」と言い事を祈りながらねたいと思っています。そして今後3か月も無事に頑張
って勉強したいと考えています。残るのは5名だけですが残る3か月JICAの皆様、センターの皆
様、よろしく願い致します。

大田 記

8月24日 土曜日 曇り時々晴

さあ今日から関西旅行に出発。朝7時50分江崎さんと我が愛するグループ20名、計21名セン
ター出発。新横浜から京都へ、車中で朝食(サンドイッチとジュース)を江崎さんより受け取る。車
中での皆は小学生の児童のようにワイワイケラケラと賑やか、1時ちょっと過ぎに京都着、荷物をロ
ッカーに預け、ツアーバスに乗り込む。清水寺、三十三間堂、金閣寺、平安神宮と観て歩いたがもっ
とも日本人らしい観光システム、それは時間(分)のベルトコンベアーに乗せられて見通り過ぎるだ
け。ああ、日本人的と思いつつ、大阪天満橋の京都ホテルへと向う途中、地下街で迷子が出た。江崎
さん、団長さん、藤野さんの活躍で1名はすぐに見つかったが後る1名は……、心残りながら男性グ
ループを残してホテルへ、荷物を置き、食事をとらいつつ下におりるとロビーに居た!! 汗ビショ
リかいて、よかった。とんだバブニングだったが全員安泰、それにしても世話をして下さっている江
崎さんの心配気なお顔、これから残り少ない団体移動(?)の時は集中して迷惑かからないように頑
張りましょう。各自一人部屋でゆっくりしていることと思う。おやすみなさい。

具志堅 記

8月25日 日曜日 曇り時々晴

京都ホテル(大阪)で目をさます。8時頃ホテルで朝食をすまし、奈良見物、朝9時50分ロビー
に集合全員元気で揃って出発する。

奈良駅にて昼食をとり、12時20発の観光バスにて、岡田ガイド嬢により大仏殿→春日大社→大
塚大國社→宝物館→春日山ドライブにて若草山→十国ドライブインで全員休憩しまして最後にこうふ
く寺を得て、奈良駅に着きました。大変忙しい見物でしたのでガイドさんの時間までに集まらなくて
御迷惑もかけましたが御熱心に説明を聞き楽しい見物をしました。

とくに春日山のドライブの豊かな自然に私達の目を楽しませてくれました。

又奈良公園の野生の鹿が生息しているのはとくに珍らしく印象に残る。

5時30分 天満橋に降りホテルおちつく。

7時30分より国際協力事業団の方のお話がありました(ホテルの会議室にて)

今日が最後の研修生の旅行でした何となく淋しい様な表情がちらほらとのぞかれる。明日は地方出
身研修に出発! 小山先生が少し調子がわるく見物が出来なかったのがとても残念のようでした。あ
と一週間の旅どうか全員頑張っって欲しいものです。お互いに助けあって行きましょう。 筒井 記

8月26日 月曜日 晴

朝7時少し前、ホテルの個室の自然な目ざめ。今日からは個人行動の一週間なのか……という思いがまず広がって来る。カーテンをひらくと目と鼻の先に大阪城がくっきりと青空を背にある。その向うに父母のふる里の自然がうかぶ。

8時、朝食に降りると、皆、思い思いにテーブルを囲み、しばしの別れをかみしめながらの腹ごしらえ。小山先生もまだ顔色は少々さえていらっしゃらないけれど食堂へと降りて来られた。

9時の近づく頃から皆、ぼつぼつと江崎さんに別れをつけ、出身地研修の旅へと発っていく。戸外はすでに30度に近い暑さ、しかし、光は秋の色に澄んでいるように思われた。

9時を少し回る頃に自分もホテルを後にした。皆の旅路のみのり多かれと祈りつつ。

鈴木 記

9月4日 火曜日 晴

去る8月27日朝、大阪、天満橋、ホテル「京都」で別れて1週間の出身地研修を終えて、晴れやかな顔で先生方センターに帰着する。それぞれ郷里での話に花が咲く。

8時30分ロビーにて明日の玉川学園閉講式後の謝恩会その他について検討、決定をみる。

9時30分現在未着の先生もいる様子。

最後の2日間を何事もなく終了させる様にしたい。私事で恐縮乍ら楽しい郷土訪問だった!! 皆さん、それぞれ良い思い出が出来たことでしょう。御苦労さんでした。

近藤 記

9月5日 水曜日 晴たり曇ったり夕方雨

玉川学園での修了式並びに謝恩会

10:30 記念植樹、樹種は「富士菊桜」2本、場所は三角点最高の場所だ。1人或いは2人ずつ写真撮影しながら覆土してゆく、研修の全てが過去のものとなりつつある時この桜だけはこの丘で我等の精神を、心を末長く伝え、そして榮えて春には美しい花を咲かせてくれることだろう。いつの日にか又必ずこの学園をこの桜を訪問して共に生長発展を喜びあい度いものだ。

12:00 修了式及び昼食会 学長を始め学園理事長方の他、石橋、瀬山、中山、片山、石川、金平、正善、佐藤、それにJAICAより長谷川課長、加藤様(順不同)諸先生方に御臨席していただく、場所は朔風館。

先ず学長の御到着を待つて修了証の授与、最初に僕が呼ばれたのにはびっくりした。学長より直に手渡され、そして握手していただく、苦しかった事、眠かった事などが全てほのかな楽しい思い出となる瞬間で感無量だった。授与が終って学長、長谷川課長の御祝詞、江上団長の謝辞で式次第を終り昼食会を催して下さる。有難い事だ。1時閉会。

1:00 国際教室へ行き以前注文しておいたテーブルを各人受取る(リトミック、玉川学園、小原学長物語など)。

2:00~5:00 自由行動。

5:30 謝恩会、場所コスモス、授業の都合などで少し遅れられた先生があつたりして5:40開会、正善、方、小野、片山、金平、小宮路、石川、瀬山、小川、諸先生方(順不同)、それに江崎職員も御臨席していただく。

先生方の短いスピーチや御注告それに我々の自己紹介などと次第に会は盛上ってゆき、小川先生の折紙手品、小宮路先生の紙芸居や歌、そして我々の十八番などそれはにぎやかな印象深いパーティとなった。何時はてるとも知れない雰囲気だったが8:30散会、お別れは中南米式に抱きあつてお互いに名残りを惜しんだ。

「教育とは思い出を作る事である」

片山先生

宇都 記

9月6日 木曜日 晴

夕刻6時まで自由行動ということで、皆久々に朝寝坊を満喫した。

午後6時から、センターの皆様による送別会を催して頂く。北村所長はじめ、山本、中島、西村の各課長、そして江崎さん。また、子弟研修生の崎浜君ら一行の厚いもてなしで、心温るひとときを演出して頂いた。

我々研修生一行は、久々に日本へ帰って来たというだけで、既に十分に感情の充電は出来ていたようだ。その上に、玉川学園という極めて人間的な学園で感激に満ちた日々を過ごし、センターへ戻れば江崎さんをはじめ、皆様の温いもてなしを受け、否定なしに感情のボルテージは高められてしまった。

我々がたどって来た道、そしてこれから進もうとする道は、決して平坦ではないだろうが、一生

の間に、これ程感動に満ちた体験を持つことが出来た喜びを一体どのように表現したら良いのだろう。

昨日、片山先生が、「教育とは、思い出を作ることである」というお言葉を残して下さいましたが、そのことは「教育とは、感動の日々を演出し、体験させることである」とも言い換えることができるだろうと思う。そしてその為には、我々教師自身が感動できる人間でなければならぬと思うし、同時に主観につきすぎて、感情に流されてはならないとも思った。

その辺のところを私は、玉川の先生方の涙ぐみずには聴く事が出来ない程豊かな御講義を拝聴し乍ら、つくづく考えさせられ、次の歌を詠ませてもらった。

玉川の心豊けき諸師の眼は

主観を超えぬて涙なかりし

しかし、その玉川の先生方も、昨夜は早流に目に涙を貯えて下さった。これ以上のはなむけは無いだろう。

そして今夜、我々に対し、直接色々なお世話をして下さい江崎さんとも、涙を流し合って再会を約束し合った。さようなら。さようなら。また会う日まで。

佐藤 記

9月7日 金曜日 曇

ついに、今日は研修の最終日である。

国際協力事業団の閉講式に全員新宿の三井ビル45F、第6会議室に集合。はからずも今日はブラジルの独立記念日(Sepe de Setembro)でもあり、日がいい。

16:35分 閉講式

15人(3ヶ月研修生のみ)が、がっちりと終了証書を手にした。

第二次会は54F.のメヌエットでお別れパーティが行われ、玉川大学から片山、金平、正善の各先生と国際教育の地主さんが出席された。又、正善先生(夫人)、白鳥、小峯、森田の各先生も出席して下さい。

センターに帰って、夜中、ある者はパジャマ姿で廊下に集まり、研修生だけの色紙交換、さよならの言葉を述べ合った。

いつまでも 絶えることなく

友達でいよう

明日の日を夢みて 希望の道を

信じ合う 喜びを 大切にしよう

また会う日まで また会う日まで……

一同スクラムを組み、くりかえしてうたう。すべての者に涙が頬をつたって流れた。

国際協力事業団に深い感謝をします。

玉川大学にはお礼の言葉を知りません。

諸先生方、ありがとうございました。

センターの職員の皆様ありがとうございました。

そして、研修生一同よさよなら！

江上 記

9月25日 火曜日 晴

今日からは私達5人の居残り組?の又新しい学期が始まった。何日かあった夏休みを利用して私たちは秋～冬物の衣服を物色したり、知人宅を訪問したり、正善先生のお世話で成城学園小学部の児童創作劇の会や劇団ひまわりの試演会などに出席し素晴らしい劇を観賞することが出来た。

3ヶ月研修の先生達が立たれてからはシーンとなっていたセンター内に2、3日前から日本各地で研修していた子弟研修生達が皆、このセンターへ集まって来てとてもにぎやかになった。

今日は早起し5人つれだって7時前にはセンターを出て玉川学園へと向かう。何日かぶりの玉川の丘は初秋を感じさせてくれた。まず国際教室へ向かう。ここで私たちがこれから受ける講義スケジュール表をいただく。(科目選択は私たち各自がやったのではあるが)

1時限目：9時からは片山先生の国語Ⅱの授業であった。

今日は2学期の第1日目なので今学期の授業内容のあらまし、生徒が期待することになるべく応じることにしたいと話された。

のこりの時間は語彙の意味の変化についての講義で終る。

2時限目は高橋先生の教育原理

この先生は初対面

授業の内容は：

- 1) 「夏休みの日々の生活様式」を生徒にとり
- 2) 後期の予定(今学期)
- 3) 中国訪問のお話(夏休み中先生は中国を訪問された)

私は今のところ、火曜日だけは2時限までであるが10月頃からは3時限目に金平先生の短歌が入ると国際教育室の方からのお話がある。

小山 記

9月26日 水曜日 曇

今日は昨日よりも遅く、センターを7:15分に出発した。5人揃って2日目の授業なので、授業そのもの、又はその先生に対する大きな期待をかけて、玉川学園へ向かった。

9:00 第1時限目 - 全人教育論 文Ⅱ 304 岡田陽先生

授業の内容：明治時代以来の日本に於ける教育史の概説

全人教育に対する説明

教育の必要性に対する実例

10:40分 第2時限目 - 国語表現法 短大501 徳座先生

授業の内容：常用漢字と当用漢字に対する説明

和語と漢語の相違の説明

文字と表記の問題

13:00分 第3時限目 - 日本史 文1301 瀬山先生

授業の内容：室町幕府の成立

守護大名の存在

村落の変更

農民の土一撥

応仁の乱

下剋上の風潮

戦国大名の出現

14:40分 第4時限目 音楽 文1500 朝日先生

授業の内容：ベートーヴェンの第九の練習

ドイツ語の発音の練習

ソプラノ、アルト、テノール、バスの組分け

帰りには、国際教育室に寄り、教科書を頂いてきた。とてもいい書物ばかりなので頭張らなくてはいけなような気持ちになった。その気持ちで12月まで勉強したい…

物部 記

9月27日 木曜日 曇

10:40分 第2時限目 言語表現 岡田先生

選択によって選んだ科目は、2時限目から、岡田陽先生の言語表現に始まる。教室に入って来られた先生は、まず、椅子が足りないので、他の教室から持って来るようにと言われた。皆で椅子を取りに行ったが、5、6人の女子大生は、あまり大勢行ってもと思ってか、そこで立ったまま話しつづけていた。やがて椅子が揃い、皆が腰掛けるのを待って、先生は物静かな口調で言われた。「椅子を取りに行かなかった者がいたが、その場に応じて即座に行動を起すことが出来ないようではダメだ。そんなお嬢さんでは、先生になる資格はない。」と、先生の目はきびしかった。

今日は、「ソメ子とオニ」という台本を、朗読劇のように2人が両側に立って朗読し、ソメ子になる人、オニになる人は、真中にすわり、4人でグループを作り練習する。岡田先生は、少し離れたところで見ていらっしや、時々、助言されたり、よく出来るとそのグループに、皆の前でもう一度させる。

リトミックの大先生も入って来られ、岡田先生とは違ったグループに助言したり、じっと見まもっていらっしや。やはり最初は、はずかしかったが皆が一生懸命なので劇の中に入ってしまつもあり、ふだんよりもっと大きな声を出すようにつとめる。朗読劇は人物が向い合ひのでなく、観客の方へ向かってセリフを言うので興味深く思った。子供たちに豊かな言語表現をさせるのに役立てることが出来そうで、もっといろいろ台本を工夫してみたい。

13:00分 第3時限目 児童音楽リズム 繁下先生

14:40分 第4時限目 音楽教材研究 繁下先生

3時限目、4時限目共ひきつづき同じく繁下先生で、今日の主な内容は解説だった。

明治以前からの音楽がどのようにして伝えられて来たか、また、幕末の時代にも音楽に興味を持っていたことが判明されたこと、徳川家が小田原の方に、バッハの作曲した楽譜を大事にしまっていたことを聞き、音楽はいつの世にも人間の生活に必要なものだと思う。

先生は豊富な内容と貴重な昔の史料に基づいた解説をされ、予定の16:20分を少し過ぎるまで授業はつづいた。

この時間で驚いたことは、大学生2、3人の居眠りと、後の方の5、6人のまるで先生を無視したような態度、そして勝手なおしゃべりや、夏休み中の写真なのか、アルバムを見せ合ったりしている様子、スクーリング中の学生とは差がつけられる。もちろん年齢の差もあると思うが、無責任というのか、ある一部の学生は単なる義務として大学に来ているように見受けられた。しかしそれは、何千人のうちのごく少数の学生にすぎないのかもしれない。たまたまこの教室にいたというだけのことで、熱心な学生たちは、そんな話し声や目の前で眠っている者にはおかまいなく、先生の講義を聞いていて、先生も講義を聞いていない者には別段注意することもなく、授業を進める。しかし、別な考え方をすれば、授業とは強いられて受けるものでないことを各自が認識していれば、それでよいのではないかとも思った。

ブラジルで言われている日本人とは、勤勉で、時間には励行であり、一分の隙もない、ロボットのような人種と考えられているようなので(少なくとも私の周囲では)この教室では随分意外な面を見せられた。

ある意味では、そういった自由な行動も、人の目を意識しない自己表現にもつながるのではないか、それこそ人間らしさではないだろうか。

先生もそのことを意識して黙認されていたのだと理解するには時間がかかった。繁下先生は、その体格の良さと同じように心の広いおらかな気持ちの人だと思う。

後になって解ったのは、先生が一言も注意されないのに、時間が過ぎて行くと共に、いつの間にか教室の中のみざわめきは止まり、集中し始めたことであり、講義を聞いていたことを証明するように、興味を持ったり、共感するとすぐに「わあっ」といったような反応が見られたことである。無邪気な学生たちの姿に安堵の思いをする。

中原 記

9月28日 金曜日 晴

今日は、何人かの移住者達が大きな夢をもって南米のブラジル、アルゼンチン、パラグアイへ出発する日。その為NHKのカメラマン達がセンターへいらして移住する理由や目的をきかれ、8:30

am~8:50 amのNHK番組に出演された。

移住者の一人一人の顔には日本の真うらにある南米の土地で活躍する嬉しさと共に、自分の国、両親や友達をおいて行く悲しさが混ざっている感じがしました。

毎週の金曜日は授業参観となっています。その為、国際学友会、外語大学に授業参観をさせて頂けるようお願いをしました。しかし、ほとんどの学校がちょうど試験中で先生方も学生さん達も忙しいとの事で今のところは授業参観を断られた。

11:00 am 国際交流基金からペルーに派遣された日本語教師が3週間の休暇で日本においでになっているのでお会いしに行く。ペルーの日本語学校の先生方や生徒達のお話を聞かして頂き、その内ペルーの現状や政界の話にまで入り、ついに家族やお友達の事を思い出し、自分の国がなつかしくなりました。

将来の日系人日本語学校の事について色々話し合い、私も3世、4世のためにもっともっと勉強して、日本語が益々盛んになるように、そして日本語が“日系人の第一外国語”になるように頑張りたいと思っています。

大田 記

10月1日 月曜日 晴れ時々曇り

暑い夏も終わりましたが今日、また残暑の感じてした。

変わりなく、私たち5人、玉川大学へ行きました。

○9:00 1時限目 人物思想 新井先生

Renaissance (再生): 文芸復興の運動、ヒューマンイズムと言われた。

ジョルダノ・ブルーノ、エラスモ・デ・ロテルダン、トマス・モアの生い立ちやその人たちの考えと当時の背景を講義されました。

○10:40 2時限目 造形実技 井上先生

レタリング (Lettering): 文字の美しさを考えて、デザインとして活かすことで、“文字法”の授業でした。大変勉強になりました。

私たち、別々な講義に参加しますので学園に居る間は、なかなか会うことができません。でもセンターへ帰ると夕飯をしながらいろいろと一日の出来事を楽しく話し合います。

前週からこのセンターで宿泊しておられる第14回子弟技術研修生たちは日光地方研修旅行へ行かれました。3日間の予定です。どうか日本の美しい秋を充分味わって帰りますように。

みなさん、気をつけて行ってらっしゃい!

高市 記

10月2日 火曜日 晴

いつものように6時に目覚し時計がなるが、風邪きみなのと疲れが出たのか今日は頭痛がするので初めて授業を休んでしまう。

火曜日は私と物部さんは2時限しか授業はない、国語IIと教育原理なのだが、幸いにも教育原理の方は休講となった。

午前中は休んでいたが午後からはだいぶ良くなり部屋の片づけやら、教科書をバラバラとめくったりしていた。

夕方4人の先生達が帰り、国語IIの授業の内容を話してくれる。

小山 記

10月3日 水曜日 晴

今日は朝から強い風が吹いていたが、後ほど風も止み、温い日となった。5人揃ってセンターを7時15分に出発した。

9:00 第一時限目 全人教育論 文II 304 岡田陽先生

授業の内容：系統発生と個体発生との歴史と幼児の発達の繋がり

埼玉県のおさくらんぼ保育園で撮影された「さくらんぼ坊や」の映画、PARTI→映写とその映画に対する生徒・先生の意見

10:40 第二時限目 国語表現法 短大501 徳座先生

授業の内容：和語と漢語の定義と実例

昔から現在に至る日本語に於ける和語と漢語の教
日本語に於ける外来語の伝来

13:00 第三時限目 日本史 文I 301 瀬山先生

授業の内容：織田信長の伝記と日本に対する影響

豊臣秀吉の伝記と日本に対する影響

14:40 第四時限目 音楽 文II 501 宮城先生

音楽のクラスは、もうソプラノ、アルト、テノール、バスの組に分けられ、もう朝日先生に教えて頂くのではなく、これからアルトの組にいる私達は宮城先生に教わることになった。

授業の内容：アルトの組が歌う部分の指導(第九)

玉川学園運動会歌

今日からいよいよ、ベートーヴェンの第九の練習が始まった。発表会に出られるかどうか不安だが、なんとなく頑張りたい気持ちだ。授業も2週間目を迎え、先生の教え方、又は授業の進み方に慣れてきたような気持ちである。

物部 記

10月4日 木曜日 晴

朝はそれほど寒いと感じなかったが、お昼過ぎになると気温が下がったようで冷えて来る。

10:40分より言語表現 岡田陽先生

テープレコーダーから流れる音楽を聞きながら目をつぶり、ある場面を空想し(想像力)創造力を養う。心の中に思い浮かべたことをまとめて、後で自分の想像した場面とその中で感じたことなどを、言葉で表現して他の人に伝える。

その後、イギリスの昔ばなし「小さな小さなおばあさん」を、ひとりずつ朗読する。

言葉とは意味を伝達するものと、感情を伝達するものとに区別される。ニュースを伝えるアナウンサーなどは、主観をさけて冷静に、客観的に語るが、先生は出来るだけ感情をこめてと言われた。繰り返し言葉の多い、長い文章をひとりで語るのは難しい。先生はそれぞれの朗読の後、批評をされる。最初は、ゆったりしたテンポで始まり(導入)、ある場面では、快調なテンポに変わること、台詞はある場面では魅力的に、また、別な場面では大きな声で、しかもあたり前でなく、またある時は、可愛く魅力的に、などと先生の助言が添えられる。「言葉とは、そんなに粗末にしてはいけない」と言われたことは、深く心に感じとられた。

最後に朗読劇「ソメ子とオニ」を、4人ずつになり練習する。

13:00時より 児童音楽のリズム 繁下先生

14:40分より 音楽教材研究 繁下先生

以上でした。

中原 記

10月5日 金曜日 晴

先日は寒くてもう冬に入った感じがしたので今朝は冬物のセーターをたんすから取り出しました。けれども窓のカーテンを開いてみると太陽がさんさんと光っている。

9:30 am 国際交流基金の龍田教授がセンターで講義もなさるので駅までお迎えに行く。

10:00 センターにて

現地で日本語を習える時の問題点

各学校の目標によってカリキュラムが決まって来る。

カリキュラムをどうやって作成していくか。

二世達は現地人としてはみとめてくれない。しかし日本人としてみとめられるか。

幼稚園でひらがなを教えるべきか。

成人に日本語を教える場合、文法から始めた方がいい。しかし子供の場合はだめ。

現地では日系人を見て日本、日本人を想像すると言われました。

12:00 日本語や教科書について、まだ聞きたい事があるので龍田先生とご一緒に食事をしながら話し合う。

12:50 センターへ戻り、門の前でみんなと一緒に記念写真をとる。ロビーで南米の先生方の問題点について話を続ける。

1:40 pm 龍田先生がお帰りになる。どうもありがとうございました!!

2:10 pm 江崎さんと私達5人が旅行へ行く事の相談。まずは場所を決める事にした。その次は旅行の日数とひにち。一人一人の意見をきかれ、北海道、長崎、秋田、四国と色々出て、最後には北海道へ行く事に決まり、日数は3泊4日で一日玉川大学の授業を休む事に決めた。

ひにちを決めるのに大変苦労した。もうすでに10月から11月までの予定を組んであるのであいてる日がみつからない。よく検討した末、取りあえず11月の1,2,3,4の日に決めた。ちょうどそのひにちは玉川大学でコスモス祭があって私達は見られないのは残念だと思った。

仲々決まりそうもなかった話が5:00時前にやっと終わった。今度は北海道へ行く時の服の準備をしなければいけない。考えるだけでも寒くなる。

北海道の旅行を楽しみにしている。

今晚は嬉しくて寝れないかもしれない。

事業団の皆様ありがとうございます!!

大田 記

10月8日 月曜日 晴

10月10日は玉川学園の体育祭が行われます。大学でいろいろな練習や準備のため、今日、女子短期大学の一年生では休講になりました。丁度、私が選択した本日の科目は短期大学の授業なので私も休みでした。でもほかの4人の先生たちは大学文学部で授業がありましたので、相変わらず玉川へ行かれました。私はセンターに残り、宿題をしたり、お手紙を書くことにしました。

センターでは特別行事なし、先生たちは無事に帰へられました。おとといから急に冷え込み涼しい涼しい秋となりました。今夜は布団の用意をしておきましょう。

高市 記

10月9日 火曜日 曇

2, 3日前から急に温度が下がり、例年と比べて2~5度低いと言ひ。常夏育ちの私にはこたえる玉川学園の駅の温度計は12℃をさしていた。

9:00時 国語II

言葉の起源について

変った言葉

失われつつある言葉

未来のコミュニケーション

現代の日本、英語ふりを日本語

以上についてのテープがビデオで約1:10時間放映され、のこりの時間は片山先生の説明を聞く。

10時40分 教育原理

授業内容：日本の教育の現状

知育中心

落ちこぼれ

管理的

教師のサラリーマン化

塾ははたして必要か

学歴社会

のち以上についてデータをもとに色々な意見がでるが、つづいて「幸福とは何か」、「何をもとめて生きていくか」、まで発展し、最後に先生が「今の教育を考えてみる必要がある」とのべられる。

小山 記

10月10日 水曜日 曇

今日は「体育の日」で大学はお休みなのだが、玉川学園で体育祭があるので、それを見に行く為、休日であることにも関わらず、朝早く起きて、センターを7:50分に出発した。玉川学園のプラスバンドの伴奏で小学部から大学の生徒達が行進し、記念グラウンドに入場した時には、もうあちらこちらから来客が大勢いらっシャっていた。第56回体育祭は午前9:30分に始まった。まず最初に国旗掲揚、そして国歌を歌い、玉川学園の学長先生のお言葉があり、華やかな花火が上げられ、体育祭が開かれた。そして、生徒達全員が玉川学園運動会歌を歌い、それから合同体操をした。生徒達は、赤、白、青、黄の4つの組に分けられ、それぞれの組の色の鉢巻きをしていた。各組の成功か失敗により全体としてのスコアがスコアボードに記録されていた。続いて、生徒達全員、小学部を除いて退場し幼稚部の子供さん達が入場し、同時に徒競走が行なわれた。小さい幼稚園の子供達が走っているのを見、私達も応援せざるを得ない次第であった。

次には、大学男子学生の基本体操だった。みんな動作が揃っていたのでとても感心した。その次は高等部女子学生の綱褰いと短大学生の綱引きがあった。綱引きが終わり、中学部女子学生の棍棒体操が行なわれた。音楽のリズムに合わせて、揃って棒を使って体操をする中学生を見、帰国してからもああいう体操を運動会でやったらいいと思った。続いて、大学女子学生の大ボール褰いがあり、それから小学部低学年の玉入れがあった。子供達の学年により、籠の高さも異なっていた。どンドン上へ投げられる玉……遠くから見ていた私達にはまるで多彩なビー玉のようだった。

次は、高等部の男子学生の基本体操だった。それから、幼稚部のプレイバルンが行なわれた。風にそよそよ吹かれ、子供達の動作により、バルンが色々な形になり、南米から来た私達には、珍らしい

ことだった。続いて、女子大学生と短大学生の手具体操だった。手具体操といえば、青や白の布を持った学生の間、片面には白、もう一つの面には黄の丸いボール紙のようなものを持った学生達が、音楽に調和した動作をする体操だった。動作が変わるにつれて、色が変わっていき、とても見事な体操だった。

その次のプログラムは、小学部高学年のウィンドサーフィンだった。風のある日に恵まれ、大きな帆掛け舟を5人で持って走る学生達、又は風に吹かれて海の上を進んでいくような帆掛け舟は大変見事だった。私達には、とても珍しいものばかりの運動会であったが、天気が少し悪くなり、雨が降りそうになったので、私達は早く失礼させて頂いた。帰りには温かいうどんをレストランで食べ、体を暖めてセンターへ戻った。お昼からは、それぞれ宿題をしたり、手紙を書いたりして休日を過ごした。

物部 記

10月13日 土曜日 晴

藤沢市立天神小学校見学及び授業参観

7:50分にセンターを出て、大和駅から乗り換え、玉川とは反対の方向にある湘南台駅へ向いました。

駅に着いたら大見先生は、もう待っていて下さいました。2台の車に私たちはのせていただき、藤沢市立天神小学校へ向かいました。

長谷川校長先生と武田教頭先生にむかえられ、まず学校についての説明をお聞きしました。私たちが国語の授業を見たいと言ってあったため、今日は1年生と2年生のクラスでは国語を勉強することに決めてあったとのこと。長谷川校長先生に案内されて私たちは、大見先生、武田教頭先生と共に教室に入りました。

1年生の1組から順に3クラス、2年生は2クラス見学しました。1年生から筆順を正しく教えているのを見て、とても参考になりました。

2年生のクラスでは「お手紙」というテープを聞きながら、お話を聞く学習をしていました。主人公のがまくんとかえるくんの絵を大きく描いて黒板にはってありました。先生の描いたかえるがとてもいい顔をしていました。一見簡単なようで、生き生きとした表情です。

2年生の別なクラスでは、先生の描いた動物の絵の切り抜きをつかって言葉あそびのようなことをしていましたけれども目的がよくわかりませんでした。もう少し見ていたかったのですが、時間がありませんでした。そのあと懇談会で学校の説明書をいただき、お話を聞いて、いろいろな質問にも答えていただきました。

授業につかわれている絵や教材は、すべて先生方が工夫して作られた物だそうです。

先生方の予定もあり、時間が少くともう少しくわしい説明が聞けなくて残念でした。

大見先生の車で先生のお宅へ行き、先生の奥様の手料理をどちそりになり、そのあと江の島へつれていっていただきました。

今日はあたたかで、美しい江の島が見られました。帰りに湘南台まで送って下さった大見先生は、高市さんのご親戚とはいえ、私たちにとってはまったく初対面であるにもかかわらず、今日はいろいろお世話になり、有意義な一日を過ごせたことを感謝しながらお別れしました。

中原 記

10月15日 月曜日 晴

一時限目の授業をとっていないのでみんなより遅くセンターを出る。

二時限目 スペイン語 (阿部先生)

1. USTEDとTUの区別(きみとあなた)

「USTED」は初めて会う人、目上の人に使う。

「TU」は友達同志、恋人同志、親子同志

2. CERCA DE……とどここの近くに

LEJOS DE……とどここの遠くに

3. 名詞の性と数

性: 「O」で終る名詞はほとんど男性名詞で前に「el」定冠詞が来る。

例: el libro(本); el perro(犬)

「A」で終る名詞はほとんど女性名詞で前に「la」定冠詞が来る。

例: la CASA(家); la mesa(つくえ)

例外もある: el sofa(ソファ); el MAPA(地図)

la RADIO(ラジオ); la moto(オートバイ)

数: 母音で終ると最後に「s」をつける。

例: mesa→mesas(つくえ); libro→libros(本)

子音で終ると最後に「es」をつける

例: papel→papeles(紙); PAN→PANES(パン)

4. 性質を表す形容詞は名詞の後に来る。

例: AZÚCAR BLANCA(白い砂糖)

PAN DURO (硬いパン)

5. 数量は名詞の前に来る。

2 LIBROS ; 1 CUADERNO ; 3 MESAS

数の単数の場合は(男)「UNO」が「UN」になる

(女)「UNA」はそのまま残る

三時限目 音楽実習(宮城先生)

レコーダーでカノンの練習

レコーダーでやさしい音ぶを吹く

みなと

かすみか雲か

星の世界

ピアノの練習

ソルフェージュと

指揮法の練習をやりました。

音楽実習の授業では3人しか生徒がいませんので実習がよく出来ます。

大田 記

10月16日 火曜日 曇り時々晴

今日も朝早く起き、みんなそろって玉川へ。

○1時限目 国語II 片山先生

前週、片山先生が見せて下さったNHK教育テレビの「ことばは世界の人の心をつくる」というビデオに引きつづき、標準語-方言(地方語)

発音の基本

文・文節・語・音節・拍・音素などの説明をされました。

時々むずかしかったで残念ながらよく分かりませんでした。このクラスの学生数が少ないので(私たちを含めて15名位)片山先生は私たちだけのために講義をされているような感じがします。

○3時限目 近代歌 金平先生

本日から、毎週火曜日、金平先生の特別講義を受けるようになりました。先生の研究室で私たちだけのためにいろいろなど指導をして下さいます。今日の授業では松尾芭蕉、小林一茶、北原白秋の作品などについてお話をされました。短歌や俳句の授業だけでなく漢字の勉強にもなりました。

○4時限目 身体表現 岡田純子先生

来月、身体表現の発表会が行われますのでこのためのうち合わせや練習などをしました。このクラスの学生たちは創造力と表現力が豊かで、なかなか同じようについて行くことが大変むずかしいです。岡田先生、小野先生、友だちからもご親切にして下さいますけれど、自信を持って自由に表現することがまだ出来ません(とてもはずかしいです)、授業は50分おくれて終り、PM5時に玉川を出て行きました。もううす暗くなったところにセンターへ着きました。

高市 記

10月17日 水曜日 雨

朝起るとすぐ6時のニュースを聞く。又森永、グリコ事件の放送、ゆううつになる。

1時限目：全人教育論

映画 「さくらんぼ坊ーヤII」の放映

内容 子どもの発達段階

模倣と自立

自我のめばえ

あそびは学習

2時限目：国語表現法

内容 当用漢字と常用漢字の違い

3時限目：日本史

内容 近代を始めた人 - 徳川家康

大名統制

参勤交代

壇家の成立

身分制度

「人倫の道」

鎖国

商業の発展

4時限目：来る12月1日に催される玉川大学音楽祭のコーラスで歌うための練習であった。(ベートーベンの第九シンフォニー)

小山 記

10月18日 木曜日 晴時々曇

今日も相変わらずセンターを7:15分に出発した。ただし、小山先生と2人…他の3人の先生方は2時限目から授業が始まるので、もっと遅くセンターを出発するようだった。1時限目から、私は東洋思想史、小山先生は経済の授業で教室は別々だった。

第1時限目 東洋思想史 短大404 小沢先生

授業の内容：ヒンドウ教の受胎から死に至るまでの人生に対する儀礼

第2時限目 言語表現 演 岡田陽先生

授業の内容：子供達の表現の為の遊び(音楽をかけ、線で囲まれた所でスローモーションでおにごっこで遊ぶこと)。

子供達の注意を促す方法

「ソメコとおに」の朗読の発表

第3時限目 日本美術史 短大405 塚本先生

授業の内容：天平時代の絵画と工芸
白鳳時代と天平時代の建築 }説明と実例

来週は、北海道研修旅行で授業を休むので、各先生に欠席の理由を言った。先生方も私達の欠席理由を受け入れ、日本の自然の美しさを十分に味わってきなさいと言われた。残念ながら授業は休まなければならないけれど、北海道への旅行が楽しみである。

物部 記

10月19日 金曜日 雨

千駄ヶ谷、日本語教育研究所見学及び授業参観

駅から雨の中を道を尋ねながら歩き、日本語研究所には13時20分に着き、若い女の先生のクラスに案内される。

生徒は少く、韓国の女性が1人、フランスの男性が1人、そしてイギリスの女性とたった3人だった。先生は、会話を教えておられ、生徒との会話の中で、「日本語のどんな点がむずかしいですか」と質問される。

まずフランスの人が「ハヒフヘホの発音と漢字」と答え、続いてイギリスの人は、「全体の発音と漢字」と答え、韓国の人は、「ツの発音がむずかしいと答えた。」

クラスにたった3人でも、これだけ異なった生徒では、人数を増やすことは出来ないかもしれないと思う。それにしても、3人で1人の先生を独占しているのは少しせいたくに見える。

その後、言語学者で千駄ヶ谷の日本語研究所長である今井幹夫先生のお話をお聞きする。ここではSDM(Scientific Direct Method)による独特の授業でもっとも新しい教え方、科学的直接法についても説明して下さった。生徒がその日学ぶ課を完全に自分のものとし、自然に話せるよう進められる。

また、学習しやすいように、似た表現は同じ課に出さないで、分けて教えることなど、一つ一つの表現を確実に覚えさせるよう工夫された教え方である。あれも、これもついでにと言った教え方は、かえって生徒を混乱させるので避けなければならないと言われた。

最後に体系的日本語教科書「わかる日本語」1~5巻の中から、少し高いけれど(1冊1,500円)独特のよさがあるので、また参考に出来そうなので、1人が2、3冊ずつ買う。いろいろ教授法などを説明して下さった今井先生にお礼を言って帰途につく。

中原 記

10月20日 土曜日 雨

国際学友会日本語学校で授業参観をさせて頂く日。昨日からの雨が続く。

7:20 am 服を何枚か重ね、傘をさしてセンターを出る。

9:05 am 道をたずね、たずねながら国際学友に着く。

授業は10:00 am から始まるのでその間、教員室で森田先生とクラスの分け方、森田先生が教師になってからの色々な問題や出来事を面白く話して下さいました。

国際学友会は18のクラスに分かれている。

A - 1, 2, 3, 4 → 上級クラス(去年の12月に始ったクラス)

B - 1, 2, 3, 4, 5, 6 } 今年の4月に始ったクラス

C - 1, 2, 3, 4

D - 1, 2, 3, 4 → 初級クラス(10月に始ったクラス)

10:10 am 田中先生(D-2)

- 言葉の発音の練習

- 過去形と未来形の練習

例: 私は来月京都へ行きます。

私は先月京都へ行きました。

- 動詞を字引きの形に変える。

例: 行きます→行く 出ます→出す 作ります→作る

土曜日は1週間に習った事を予習したり、一日に終りきれなかった授業を完成したりする日となっているそうです。

11:00 吉野先生(D-1)

2名と3名に分かれて教室に入る。授業が始まるまであと5分ありますので中国、タイ、インドネシアの学生達と話し合う。ほとんどが日本に来るまで全然日本語を話せなかったと言う。

吉野先生の授業内容:

- 数の練習

人だど → ひとり

物 → ひとつ

小さい動物 → いっぴき

お金 → いちえん

紙や服 → いちまい

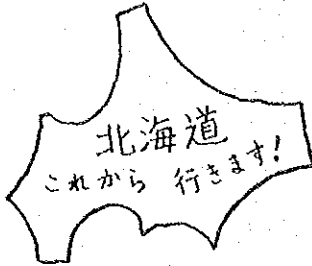
このクラスも中国人や韓国人が多い。しかしみんな先生が言い事を理解するのが早い。どちらのクラスもとても楽しそうに日本語を習っている感じがしました。

学友会の学生さんがLL教室を使用していたため、残念ながら今日もLL教室を見る事が出来ませんでした。授業参観が終わってから先生方と一緒に食堂で食事をとりながら話し合うつもりでしたがお忙しかったため早く失礼させて頂きました。

センターへ帰る途中で食事を済して横浜駅でみんなばらばらになりました。私は北海道へ持って行くマフラーを捜し6:00pm頃センターへ帰りました。

大田 記

10月22日 月曜日 晴



昨晚から先生たちの部屋では、がさどそ物音がしました。首長くして待っていた東北～北海道研修旅行の準備でした。

今日、予定通り、根岸駅でAM7:00時の電車に乗り、上野駅で江崎さんが待っておられました。その後のコースは、

上野 (電車) → 大宮 (新幹線) → 盛岡 (バス) → 十和田湖
8:17 発 12:17 着 15:00 着
12:50 発

(センターを朝早く出て行きましたので、江崎さんの奥様はご親切におにぎりを作って下さいました。新幹線で風景をながめながら、おいしいおにぎりをみんな食べました。Señora de Ezaki さんごちそう様でした!)

盛岡から十和田湖へ着くまで拝見した美しい“自然林”はなかなかことばで表わすことができません。見事な全一面の紅葉、日本へ着いてから始めて見た雪にかかった山(岩手山)素晴らしい全景でした。

十和田湖:さすが日本一の美しさは“秋の十和田湖”と言われます。冷たい強い風が吹いてとても寒かったですが雄大な自然美を味わって非常な感動を覚えました。

夕飯は旅館孔雀荘でこの地方の独特なお料理を頂きました。きりたんぼなべ、ヒメミス、紅葉づけなど、旅館のお方からいろいろと料理の説明をされました。

素晴らしい秋の一日はもう終わりました。明日は函館を楽しみに、皆様、おやすみなさい……

高市 記

10月23日 火曜日 晴時々小雨

旅館孔雀荘にて朝を迎える。ガラス窓は曇っている。外はだいぶ寒いようだ。

昨日は6℃~7℃くらいだった温度も今日はいくらか上がっているようだ。9時すぎ、私たち十和田湖畔を棧橋の方へ向って歩く。すこしの間、時間つぶしをし、遊覧船に乗りこむ。湖めぐりは素晴らしい。すんだ氷の美しさ……、深さは320mあるとか。対岸の子の口に着き、ここからバ

スにゆられ、小雨ふる十和田八幡平国立公園内を走り青森へと向う。途中の景色は又格別であった。山あり、川あり、滝ありで、雨あがりの紅葉した木々は時々現れる陽を浴び、そのあでやかさ……青森へ着くとすぐ昼食をとるがおもわず話がはずみ、一船おくれてしまい、夕方連絡船に乗りこみ津軽海峡をわたる。船の中での夕食は又違った気分が味わえた。船長さんの上着と帽子を拝借して記念写真をとったりした一時。さていよいよ函館藩。目差すホテル第2オーシャンは駅から見えた。有名な函館の夜景はせめてもホテルの窓からながめることが出来た？。

明日もスケジュールはいっぱい。おやすみなさい。

小山 記

10月24日 水曜日 晴

今日は旅行の3日目だった。7:30分に集合し、ホテルのシーガルレストランで和食をとり、みんな荷物を持ち、8:45分にホテルを出た。函館ともお別れ…急いで駅で絵はがきやおみやげを買い、又は写真を撮り、電車が出発する時間まで待った。特急電車のおおぞら号は函館駅を9:30分に出発した。電車で初めて通る道、電車の窓から見渡す風景、凡てが見事であり、あちらこちらから感動の音が聞こえてき、又は写真を撮る姿が見られた。電車は、水の美しい大沼湖や八雲や長万部という町などを通して、洞爺駅に11:29分に到着した。そこからバスで洞爺湖温泉街へ向かった。洞爺湖温泉街では、あまりゆっくり出来なくレストランにて、北海道の独特な料理、蟹飯を食べて、又すぐ1時にはバスに乗り、洞爺駅へ向かった。そこで13:38分の札幌行きの特急電車のおおとり号に乗った。

電車は、東室蘭駅、登別駅、苫小牧駅、千歳空港駅に止まり、札幌駅に15:46分に到着した。私達はその日、一泊する第一ワシントンホテルも駅のすぐ前だったので、荷物をホテルに置いて、札幌の町を見物することにした。ホテルでは中原先生が803号室、江崎さんが804号室、大田先生と高市先生は835号室、小山先生と私は834号室に泊ることになった。大田先生と高市先生の部屋は隣りだったが、中原先生の部屋は少し遠く、エレベーターのすぐ近くだった。そこで一服し、16:20分に又、集合し、バスで羊ヶ丘へ向かった。残念ながら羊ヶ丘に着いた時には、もう暗くなっていて、門も閉まっていた。仕方なく近くのおみやげの店に入り、そこでおみやげを買ったりした。それからお隣のレストランに入り、地方の独特な成吉思汗料理を食べた。中原先生と大田先生は、ペルーの留学生と会う予定だったので、夕食をしないで札幌の町へ戻った。食事を済ませ、江崎さんと小山先生と高市さんと4人で札幌の町へ帰った。バスを下りて、まだ早かったので時計台まで行った。そして札幌駅の建物の中にある店でおみやげを買ったりした。ホテルに戻って来ると8階の廊下で中原先生と大田先生と、中原先生のお友達の佐藤さんと婦山さんと会った。4人は夕食に出かけていくところだった。みんな嬉しそうな表情で出かけて行った。明日は、又、早く起きなければならぬので、今夜は早く寝るつもりだ。楽しかった旅行も明日で終わりとなる。この3日間で日本の素晴らしい街

葉や風景を見ることが出来、この旅行をする機会を与えて下さった事業団に繰り返し、感謝をしている次第である。色々と私達のことを心配して下さった江崎さんにも……「どうもありがとうございます。」

物部 記

10月25日 木曜日 曇り後雨

昨日の夕方着いたばかりの札幌、私たち全員6名が1泊したワシントンホテルを、今朝は8時30分に出発し、定期観光の「支笏ロマンコース」のバスに乗る。

まず最初は羊ヶ丘へ向う。昨日の夕方はまだ閉っていたが、今日はバスで中へ入り、ガイドさんの説明を聞くことが出来た。近くのレストラン（ジンギスカン料理）で羊を食べさせることを言い、「芝生の上の羊を眺めながら、羊の肉で食事をするのも、また面白いことでしょう」と言った。昨夕、私は、どうしても羊を食べる気にはなれなかった。夕食は江崎さんの許可を得て、大田さんと2人、前の札幌研修でもお世話になった北大の留学生たち4人に案内していただき、時計台、テレビ塔、展望台などを見に行った後、ビザを食べに行き行って来たので、羊は食べないで済んだ。今日はどうかと心配になったがガイドさんの冗談だったらしく、別なレストランで食事をする。今までは、とてもかわいいと思っていた羊も、そこで屠殺されるのを待っているばかりだと思いと、ただ哀れに思えて来る。小雨が降って来たので羊は一匹も見えなかったが、ガイドさんは記念写真を撮りましょうと言った。

バスに乗っていた人たち全員を集めて「少年よ、大志をいだけ」の言葉で有名な、クラーク博士像の前に並ぶ。

雨が降り続ける中をバスは走り、ガイドさんの説明を聞きながら、私たちは外の景色を眺める。その後、支笏湖、洞爺国立公園内の湖を遊覧船で一周し、またバスに乗り、インディアン水車へ。インディアン水車は、川に登って来るさけを取るために、インディアンの魚法にヒントを得て設置されている。折角なつかしい故郷へ帰って来たさけを捕えて、殺してしまうと、ガイドさんは説明しながら「人間で残酷なものです」と笑いながら言っている。

次は、バスで千歳空港へ向う、東京行きの飛行機に乗る。

あわただしい旅行、母の故郷札幌もたった一泊で終わったが短い時間を有効に使い、東北地方も回ることが出来、有意義な旅行だった。このような短期間で数々のことを見聞きしながら、日本の東北地方から、北海道まで観光することが出来たのは、旅行社に行って下調べをしたり、色々と方法を考えたり、工夫して下さい下さった江崎さんを始め、国際協力事業団の方々の配慮あってのことと、ありがたく思う。

中原 記

10月26日 金曜日 晴

4日間の楽しかった旅も終り、疲れが出て来たようですが今日から又張り切って勉強を続け、アジア学生文化協会にて授業参観をさせて頂く。

9:45 AM 道で正善先生ご夫妻と出会うと一緒にアジア学生文化協会に着く。

アジア学生文化協会では現在約20ヶ国の留学生、研修生、学術研究者が勉学や研修をしている。又大学進学希望留学生のための日本語と基礎科目の一年間コース、及び研修生のための短期日本語コースもやっています。

10:00 AM 授業が始まる。

2名ずつのグループに分けられて、日本語コースのクラスに入る。

授業の内容:

「なお」の色々な意味

1. まだ
2. 前よりもっと、さらに
3. つけ加える

敬語の使い方

敬語は初対面の人や尊敬する人を相手とする場合に使われる。

敬語には3つの種類がある。

ていねい語

尊敬語

けんじょう語

漢字の練習

12:00 授業参観が終わってから文化協会の先生方と一緒に食事をしながら授業について話し合う。学生さんは近い内に大学の受験があるため必死になって勉強をしているそうです。

2:00 文化協会の昌谷先生のご案内で東京都立六義園へ行く、柔かい土をふみ、冷たい風を吸いながらいろんな木や植物を眺めました。

3:00 正善先生のご案内で南米の民芸品を集めている相原さんの家をお訪ねし、チリ、エクアドル、ボリビアやペルーのこっとう品を見せて頂いた。

ペルーの歴史やこっとう品についてとても詳しい。日本に来て日本人からペルーの事を教わるのは恥かしいけれどもいい勉強になりました。

5:30 正善先生ご夫妻と六本木で夕食をする。日本の有名なざるそばを食べました。

6:30 PM エビス駅で別れます。

正善先生ご夫妻、ごちそう様でした!!

大田 記

10月27日 土曜日 雨後晴

全員7時30分移住センターを出て武蔵野市へ向う、今日は亜細亜大学参観日。昨日と同じく、本日も正善先生のお世話で見学することができました。

本学では、大学と短期大学を合わせて約1,500学生数です。経済学部、法学部、日本の大学へ入学するための日本語の勉強に分れ、私たちは日本語の授業に参観させて頂きました。ほとんど日本語の出さないタイ人、マレーシア、シンガポール、韓国の方々が今年の4月に入学されて、6ヶ月以内に日本語だけで会話が聞き、むずかしい漢字の読み書きも出来て感心しました。やはりこの結果へ着くためには、

- ・組織された指導方法
- ・日本語を学ぶ環境(世の中で日本語を使う機会)
- ・授業の時間数
- ・当事者の希望(本人が日本語を学びたいというはっきりした目的)

が大事だと強く感じました。

授業参観が終り、亜細亜大学の先生方と一緒に食事を取りながらいろいろな問題点について話し合いました。この後、本学のL1教室を見せて下さいました。

亜細亜大学の先生方、今日は大変お世話になり、厚くお礼申し上げます。どうもありがとうございました。

高市 記

10月29日 月曜日 晴

先週北海道研修旅行をおえて、今日登校する。玉川学園正門の入口の植木はだいふく赤、黄と色づいてきた。

1時限目 人物思想史

講義内容

Hobbes

生い立ち

Common Wealthの思想

Locke

生い立ち

人間悟性論

以上の内容を紹介ふうに講義をされる。

2時限目 幼児教育学

講義内容

保育内容の意義

領域の意義

3 時限目 国語教材研究

内容：実習の発表（クラスメートが実際にある小学校で授業をしたこと）。それに対する先生の意見とアドバイス。

小山 記

11月1日 木曜日 曇

今日はとても待ち兼ねていた「コスモス祭」の第一日目だった。10時の開会式に間に合う為、センターを8:40分に出発した。ただし、小山先生と高市先生と私とで3人だけだった。中原先生と大田先生は、中原先生のお友達の佐藤さんと後で来るようだった。

せっかくセンターを早く出たのに、玉川学園に着いた時にはもう既に開会式は終わっていた。文学部第二校舎と大体育館の間の道はもう模擬店がいっぱい並んでいた。フランクフルトやドーナツやクレープなどの食べ物の売店や製作人形やみみずく人形などの手製品の売店にはもう人がいっぱいいた。南米から来た私達は、食べ物や手製品、凡てが珍しく、売店で立ち止まって品物を見せて頂いた。あちらこちらの売店を見ているうちに、中原先生と佐藤さんと会った。大田先生は、少し気分が悪く、センターに残ったようだった。5人で又、売店を見て回り、レストランで昼食をした。昼食後、みんなそれぞれ約束があり、そこで別れることになった。けれども、私は文学部第一校舎と第二校舎で展示されている研究を見せて頂くことにし、玉川学園に残ることにした。残念ながら、展示されている研究が沢山あり、みんな見せて頂くことが出来なく、その一部分を見せて頂いた。それは、花卉装飾部、地理研究部、ドイツ文化研究部、児童教育研究部、児童文化研究、国際教育室、教育問題研究部とトライアングルだった。どの研究部でもみんな親切に研究の内容、又は結果を説明して下さい。普通、大学の試験や、宿題やレポートなどに追われていても、まだ研究する時間があるのに感心した。大変、厳密に研究をしていることにも感心し、ブラジルに帰っても日本の学生に負けなぐらい勉強したい気持ちが溢れてきた。色々と研究を見せて頂いているうちに時間が経ち、センターへ戻ることになった。偶然に中原先生に会い、2人で三ツ境駅の近くの古本祭のある所に寄り、センターへ帰ってきた。

今日からは、気温が少し下がってきたので、暖房を入れて頂き、その使い方に対する説明があった。これから、夜、遅くまで勉強しても寒くはない。色々と私達のことを心配して下さい。皆様、心から感謝申し上げます。

物部 記

11月5日 月曜日 晴

第2時限目 家庭教育 永井千恵子先生

授業内容

人格心理学 ローレンス コールバーグ

英語の原文で「ハインズストーリー」を読む。

翻訳し、その内容について話し合う

永井先生の授業では、教育の類型を環境の種類によって大別し、特に家庭教育の影響に重点を置く。実際、私たちの現在の物の考え方なども、思い返すと家庭教育で受けた影響の大きさを感ぜられることが多い。家庭教育の影響が、良いにつけ、悪いにつけ、結果として表われていることは否めない。クラスはゼミナール形式で講義の後、オーラルレポートがあり、ひとりひとりの意見が聞かれる。その発言も様々で、その考え方の違いなども、それぞれの異った家庭教育の結果であることを改めて考えさせられる。

第3時限目 国語教材研究 長野先生

授業内容：

教科書を使って指導案を作る。

授業の目標を考える。

何を、なぜ目標として掲げるのか。

要点を考える。

私たちにとっては、初めての指導案で、まだ要領が分らず難しい。他の学生たちにとっても難しく、いくつか先生が取り上げて発表されたものに、それで良いと言われるものはなく、先生に訂正される場所が多かった。目の前で訂正されるのを見て、思い当たることがあったり、とても参考になった。

中原 記

11月6日 火曜日 晴時々曇

起床6時、今日も一日元気でガンバりましょう！

1時限目 国語II 片山先生

毎週の火曜日と同じように、7時15分センターを出て行きましたが、玉川へ着きますと片山先生の授業が休講になっていました。ですから文学部の図書館でノートの整理や短歌の本を読んでいるうちにこの1時限目は早く過ぎ去ってしまいました。

3時限目 近代歌 金平先生

われわれが作った歌を金平先生が見て下さって、いろいろとご指導を頂き添削されました。又は私どうして、私たちが作った歌について話し合ってみたり、感想を述べたりなど、とても効果的な授業で

でした。

「歌を作る」ということは心を深くこもらせなければならぬと教わりました。短歌は短い定型の詩であるから、ことばを選ぶことと、ことばのリズムを整正することが大変難しいです。わたしの感性を文字を通じて表現するための方法がまだまだよく分りませんのでいつでもみっともない歌が出来上ります。しかし、金平先生は毎週毎週親切に教えて下さいますので感謝して居ります。

金平先生、どうもありがとうございます！

4時限目 身体表現 岡田純子先生

最後のクラスの引き続きで身体表現の発表会の練習が行われました。学生さんたちはさらに高度な表現力・創造力を培い、一生懸命練習されました。本日の授業も50分遅れ、17時に終わりました。

18時30分にセンターへ帰りました。

高市 記

11月7日 水曜日 晴

1時限目 全人教育 (岡田先生)

“さくらんぼほりや”のPARTIV

“自立と社会性”のビデオを見る

映画内容：4才と仲間について

- 4才の時自分の存在について守りたい事をはっきり言える。
- 自分でものを判断してみてそれに対して反応を発達する
- 色々な手伝いが出来るようになる。
- 自分の仲間を増やす事が好きになる。
- 小さい子供や弱い子供を助けて上げる事が出来る。

ビデオを見た後、子供の絵を見せて頂いた。

2時限目 国語表現法 (徳座先生)

- 敬語の種類は3つある。
- 敬語の中で女性語もある。
- 敬語は社会通念である。
- 目上, 目下, 身内, 仲間同志に敬語を使い区別
- 注意すべき敬語

2時限目の授業が終ってから国際教育室により、11月19日(月)に東京厚生年金会館で“第九演奏会”が行なうため見に行ったら参考になると思うと言われました。私達は12月1日(土)玉川大学でベートーベンの第九交響曲終楽章の合唱発表会に参加するつもりなので是非行ってみたいと思います。

4時限目 音楽

音楽の授業が休講になりましたので2:40PMにセンターへ帰りました。

大田 記

11月8日 木曜日 晴

今日で日本へ着いてから5ヶ月目である。長いと思った6ヶ月間の研修ももうあと1ヶ月…

1時限目 経済

「日本の近代成功の理由」で前回は第一に教育があげられ、今日はそのつづきとして—①農業の生産性高

② 近代産業の育成

豊富な労働力と稀少な資本財との組合せによる労働集約的産業 — 主に生糸と綿紡

③ 産業構造の転換（軽工業から重化学工業）

④ 賃金の基準 — ①～④を先生は今日の日本と比較して講義をされる。

2時限目 言語表現

音楽を2, 3分聞き、そのイメージをふくらまして即座に童話ふうなお話を考える。のち先生に指名されたクラスメート何人かがそのお話を語る。

「ソメ子とおに」という題の朗読劇をグループごとく(4人づつ)に分かれての発表。このクラスは演劇部に属しているので皆さんなかなかの名優ぶり。

3時限目 日本美術史

平安時代前期

彫刻-基本的には唐朝彫刻の影響だが一部に日本人の好みも加わる。

小山 記

11月9日 金曜日 曇

今日は日米会話学院の参観日で、センターを9:00に出発した。参観は一応13:40分からはなっていたが、その学校が四ツ谷駅の近くであった為、少し早く行って凡人社で買い物をする事に決めてあった。凡人社で色々買い物をし、近くのレストランで昼食をした。

13:00、四ツ谷駅の入口で正善先生と会い、先生に案内して頂き、日米会話学院に着いた。そこで青山先生に案内して頂き、学校の事務室まで行った。事務室では、参観させて頂く授業の担当の宮崎先生と丸山先生と大橋先生を紹介して頂いた。

13:40分より授業が始まり、私達5人は2人ずつに分かれ、3つのクラスを参観させて頂くことになった。小山先生は高市先生と大橋先生の担当の初級Ⅱのクラスを、中原先生は大田先生と丸山先生の担当の中級Ⅰのクラスを、そして正善先生と私は宮崎先生の担当の中級Ⅱのクラスを参観させて

頂くことにした。正善先生と私が参観したクラスは国際学友会の日本語読本の巻2、そして外に先生達が作った練習帳やプリントなどを使っていた。生徒達は全員で10人、東洋人(中国人や韓国人など)と西洋人(アメリカ人やフランス人やイギリス人など)のクラスで、授業中は日本語だけで話していた。授業の内容は自動詞と他動詞の説明と「…ている」と「…である」の文型の説明と練習だった。先生はただ文型の説明や練習だけでなく、生徒達が興味をもつような日本文化に対する習慣について、話したりした。50分の授業が終わり、10分の休憩があったので、みんな廊下に出て、次の授業が始まるまで待った。今度は、クラスを交換し、小山先生と高市先生は中級Ⅰのクラスを中原先生と大田先生は中級Ⅱのクラスを、正善先生と私は初級Ⅱのクラスを参観した。大橋先生のクラスは使役の助動詞の「せる・させる」の文型の説明と口頭練習をしていた。テキストの会話の読み方の練習もしていた。そして、先生は会話のテープをかけ、それを生徒達に全部を一回聞かせ、もう一回聞かせ、会話の一部分を省いたプリントを渡し、生徒達に省いた所に適当な言葉を書き入れさせていた。分からなかったり、答えを間違ったりした場合にはテープを又かけたりしていた。最後には、又全体を通して、テープを開かせていた。一生懸命になって、先生の素晴らしい教授としての態度を少しでも身に付けて帰りたいと思ううちに、あっという間に50分が過ぎてしまった。又廊下に出て、みんな集まり、今度は国際教育振興会が毎年行なう「外国人による日本語弁論大会」のビデオを見せて頂いた。純外国人の日本語の文章、又は発音の上手なことに驚き、感心した。私達は日本人の子孫であるのもっとも頭張らなくてはいけないことに反省させられた。弁論大会のビデオを見せて頂いたことは、何よりも勉強を続ける動機づけになったと思う。ビデオの映写が終わり、今度は先生方と集まり、懇談会があった。まず最初に、青山先生より、クラスの組分けと学校で使われている教材の説明があった。それから、先生方は、私達の質問に答えた。3時間という長い授業が済んだ後で親切に私達の質問に答えて下さった諸先生方、又は色々と気を使って下さった青山先生、そしていつもいつも参観に案内して下さる正善先生に厚く御礼申し上げる次第である。先生方のお陰でもっとも勉強になった！教授法についても色々アイデアが習得出来たようで、帰国してから、習得した方法を用い、その方法に対する生徒達の反応が何よりも楽しんだ。

物部 記

11月12日 月曜日 晴

2時限目 スペイン語(阿部先生)

授業内容：

- 今まで習った動詞のまとめ
- スペイン語の受け身の形を習う
- 日本語の文章をスペイン語で訳する
- ミデルデ・セルバンテスの伝記を習う

スペイン語の教室の窓から風と一緒に散る枯葉を見てそろそろ紅葉の時期が来たと思うと本当に秋だという感じがします。この教室では15名の学生がまだたどたどしいスペイン語で一生懸命話そうとしているが私が日本語を習い始めた頃を思い出します。

3時限目 音楽実習(宮城先生)

授業内容:

- ピアノやレコーダーで

“故郷の人々”

“メヌエット”

“かごめ・かごめ”の練習

- 指揮法の学習

4時限目 音楽(宮城先生)

今日から毎日の4時限目は第九発表会の為、ソプラノ、アルト、テノール、バースに分けられ合唱練習をする事になっております。

発表日は12月1日(土)で当日の服装は

男子……………第1装で

女子……………白の長袖ブラウス

黒又は紺のスカート

となっております。どうなるか分かりませんが楽しみにしております。

大田 記

11月13日 火曜日

第1時限目 片山先生の国語II

言語、国語、日本語について

日本語の拍、音節、母音と子音

破裂音、鼻音、摩擦音、破擦音、流音

今日は3時限目の時間に私と、大田さんは片山先生の研究室に行き、先生にお願いしてあった原稿を添削していただく。先生は細かいところまでよく気づかれる。又、私たちが何を伝えたくて書いたのか、又、どんな考え方で書いたのかをちゃんと見抜かれる鋭さを持っていらっしゃるので驚く。そして、それを言いたいのなら、こういった表現の方が分かり易いと助言して下さいたり、私と、大田さんの文章の中で間違っているところを直した後も、なぜそうした方がよいのかを、解り易く説明して下さい。先生の話されることを聞いていると、今まで私の書いていた文章がどんなに解りにくかったかと反省させられる。思い当ることも沢山あった。文章とは解り易く書かなければ意味がない。自分の意志が読む人に伝わらなければなんにもならない。片山先生は、「こう書いてあると、読む人は

こんなふうに思いますよ。」と、相手の気持を考える鋭さ思いやり、そしてやさしさを同時に持っていらっしやる。もっと早くから片山先生に文章を添削してもらえばよかったと、残り少ない日々を思う。

第4時限目は岡田先生のリトミックだった。

2年生と一緒に私と高市さんの2人でこの科目を取っている。私たち2人は、まだなれないせいか羞恥心も手伝って、体が固くなってしまいます。もっと自由に延び延びとしなければならぬと理屈では解っていても体の方は、なかなか思うように動いてくれない。

中原 記

11月14日 水曜日 晴

1時限目から授業になって居るので7時15分にセンターを出発する。

○1時限目 全人教育論 岡田先生

「子供の安全」の映写、この映画では子供が入学をして、新しい経験に出会い、次の問題点が起きた。

- 集中力の持続
- 体力の敏捷性の発達
- 子供が交通事故を起こさないための条件
- 小学校1年生はどれぐらい注意が出るか

この映画を見て、子供のときからしっかり育て、自分で自分をコントロール出来るようにしていくこと、反射の能力を発達させること、自立心を養うことなどがよく分った。

○2時限目 国語表現法 徳座先生

前週の授業に引き続き、敬語の勉強をした。理論だけでなく実際に敬語演習をしてとても参考になりましたが、敬語はまだまだ難しいと思います。

例

◎ 次の敬語の使い方は正しいかどうか。

文例：昨日はお茶のおけいこをお休みしました。

- a) 昨日はお茶のおけいこを休みました。
- b) 昨日はお茶のおけいこをお休み致しました。

◎ より適切なものを選ぶと……

(女性が客に)

井口さんのご郷里は広島で (㊦ ございますね
□ いらっしやいますね

3時限目 日本史 瀬山先生

本日の授業内容：

○開国

- 天保の改革
- 日本人の外国観
- 幕府の外国観
- ペリー来航
- ペリーの再来と幕府
- 遣米使節と威臨丸
- 貿易の影響

私にとっては今日の授業はとても難しかった。

4時限目 音楽：ベートーベンの「第九シンフォニー」の合唱練習

指揮：朝日先生

昨日と同じく、今日も礼拝堂で「歓喜の寄より」の練習が行われました。素晴らしい秋の学園に囲まれ、第九はわれわれの魂の中から熱球をうち出される様で、なんだか夢の国に浮んでいるような感じがしました。感動で胸がいっぱいでした。朝日先生のご指導でこの1時間半の練習は大変良かったです。明日は奏楽堂で……又楽しみにして居ります。

舞踊発表会 16時30分～18.00時

中原さんと、私が選択した岡田純子先生の身体表現の発表会を見せて下さいました。児童と演劇の1～4年生の学生たちは次のプログラムを行った。

1) 児童 1年

1. エクササイズ
2. ボールとイメージーション

2) 演劇 1年

1. エクササイズ
2. 白のイメージーション

3) 演劇 2年

1. ステップ
2. EVOLUTION (進化)



4) 児童 2年

1. 音, ことばのムーブメント

5) 演劇 3年, 4年

1. ラブンディールII

どのクラスを見ても、学生たちは大変豊かなリズム感、表現力、創造力でうらやましく思いました。創造的な表現を子供たちに教える為には自己のからだ、自己の行動、自己の言語について正しい認識を持たなければならないと感じました。19時30分、センターへ帰りました。

高市 記

11月15日 木曜日 雨

久しぶりに朝から雨。これを機会に寒くなりそう。寒いと朝はつらい。でもそんなことは言っていない。いつもの通り7時15分センターを出る。吐く息が白い蒸気となって出る。私には、めずらしいものを見た感じ。いつも満員な電車がどうしたのか今日はいくらかすいていてホットする。

玉川の丘の木々は雨と風にふかれ木の葉をはらはらと落していた。この5ヶ月間、玉川の丘は色々な景色を見せてくれた。

1時限目 経済

講義内容：通貨発行制度

徳川時代の四進法は明治4～5年にかけて新貨条例により円に変わる。

明治30年、日清大戦後の金本位制度

第一次大戦中、金本位制度停止

第一次大戦後、金本位制度復帰

ブロック経済

管理通貨制度

インフレーション

為替切下げ

国際復興開発銀行と国際通貨基金の役わりとその目的。

その他、余談として、物質的にはめぐまれたが心が貧しくなった日本人の姿を、今話題となっている中国残留遺児の例をあげてお話をされた。(この遺児たちをひきとって育てた中国人養父母達のお話)

2時限目 休講となる。

3時限目 日本美術史

講義内容：平安時代後期

絵画 — 倭絵 — その特徴

11月16日 金曜日 曇時々雨

今日は金曜日で、普通は授業参観日で玉川大学の方は別に授業はないのだが、12月の「第九の音楽祭」の練習の為、玉川大学へ行った。練習は一応14:40分からとなっていたが、せっかく玉川まで行くのだから、少々早く行って片山先生の好都合により、作文指導を受けるように決めた。外の先生は、もっと遅くセンターを出発するようだった。

普通よりも、遅かったので玉川大学に着いた時は、もう既に昼食の時間だった。13時頃、片山先生の研究室を訪ねて行った。先生は忙しいようだったが、親切に私の書いた手紙を添削して下さった。そして、色々な手紙の書き方の説明を加えて下さった。わずか何十分かの説明だったが、とても参考になり、私だけの為の説明で、先生の時間が惜しくなった。こういう説明だったら、誰にでも参考になるので、みんなを誘ってくればよかったと思ったが、もう過ぎ去ったことだったので仕方がなかった。

14:40分より、ベートーヴェンの「第九」の練習が始まった。奏音堂でソプラノのBとC組とアルトのBとC組が集まり、高森先生の指導でベートーヴェンの最大な曲を練習した。100人余りの中で小山先生と高市先生と大田先生を見つけ、先生方の近くへ行って練習した。外はとても寒かったが、奏音堂で練習していた私達は、先生が一生懸命に指導している態度に従って一生懸命に歌っているうちに、いつのまにか寒さを忘れていた。音楽祭もだんだんと間近になってきたせいか。みんな一心になって歌った。まだまだ下手なところがたくさんあるが、残っている数日間で補わなければならない。初めてステージで何千人の中で歌う「第九の音楽祭」は、今から楽しみである。

11月19日 月曜日 曇時々雨

2時限目 スペイン語(阿部先生)

授業内容:

- 動詞の過去変化練習
- スペイン語から日本語に訳する
- 示小辞と示大辞

示小辞→名詞の最後に *ito, ita, cito, cita*, をつける。

例: *nino* → *ninito*, *nina* → *ninita* (小さい小)

hombre → *hombrecito*, *mujer*, *mujercita* (男, 女)

示大辞→名詞の最後に *ON, OTA, AZO, OTE*

例: solteRO→solteRON(独身), PieDRA→PiEDROTA(石)

RERRO→PERRAZO(犬), PAPEL→PAPELOTE(紙)

3時限目 音楽 (高並先生)

ソプラノ(田)とアルト(田)と一緒に第九の練習をしました。先生がとても盛上っていましたのでついに私達も思い切って大きな声を出して歌いました。

16:30 音楽の授業が終わってから東京厚生年金会館で行うベートーベンの第九演奏会を聞きに新宿へ出ました。演奏会は19:00に始まるので途中のレストランで夕食を済ませた。レストランを出ると大雨が降っていたので5人一緒にタクシーをたのんで18:30頃厚生年金会館に着きました。

演奏会のプログラムは:

- "ベートーベン序曲レオノーレ第3番"

- "ベートーベン交響曲第九番=短調作品125(合唱付)"

オーケストラも合唱団も玉川大学の学生であり大変すばらしい曲を聞かせて頂いた。

大田 記

11月20日 火曜日 晴

第1時限目 国語II 片山先生

授業内容 - 発音について

- 母音の無声化

- 半母音

- 閉音節

- 閉音節

- 表意文字

- 表音文字

第2時限目 図書室で金平先生に見ていただく短歌と、片山先生に添削していただく文章を清書して、12時過ぎに終る。

第3時限目 金平先生の研究室に、5人で短歌を持って行く。先生は、待っていらっしゃったらしく、早速みんなの短歌を見て、最初に良いところを見つけて誉めて下さる。その後、ここはこう書いた方がもっと良くなると言われたり、少しずつ直して行かれる。

先生のご指導によって、私たちは、最初、短歌は難しくて出来ないと言っていたのが、今では勇気づけられて書くようになった。

第4時限目 身体表現 リトミック 岡田純子先生

発表会も終わったので今日は新しい身体表現法を教わる。

この科目を取っているのは、私と高市さんの2人でお互いに幼児教育に携わるものとして、身体表

現は興味深い。音楽、あるいは先生の言葉に集中して身体を動かし、表現する時、創造力によって出来た世界があるのみ。何ものにも束縛されず、自由な想像に浸ることによって内面にある感情や思考を豊かにする。表現することによって自信のある、ためらいのない子供にすることが出来たらと思いつつ、この身体表現を応用して表現活動を繰り返すことを考える。

立派な教育を受け、知識を持っていても、心の貧しい思いやりのない人、そんな人にはなってもほしくないと感じることである。

中原 記

11月21日 水曜日 晴

昨日の冷たい雨が上がり、今日は寒い一日でありました。(7時20分、根岸駅で7度)

○1時限目 全人教育論 岡田先生

「Claude」の映写、3分の短い映画でしたが、教育の問題がよく表われていました。映写後、感想文を書かされました。私たちの机までに大きな試験用紙が回されて来ましたので大変困りました。私のわずかな日本語力で1時間以内でまとまった文章を書かなければいけませんでしたので、辞典を引きながら時間が早く過ぎ去ってしまいました。

○2時限目 国語表現法 徳座先生

前週は敬語演習の授業でした。今日は国語の教科書に基づいて敬語理論的な説明をされました。

・敬語の種類 {
- 尊敬語
- 謙讓語
- 丁寧語

・注意すべき敬語 {
- お・この使い方
- おーする・おーいたす・おー申し上げる
- てあげる・てくださる・ていただく

○3時限目 日本史 瀬山先生

幕末期の動き

- 開国の諸問題
- 将軍継続の問題
- 大政奉還王政復古

授業のスピードが早かったので付いて行くことが出来ない時が多くありました。でも、私と一緒にこの講義を受けて居られる先生からご親切に説明して下さいだったので助かりました。

○4時限目 音楽 宮城先生

今日は工学部の講座でベートーベンの「歓喜の寄より」合唱練習でした。少しづつドイツ語に慣れ、合唱はだんだんと声が揃うようになりました。毎日別々な先生が指揮されるので、どの先生も精一杯

にご指導なさいます。みんな素晴らしいです。「歓喜の寄より」が耳に残っているながらセンターへ帰りました。

今日も良い一日でありました。

高市 記

11月22日 木曜日 晴

日本の冬は南米の冬とはちがう。サンパウロの冬は朝、夕は寒くとも日中陽がてれば、どんどん気温が上がるのがふつう。

今日も玉川の丘を落葉をふみながら登る。

1時限目 経済

講義内容：金本位制度

管理通貨制度

公定歩合

IBRD, IMF, GATTと日本

OECD - 資本の自由化

2時限目 言語表現

「雪」、「金色の雨」、「泉がわいて流れだす」、「ひきがえると姫」という題でグループごとにより身体表現で発表する。

3時限目 日本美術史

和様彫刻

(平安時代後期)

(この時代から作者がだんだんわかってくる)

特長：優しい表情

慈悲の仏

峯木造り

絵画：釈迦涅槃図

金棺出現図

唐絵

倭絵

絵巻物

小山 記

11月24日 曇時々雨

今日は最後の参観の日で東京外国語大学付属日本語学校へ行くのでセンターを8:00に出發した。

中原先生と高市先生は磯子の汐見台中央幼稚園へ行ってたので、小山先生と2人で府中市へ向かった。電車に乗り遅れたりしたので分倍河原に着いたのがもう10時10分前だったので、電車を乗り換えず、そこからタクシーで行って、丁度、約束の時間の10:00時に学校に着いた。東京外国語大学付属日本語学校では、河原崎先生が迎えて下さり、学校を案内して下さい、参観する授業の担当の先生を紹介して下さい。

授業は10:40分に始まり、12:00時に終わり、5分の休憩時間があった。生徒達が日本語を勉強する目的は、日本の大学入学であった。全員で14人で、タイ、ニュージーランド、シンガポールから来た学生達だった。大変、日本語が上手でとてもにぎやかなクラスだった。先生も時々、冗談を言ったりして、楽しい授業を行っていた。土曜日は、聴覚の授業となっており、ビデオを見て、アウンサーの言っていることを聞き、それを理解し、先生の質問に答える練習をしていた。そして、その次の段階は、ビデオの小さな段落を見たり聞いたりして、それを繰り返すことであった。全然、日本語が分からなくて4月に入学した人達には、随分難しい言葉で話されていたビデオだったが、結構それを理解し、繰り返していた。漢字にしても随分難しいのを知っているみたいだった。生徒達の著しい日本語に対しての発達には生徒の努力もあるが、その生徒達を教える先生の努力がはっきりと見えていた。12:00時に授業が終わり、河原崎先生と又、研究室で会い、学校のカリキュラムに対する説明があった。昼食の時間になっていたため、私達はそこで失礼させて頂いた。

大学の近くで昼食をし、午後からはスクーリング中で知り合ったキャンプのお友達と会うことになっていたため、待ち合わせの石川町駅へ急いだ。

15:30分より、私達4人(小山先生、中原先生、高市先生と私)とキャンプのお友達の大橋さんと加藤さんと山手散歩を始めた。出発は、まず、石川町駅からだった。そして元町を通り、外人墓地を通り、山手資料館を見物し、港が見える公園を通過して、中華街の「願海閣」というレストランへ行った。そこで、まだいらっしゃるお友達を待つことにした。土曜日だったけれども、みんな結構忙しくて、お仕事から真っ直ぐ来た人達が多かった。みんなで11人(大橋さんと加藤さんと宮崎さんと渡部さんと大野さんと諏訪部さんと道下さんと私達4人)集まった。楽しく話し合いながら、おいしい中華料理を食べた。プレゼント交換もあり、夕食を済ませてからもまた山下公園まで行き、そこでコーヒーを飲むことにした。けれども、お別れの時間がだんだんと迫ってき、とうとうそこで別れることにした。

楽しかった「お別れの会」、そして、キャンプの方達の温かい心は日本での思い出の一つとなり、いつまでも私達、一人一人の思い出に残ることだろう。

物部 記

11月26日 月曜日 晴

第2時限目 家庭教育 永井千恵子先生

授業内容：ハインズストーリーを考える

イエスとノーの問題

イエスと答えた人も、ノーと答えた人も、その理由は様々である。個人の問題にしか触れていない、幼児的な意見を第1段階として、第2、第3と、だんだんレベルが高くなり、第5段階まで行くと、個人的な問題を離れ、共存するための法律、権利、人格権などを考えての答えが出て来る。さすがに学生たちの中には、第1段階の答えを出す人はいなかった。最初子どもっぽく見えた学生も対論しているのを見ると、しっかりした意見を持っている。しかし、その考え方の違いは、やっぱり家庭教育の違いを感じさせる。

結論は次の授業となり、今日は30分ほど早く終る。私は予想もしていなかったのに今日は、私にとって最後の授業なので、前もって打ち合わせがしてあり、みんなで送別の意味で茶話会をしますと言われびっくりする。

25名の学生たちは、教室を片付け始め、みんなで持ち寄ったらしいお菓子と、魔法びんを手早く机の上に並べる。短い期間を一緒に学んだ学生たちの心づかいに感激し、一層別れを辛く思う。次の月曜日は修了式である。

第3時限目 国語教材研究 長野先生

授業内容 - 指導案を考える

- 先輩の作った指導案を見て意見を述べる
- 教科書の文章を読んで考える
- 要点はどこにあるのか
- 視点の持たせ方

今日は3時限目までなので、国際教育室へ行って片山先生の授業と、岡田先生の授業で使用されたビデオテープと、フィルムのダビングをお願いして来る。

中原 記

11月27日 火曜日 晴

1時限目 国語II (片山先生)

授業内容：

- 表記の問題
- 日本語には3つの文字が使われている
- 漢字は一世紀に中国から日本に入ってきたと言われるがはっきり分らない。しかし4~5世紀から使われ始めた。
- 日本人が漢字を習い始めたのは中国の文化を習うため、又は中国語に明るくなる為だと思われる。

- 漢字には音と訓がある。

例： 音 訓
 山 サン やま
 川 セン かわ

- 中国語が訛って来て日本語の音になったと考えられる。

- 中国語を日本語に当てはめた言葉が訓になったと考えられる。

- 文字には必ず「形、音、義」があると教えて下さいました。

3時限日は授業がなかったので図書館でノートの整理をしたり、“第九”のテープを聞きながら時間がすぐたちました。

4時限目 音楽 (高波先生)

アルト(B)とソプラノ(B)は二声部合せて工学部でベートーベンの“第九”を練習しました。

大学を出たのが16:30分でしたがもう薄暗くなっていました。

今日は私達にとって長い間お世話になった片山先生の最後の授業でしたのでなんとなく淋しくなる感じがしました。

片山先生……どうもありがとうございました!!

大田 記

11月28日 水曜日 晴

「今日は、玉川大で最後の水曜日……」となつかしく考えながら学園の丘を歩く。玉川は美しい秋を見せて下さって、紅葉はそろそろ終りに成り、私たちの研修も残り少なくなった。

○ 1時限目 全人教育論 岡田先生

1) 劇団“風の子”の「ANi MiME」映写

大変素晴らしいでした。たった3つの材料を工夫して(輪・棒・ボール)、リズム感、表現感と創造力を音楽に合わせながら壮大な物が出上がった。動物、ロケット、乗り物など、それぞれ、技術と芸術的なもの組合わせて美しいアニメーションを見た。

2) 「教室の子供たち」映写

昭和30年に撮影され、非常に新鮮な映画でした。次の問題に重点を置いてました。

- ・子供の社会化と個人性を充分に発揮させる。
- ・自信を持って共同生活の中で、一人一人の動きを大事にする。
- ・社会化と個人性をすっきり満足することが難しいです。教育と言うものはその矛盾を感じながら努力し、社会化と個人性を助け合って生きることが大事。

○ 2時限目 国語表現法 徳座先生

文と文章について勉強しました。

・文についていろいろな定義(文の内容・性質・思想)

・文の構造

-書き出し

-文と文の結びつき

-段落と段落の結びつき(起・承・転・結)

文章のテーマについて大変勉強になることでしたが、残念ながら今日で最後の授業でした。

○3時限目 日本史 瀬山先生

明治新政府と明開化について詳しい説明されました。

○4時限目 音楽

大体育館で「歓喜の寄より」の練習でした。今日は高森先生の指揮でした。あと3日間で音楽祭、楽しみに！

水曜日の授業は今日で終了でした。短期間でしたが、諸先生からいろいろとご指導を頂いて、深く感謝して居ります。

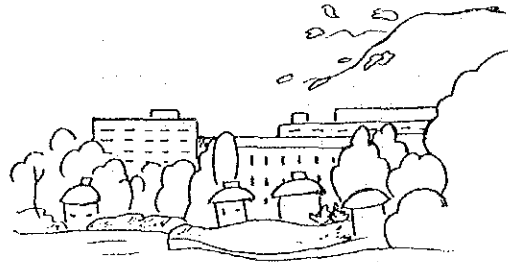
岡田先生

徳座先生

瀬山先生

音楽の先生方

どうもありがとうございました。



Tamagawa 1984

高市 記

11月29日 木曜日 晴

今日で玉川学園での授業は終る。明日はただコーラス(ベートーベンの第九シンフォニー)の練習があるのみ。本番の音楽祭は土曜日にせまってきた。

1時限目 経済

講義内容: 戦後経済の再建と復興

戦争被害

産業構造: 軍需産業から平和産業

公定価格と闇市場

連合軍占領政策: 財閥解体, 農地改革, 労働組合の結成

復興金融金庫

ドッジラインと1ドル=360円の単一為替レートの設定

朝鮮戦争と戦前水準への回復

2時限目 言語表現

今日が最後の授業となったので、私たち5名はそれぞれ感想をまじえた挨拶をすることになる。ひきつづき「うさぎのつゆ」、「地球の病氣」、「ルイイの口ぶえ」などと題名がついた朗読劇を1人ずつ、又はグループごとに朗読する。声色、テンポ、リズムなど難かしい。「言葉一語々々に感性がともなわなければいけない」と先生はおっしゃる。

3時限目の日本美術史は休講となる。

4時限目 コーラスの練習

帰国が近づいたので何かと雑用が多く気ぜわしくなった。

小山 記

11月30日 金曜日 晴

今日は、朝からとてもいいお天気で温度も少し高くなったようだった。金曜日なので玉川の授業がないので、午前中はみんなそれぞれ荷造りをしたり、レポートを書いたりして時間を過ごした。19日からセンターに入って来られた移住者の出発の日でもあり、センターの中はとてもにぎやかだった。これから未知の国へ向かって、そこで何か作ろうという希望を持った移住者達の熱心な態度がはっきり見られた。皆様の御健康と御成功を祈りながら、お別れを告げた。

11:30分にセンターを出発し、玉川学園へ向かった。最後の「第九」の練習なので、頑張らなくてはならなかった。練習は大体育館で13時より始まり、難しい部分だけを一応練習し、先生からも色々注意があった。私達はBグループで最後に歌うことになり、玉川学園校歌も歌わなければならないし、上手に歌わなければいけないのでとても責任が重い。学生達は、その責任の重さを感じたのか、みんな一心になって練習した。指揮者の高森先生も一生懸命になって指導して下さった。時間もあまりなく、全体を通して1回しか練習しなかった。大体育館の2階ではもうAグループが、私達が退場するのを待っていたので、急いで外へ出た。帰りには、小山先生と高市先生と3人で金平先生の研究室に原稿用紙に書いた私達の短歌を持って行ったが、残念ながら先生はいらっしゃらなかった。受付に先生に渡して下さるよう頼んできた。瀬山先生にも研究室に来るよと言われていたので3人で行ったが、瀬山先生もいらっしゃらなかった。瀬山先生の研究室は文学部第3校舎で、通信教育部の上なので帰りには、小山先生と2人で片山先生の研究室に寄り、手紙の書き方の指導を受けた。片山先生は、色々な手紙の常識についてお話になった。ポルトガル語で手紙を書くのは困難だが、日本語で書こうとしたら、その難しさが2倍となるような気がした。もっともっと練習しなければならぬ必要性を感じた。上手になるにはまず書かなければならないと片山先生はいつもおっしゃっている。残念ながら、今日で片山先生の指導を受けるのが最後だった。先生にお礼を言って、そこで別れてセンターへ戻った。センターは移住者がもういなかったのしんと静まりかえっていた。移住者が

入る前よりももっと静かであるような気がする。つい今朝まで廊下で聞こえていた子供の泣き声や声が聞こえなくなり、とても寂しい感じがする。明日は、いよいよ音楽祭なので感動で胸が一杯で寝れないかもしれない。

物部 記

12月1日 土曜日 曇のち雨

今日はとても待ち兼ねていた音楽祭の日だった。発表する前に最後の練習をすることになっていたの、小山先生と高市先生と大田先生ともう発表会の紺のスカート履き、白いブラウスを着、センターを7:55分に出発し、方南町にある普門館へ向かった。新宿駅に着いた時には、もう玉川の大学生らしい人達と会い、又、地下鉄の中でも学生らしい人達がだんだんと多くなり、方南町に着いた時には、もう仲間が揃い、聞いて行かなくてもその生徒達の後をついて行くだけで普門館に到着出来た。普門館に着いた時には、まだドアが開いていなく、10分ぐらい待たせられた。

10:00時より、普門館に入り、その広さ、又は雪のようにきらめいていたガラスの飾りの壁に見とれ、ステージに上がって歌うと考えただけで胸がときどきしていた。10:30分より、Aグループから、ステージに上がる練習や、声を出す練習をした。そして続いて、私達のBグループが練習をした。ステージに上がってライトをつけられ、会場全体を見通すことが出来、感動や間違えり恐れなどで声が出なくなりそうだった。まず最初に高浪先生より、発表前の最後の注意があった。それから声を出す練習や、難しい部分を練習した。練習後昼食の時間となり、そこで一休みした。

12:30分より会場が来客に開かれた。空いていた席もいつの間にか一杯になった。玉川の先生方も出席なさっていた。

13:30分より音楽祭が始まった。プログラムの第一番はベートーベンの「歓喜に寄す」となっており、Aグループが歌い、ソロは玉川の吉村先生と妻鳥先生と中井先生と村上先生がお歌いになり、玉川のオーケストラが伴奏を弾き、高森先生が指揮者だった。私達の歌う時には録音出来ないののでAグループが歌っているのを録音した。曲が終わるとどっと拍手が起こった。Aグループの大学生は目的に達したような顔でステージを下りた。私達は最後に歌うことになっており、音楽祭の締め括りに歌うので、上手に歌わなければせっかく見に来て下さった方達がかっかりしてお滞りになるので、とても責任が重い。それを考えただけで気がいらいらしてきた。

Aグループが歌った後、続いて玉川の田中先生の指揮でゲール・ヴィッチの「エミリー」がサクソフォンで独奏され、その後にはヴォン・ウィリアムズ作曲・山本訓久編曲の「チューバ協奏曲」がチューバで独奏された。両方ともとても上手に独奏され、さすが玉川の生徒さんだと感じられた。

続いて、タイ舞踊の「花の踊り」と「ラマキヤーン」と「長胴太鼓による踊り」があった。豪華な服装とタイ独特な舞踊はテレビでは見たことがあったが、実際に見るのは初めてだった。その次は、英国スタイルによる金管合奏とユーフォニアム独奏だったが、私達が歌う番が近づいたので、廊下に

集まった。アルトとソプラノのグループは左側の廊下に、バスとテノールのグループは右側の廊下に、もう出る順番に並んで、係りの人が合い図をするのを待った。そういう時には、なかなか時間が経たなく、随分待たせられたような気がした。いよいよ私達の歌う番になったので、ステージにみんな順番に上がっていった。会場の皆様全員に見られているので、何か間違ったことをしたり、又、滑って転んだりしたら、恥をかくので色々と緊張してステージに上がったが、私達は列の後ろの方だったので、前から4列目になり、指揮者もあまりよく見えなかったので、みんなが歌っているのに従い、先生が注意したことを思い出しながら歌った。ステージで歌っていた時間はあっという間に過ぎた。曲が終わると、みんな拍手をして下さり、目的に達した気持ちになった。次に、指揮者の高森先生に、そしてソロを歌って下さった先生方に、そしてオーケストラの皆さんに拍手が送られた。高森先生とソロを歌って下さった先生方に花束贈呈があり、みんなで玉川学園校歌を歌い、音楽祭が終わった。席に戻ると、教育原理の高橋先生に会い、先生は私達を見、「おめでとう」と言って下さったので嬉しくなった。待ち合い室に出ると、国際教育室の吉成さんと地主さんと石橋先生と会い、そこで少しお話をし、外へ出た。その時まで感動していたせいか、全然寒さを感じていなかったが、外は雨が降っており、冷たい風が吹いていたので、走りながら駅へ急いだ。2か月かけて練習した第九の音楽祭もあっという間に過ぎてしまった。色々と心配していたことももう過去のことになったが、ステージに上がって歌った25分間の感動はいつまでも私達4人の思い出に残ることだろう。玉川の音楽の諸先生方、素晴らしい音楽祭に参加させて頂き、本当に有難うございました。

物部 記

12月3日 月曜日 曇後晴

朝10時にセンターを出て岡田先生の授業で見せていただいたフィルム「さくらんぼほらや」と、「アニメイム」をお借りしてダビングをお願いする。

随分沢山のテープになったが、日本の児童の生活、教育、その活気に満ちた表現、生氣あふれる新鮮な姿を見て、すべての人が感動すると思う。ブラジルで多くの人に口では言いつくせない数々の発見を伝えたい。

テープを持って行ったり、次に、国語教材研究の長野先生の研究へ、お借りしていた本を返しに行ったり、忙しい。

今日は、修了式で明日からはもう玉川の先生方と、お会いすることもない。もっと学びたかったこと、お聞きしたいこともあったと心残りが多い。

私たち5名は、国際教育室で12時に、小原芳明先生、地主さん、吉成さんと共に食事をいただく。その後、玉川大学長小原哲郎先生の代理の先生方がいらっしゃる。お祝いのお言葉の後、修了証書をひとりずつ名前を呼ばれ手渡される。立派な修了書をいただき、先生方からの励ましのお言葉の中で「もうこれでお会いすることもないでしょうから。」と言われると、実感が湧いて来て、嬉しいと言

うよりも寂しい気がして来る。

修了式の後、金平先生の研究室へ行くと、先生は私たちの作った短歌を添削して下さり、そのコピーを14日に取りに来るようにと言われた。

私達5人は、金平先生と一緒に写真を撮り、お別れする。

その後、センターへ帰り、4階の講義室に集まり、事業団の方々、と今までの研修について話し合うことになっていた。

- 科目の内容

- なぜその科目を選んだのか

- その科目が役に立つと思うか

などを、私たちは卒直に述べる。そうすると、今までの科目のひとつひとつが思い出され、先生方の顔が浮び、もうこれで終わったと思うと、惜しまれて来る。

明日からは国際女子研修センターでの研修が始まる。泊まりこみなので持って行くものを準備しなければならぬ。

中原 記

歌集

「わが心の日々」

賛 歌

玉川大学助教授

金 平 正

うらしまの如くに帰り来たまひて学ぶ謙虚に頭を垂れている
二十余年ぶりの祖国の様は涙して歌ひたまへり豊けき山河
一輪の花にもところ寄せ給ひ母国の夏を日々学びます
なし了へし充足持ちて帰りませ国に待ちいるその子らのもと

歌と涙と生命と

ブラジル

江 上 幟 生

せきを切りあふれ出る涙とどまらず玉川の丘に故郷歌へば
伝統の母国の懐石料理ありがたく忘れはすまじ地の裏にても
生命の尊さを説きて結びたる女教授のところにくさよ
来月も生命ありなばとほほえめる汝がひとみの何といとほし
玉川の丘に絶へざる歌声の柱から柱へひねもす響く
地の裏のブラジルまでもとどけよと日々聖山に登りて祈る
道元の道学ばむと成宜園に正座して聞くひぐらしの声
洪水のごと降りそそぐせみ時雨伊豆長岡の湯の宿に聞く

感 激 と 和

ブラジル

馬 場 康 二

成田空港二十余年ぶりのわが祖国夢みるごとく目をこらし見る
玉川の小学生の招待に涙にむせべりふるさとの歌
玉川の乙女らすまして行きかへど話せばなべてが心あたたか
イメージをふくらませつつ表現すりトミックの時間たちまちに過ぐ
面会の知らせに急ぎ出て見れば思ひもかけぬ旧友の顔
限られた日数のふるさと研修ぞ新幹線のスピードもどかし
音楽のリズムにのりて若人と共に楽しむわれのともだち
我が祖国日本の発展まのあたり肌を感じつつもまるるラッシュ

研修のつれづれ

ブラジル

大天百々代

横浜のこの棧橋より船出して二十六年ぶりぞ忘れず
氷川丸に今観光の人あふれすで移民とゆく人はなし
夏ミカン手に取り遠く待ちわびる子らしのびつつ学びいそしむ
露ふくむかえでもいてふもまだ青し帰伯せしのち色づくならむ
聖山の水音聞きつつ黙麟す神を身近かに思ふひととき
はつらつとスクーリングの学生と共に汗かき労作終ゆる
聖山の小道に匂ふ山百合に繫たはむれてせまるたそがれ
あじさいの咲きみだれたる明月院老いも若きもアベック多し

研修の思い出

ブラジル

物部 テレザ 貫代子

朝早き大気すがしも聖山に集ひて今日の一日を祈る
玉川の夏を学べば笛の音に和して開ゆるせみしくれかな
聖山に祈るひととき静やけく神がみ前に在はずを感ず
母の日の歌うたひつつふるさとの母をしのべりけふの音楽
玉川の自然のいぶきに打たれつつ今日を過ごすを幸いとせむ
たへきれぬ暑さに扇子つかいつつ水に遊べるあひるともしむ
玉川の講義受けつつ至らざるわれにむちうち机に向かふ
サンパウロ遠く離れし横浜に母の便りを涙して読む

研修のつれづれ

ブラジル

大山多恵子

機首下げし窓より眺むる日本の夏の緑のあざやかに見ゆ
大き師遊けど若人集ふ学会は今日ものどけし玉川の丘
授業了へ急ぎて帰る道の辺にひとときは高くひぐらしの声
はとバスの別れに和する国のうたタンゴ・サンバにこだます車内
甲羅干す亀は動かじ古池のとけむす石にこぼるる夏日
独り居の母を訪ねぬふるさとの家居は広くすだれかかれる
掌を合はせ祈りつつ見き仏壇の父の形見の白き小箱を

風鈴のすがしき部屋にうたたねすここはふるさと疲れも癒ゆる

研修のつれづれに

ブラジル

坂野 恵美子

帰国の日指折り数へブラジルの吾子思ひをり空青き日は
幾とせの苦難を共にせし夫ははるかなる国より愛の文寄す
もうだめと弱音口より出でし時頭張れも耳朶に夫の声わく
梅雨に映ゆるあじさいにすら涙して幾年ぶりのふる里にいる
玉川の丘に集ひてかへりみる四十路を越えて学ぶこの日々
はるかなる夫を思ひて床に入り夢に叫ぶと友は笑へり
それぞれの国より集ひし研集生の個性ぶつかる玉川の丘
だれもだれも皆一様に富める国狭き祖國に身の置き処なし

一輪の花

ブラジル

藤野 章

玉川の学び舎の中に身をおきて総長の心かみしめてをり
玉川の小雨にむせぶごとく咲くあじさいに見き母の心を
満開のあじさいの丘にたわむるる児らはたくましあかず眺むる
はなれ咲く一輪すらも見おとさず教師見まもる玉川の丘
あたたかき教師のまなこに見守られたわむれ遊ぶ玉川の児ら
妻の心カルタにのせて伝へ来ぬ留守居の日々をただに謝すのみ
ひさびさに電話に聞きし母の声いつしか還り来し童心ぞ
鎌倉の土産ものやの水鉄砲幼なきわれの日々の顔ちくる

研修とわが心

ブラジル

宇都 武 仁

天国かおとぎの国かふるさとに降りゆくジャンボの窓にすがれる
二十六年ぶりぞ眺めてあきぬ窓の外ふるさとめざしゆく新幹線
抱きあひてただただ涙ことばなく妹と会へり二十六年ぶりに
車内にて居眠る気持ちうべなへりここな乙女よ乗り越しするな

ブラジルの妻より受くる初便り来日一月ならぬに胸おどる
真夜覚めてブラジルの子らふと思ふその母は登校を急かしいるらむ
ブラジルの尺度もちてもはかり得ぬふるさと雄大日本アルプス
八十年の古柳いかに迎へるらむ二十六年ぶりに今戻り来て

研修での悲報

ブラジル

中原 マリア

ふるさとの便りひたまちくりかへし郵便受けの前通りゆく
ふるさとの便り開けば事故のため甥死すといふ文におののく
短くも変化の多き人生をひた歩みきて甥は逝きたり
書きかけの甥への手紙捨てがたく机のすみにそっとふせ置く
年下の甥の生きざま思ひをり意気地なく今日の日を生きゆくわれは
おどけては人を陽気にさせし甥今は涙で祈るばかりぞ
たくましく力惜しまず働きし甥よしずけく眠りたまへな
人生は一瞬にして終るとも子ら永遠に父を敬ふ

研修のつれづれを

ブラジル

小山 拓枝

聖山で黙禱しをれば開へくるせせらぎの音聖歌のごとし
せみ時雨ききつつ曇き昼をいて夜はとほろぎの声にぞ寝ねむ
初めての短歌創作に何よまむ思案にくれる伯国育ち
雨霽れて白きベールのすそもよう神秘にうかぶ戸隠の山
柿の木はすでにし屋根にとどきをり祖母植えましき遠き日憶ふ
幾年ぶりぞ訪ねし母校変わりはてただ懐しきプラタナス一樹
山百合の花のかほりに誘はれて遠回りする玉川の丘
つり革にゆらりゆらりと身をゆだねうたたねしをり日本のサラリーマン

研修のつれづれ

ベルギー

大田 みどり

母のもと遠く離れて来し日本かくしてわれも大人とはなる

伝統の着物姿の少なきをさびしみにつつ日本に三月
二世われ勇気ふるひて温泉にはじめて浸る気分そう快
日本人の名前と顔をもつ故にペルーに生きる二世かなしも
混み合へる電車の中でも読書する人あまたをりこれが日本ぞ
地下鉄を乗りかへむとしてあせれども漢字読み得ずただ立ちつくす
夕食のせんととのへて窓により母はこよひも父を待つらむ
塾食堂のまかないの人らの動きを見つつペルーの母をしのべり

東京に戻りて

ペルー

具志堅 美智子

新しき父の墓石に「ただいま」と言へばお帰りと声聞こへくる
「ごめんなさい」と言へるもうれし電話より老いたる母の強がりの声
東京に残れと言ひし友の言聞きつつリマの児たちを想ふ
帰り道疲れきてふと見上げればネオン背に照る東京の月
お河童を振り振り通ひし目を憶ひ母校の老いたる桜見上ぐる
リマは今明け方ならむ夫娘らは目覚めているや東京は暮る
リマに居る娘たちにくどしとは思ひつつ小言書きをり東京に来て
濃き緑渡る涼風身に受けつつ振りむけば背に師の笑顔あり

玉川に学びて

アルゼンチン

脇田 信子

緑濃き学園の丘あじさいの紫青にこころよりゆく
胸を打つ講義を聞きて新たなりいかにか伝へむこのたかぶりを
幼な子にかへりて踊るリトミックたいこの音に心はずみて
大ホールに和して流るるハーモニーこの若人の美しきかな
喜々として夕べ歩めば平塚の七夕かざり風にゆれをり
待ちわびし夫の手紙を読みつつ子ら顕ちてきて土のかほりす
こけむせる鎌倉道の老杉にいにしえの武士の夢をばしのぶ
鎌倉の露座の大仏仰ぎつつ小さきおのれの心思へり

研修のおもいで

アルゼンチン

高市春子

小雨ふる花しょうぶ園めぐりつつはるけき父の姿顕ちくる
 アルゼンチンの庭にしょうぶ園作りませ父しのびつつめぐる内苑
 内苑の花しょうぶ園歩みつつ亜国に在はす父をしのべり
 雨けふる学園の道歩みつつ階れやかな歌つぎつぎにでる
 歌声のあふれる森の学園を口づさみつつわれも歩めり
 玉川の躑はよきかないながらに緑の樹々をながむしあわせ
 母と娘のきずなとほとし離りいて母の便りにその声を聞く
 にぎやかな学生の声みちみちて塾食堂はまことよきとこ

雑詠

ボリヴァ

近藤幸男

小雨降るなかを連日老いの身に鞭うち登る玉りの丘
 親身にも勝るもてなし奥様の真心に暇ふ日本の一夜
 妻よりの便り届きぬ留守宅の恙なきさまこまごまと記し
 電話との知らせに急ぎとる受話器故郷の兄の懐しき声
 暮れなずむあかねの空に茫然と富士の姿を見あかず眺む
 年来の念願叶ひて詣で来ぬ同志一つの心ぞうれし(大石寺にて)
 初孫の生まれし知らせ息子より至りて我の齢さびしむ
 貧しさでは諍はざりし老い二人子等のことでは今もあらそふ

研修の記

パラグアイ

佐藤邦夫

帰国してうれしきひとつ今日からは日本語のみの自由を思ふ
 横文字の意外に少なき標語の文字を追ひつつ都内にぞ入る
 お帰りと笑顔に迎へ給ふ母五年は重しかくも老います
 大観もここで描きしかしょうぶ園乙女がひとり写生してをり
 盲導犬のみみやさしかり車中なる人のかたえにひそと伏しをり
 パ国より教え子の便り届きたり室に触るると封切りて読む
 改めて歌よみてみればゆかしくも大和ことばは神さびていたり

しきしまの大和ことばはとことわにやまとの民の魂ゆするらむ

ふるさとにて

パラグアイ

四 方 都

電話より聞こへくる母の細き声ありがたきかもわれ四十路過ぐ
ふるさとの家の仏間の大写真父みまかりて二とせを経ぬ
七とせも父寝たきりでみまかりぬパラグアイは遠しなすすべもなく
父の遺稿まとめし詩集読みいつつ父もまた人なりとしみじみ思ふ
夫とふたり原始の森に移り住み十九年経ぬうから六人
広々と視界を二分す空と土パラグアイに生くる夫と二人で
パラグアイの自然は強し人間の夢をのみこみただ空と土
つとめ終へ汗をぬぐへば大空をまっ赤に染めて太陽しずむ

玉川学園に学びて

ドミニカ

西 尾 蓉 子

さつき散りあじさいの色濃くなりて祖国に学ぶ日々の過ぎゆく
手習ひを終りてほっと庭見ればくちなしの花咲きてしずもる
さらさらと木の葉すれ合う感宜園心静かに書を書ひ居る
塾生活年も忘れて若きらと階段上下す足どり軽く
こまごまと様子緩りし娘の便り主婦をつとめる姿いじらし
庭のばら見事に咲きぬと告げ来たる娘の便りに心せつなし
寝食を共にしている乙女らの我が娘にも似し笑声樂し
家のことは心配いらぬと娘は言へど夫の心のさびしさを思う

研修のつれづれ

コロンビア

筒 井 菊 代

建長寺の廊にたたずみその庭の深きしじまに心やすらく
新幹線の車窓をよぎる夕暮れにコロンビアなる吾子の顔ちくる
宿舎より通ふ電車の乗りかえに疲れ切りまたこの坂のぼる
玉川の行きかふ子等のほほえみにコロンビアにいる我が子恋ひしや

体操を了へて汗ふきさわやけく心も軽く丘を下りゆく
ひさにかぐ墨の香りのなつかしや感宜園塾に正座して書く
朝六時たいこの音に目を覚まし足もせはしく向かふ聖山
夕暮れのりんどう塾に一人居て森になきかふひぐらしを聞く

せみの声

カナダ

鈴木美知子

国宝館出でてまぶしき楠若葉鎌倉山に松せみの声
あじさいの花群分け登りゆけば山鳩のこえ谷伝ひくる
ねむの花かすかにゆれて揚羽蝶いととのひし羽根ひるがへず
泰山木ゆらりと咲けり今日もまたつひの講座の部屋へと急ぐ
空せみのあまりにかろし掌につつみてしばし聞くせみ時雨
汗ばみて塾のベットに目覚むれば夜明けを待たずひぐらしの鳴く
道元の講話に心うばわれぬ軒場ちかくにひぐらしのこえ
風わたる窓辺にしげし虫の声いかにし居らむカナダの夫子

後記

中南米及びカナダより、約三カ月の日本留学、丁度六月より九月までの日本の暑い夏を、ひたすら研修に明け暮れた日々。その研修の中で、生活の中で一人一人の心にふれたいくつかを、そのままに歌い上げた珠玉の八首を、それぞれに持ちよって、こうして一卷になし得たことを、心からうれしく思います。

始めて短歌にふれた人、十数年、二十数年ぶりに歌をよんだ人、それぞれに年輪の違いはあっても、やまとことばのいのちを見つめ、そのころを、自らの貴重な体験の中から歌い上げた一首一首は、まことに尊いものです。

ほんとによく頑張って下さいました。添削をさせて頂きながら、時にほほえみ、時にぐっと感動につまり、時になる程なる程と背き、時に涙して読ませてもらいました。ありがたいことでした。

日々の生活の歌、ふる里の歌、今日の日本を見つえた歌、そして遠く離れたお国の家族を思う歌、いずれもその感動が生きています。中でも、中原マリアさんの悲傷は切実です。

この心を大切に、この集を出発としてこれからの生涯を、どうぞ歌に生きていたいただきたいと念願いたします。

(かねひら)

第 6 回現地日本語教師本邦研修日程表

研 修 生 名 簿

研 修 生 一 覧 表

昭和59年度 現地日本語教師本邦研修日程〈第1期〉

	I	II	III	IV	備考					
	9:00	10:40	12:10	14:40	16:10					
6. 8	金	10:30	10:40	12:10	13:00	14:30	14:40	16:10		
9	土	10:00 オリエンテーション(事業団)								
10	日									
11	月		12:00 事業団本部(懇談会)							
12	火		来園・キャンパスツアー		昼食会・オリエンテーション					
13	水		J・I・S参観							
14	木		大泉小学校参観							
15	金		国際学友会参観							
16	土									
17	日									
18	月		表現教育の研究(方) リトミック		児童音楽(千葉) 中学部					幼児教育(永井千) 短・会議室
19	火		現地授業研究(正善) 短・会議室		←←←スークーリングオリエンテーション通・会議室					
20	水		折紙工作(小川) 短・会議室		体育(臼井)					現地授業研究(正善) 文II408
21	木	小学部参観			リトミック(小野) リトミック教室					懇談会・小学部
22	金		児童心理学(大井) 短・会議室		日本語を考える(片山) 文II308					美術(山崎)
23	土				懐石料理 築地 田村					
24	日									歌舞伎鑑賞・国立劇場

	I	II	III	IV	備考	
	9:00	10:40	13:00	14:40	16:10	
6.25	月	10:30 表現教育の研究(万) リトミック	12:10 表現教育の研究(万) リトミック	14:30 日本古典芸能(法月) 文II306	14:40 幼児教育(永井千) 短・会議室	
26	火	現地授業研究(正善) 文II101	教育とは何かを考える(石橋)短・会議室	日本語を考える(片山) 文II307	児童音楽(千葉) 中学部	
27	水	教育とは何かを考える(石橋)短・会議室	リトミック(小野) リトミック教室	近代詩(金平)文II305	幼児教育(永井千) 短・会議室	
28	木	美術(佐藤)文IB102	リトミック(小野) リトミック教室	近代詩(金平)文II305		
29	金	児童心理学(大井) 短・会議室	日本語を考える(片山) 文II308	近代詩(金平)文II502		
30	土		中学部合唱祭			
7.1	日					
2	月	表現教育の研究(万) リトミック	現地授業研究(正善) 文II306	音楽(小宮路)		
3	火	美術(佐藤)文IB102	日本語を考える(片山) 文II308	習字A(石川) 威直園		
4	水	← 教育とは何かを考える(石橋)短・会議室 →	リトミック(小野) リトミック教室	習字B(石川) 威直園		
5	木	美術(佐藤)文IB102	表現教育の研究(万)	習字A(石川) 威直園		
6	金	日本文化史(瀬山) 文II407		習字B(石川) 威直園		
7	土	近代詩(金平) 文II406				
8	日					
9	月	日本文化史(瀬山) 短・会議室	習字A(石川) 威直園	児童心理学(大井) 短・会議室		
10	火	美術(佐藤)文IB102	習字B(石川) 威直園	児童心理学(大井) 短・会議室		
11	水	← 折紙工作(小川)短・会議室 →		幼児教育(永井千) 短・会議室		
	木	海外日本語教育(上原) 短・会議室	児童音楽(朝日)文II304	現地授業研究(正善) 文II309		
13	金	日本文化史(瀬山) 文II407	体操(中山) 体育館	表現教育の研究(万)		

	I	II	III	IV	備考	
7.14	9:00	10:40	13:00	14:40	16:10	
土		鎌倉ツア-				
15						
日						
16		海外日本語教育(上原) 短・会議室	体操(永井三) 体育館			
月			児童音楽(朝日) 文II408			
17		体操(古谷) 体育館				
火						
18		← 海外日本語教育(上原)短・会議室 →				
水		海外日本語教育(上原) 短・会議室	神田本屋街ツア-			
19						
水						
20						
金						
21						
土						
22						
日						
23						
月						

〈 第 2 期 〉

	I	II	III	備考	
7.24	8:40	12:30	15:40	17:00	
火	10:00~スクーリング 入学式・開講式				
25					
水					
26					
木					
27					
金					
28					
土					
29					
日					

	I			II		III		備考
	8:40	11:30	12:30	15:20	15:40	17:00		
7.30	月							
31	火							
8. 1	水		ハトバスター				I 期期末試験	
2	木	学校園夏期入学(～4日) 伊豆長岡						
3	金						18:00 通大前夜祭	
4	土						通大祭	
5	日							
6	月							
7	火							
8	水							
9	木						II 期期末試験	
10	金							
11	土							
12	日							
13	月							
14	火							
15	水							
16	木						15:30～閉講式 III 期期末試験	

〈 第 3 期 〉

	I		II		III		夜 間	備 考
	10:00	11:50	13:00	14:50	15:00	16:50		
8. 17	金							
18	土							
19	日							
20	月	日本語児童教育(白鳥)	日本語教授法(小峯)	日本語教授法(小峯)	日本語教授法(小峯)	日本語の言葉(広瀬)		
21	火	日本語児童教育(白鳥)	補助教材作成(正善多)	補助教材作成(正善多)				
22	水	補助教材作成(正善多)	文法・文型(森田)	文法・文型(森田)	文法・文型(森田)			
23	木	現地授業研究(正善多)	文法・文型(森田)	文法・文型(森田)	文法・文型(森田)			
24	金		研修報告会(事案団)					
25	土	関	西 旅	行				
26	日		"					
27	月		"					
28	火	出	身 地 研	修				
29	水		"					
30	木		"					
31	金		"					
9. 1	土		"					
2	日		"					
3	月		"					

	I	II	III	夜間	備考
9. 4 火	10:00 11:50	13:00 14:50	15:00 16:50	19:00 21:00	
5 水	玉川大学終了式	出身地研修			
6 木					
7 金		国際協力事業団閉講式(Aコース)送別パーティ			

日語教師研修生特別研修会日程

〈対象：5名〉

	午前	午後	夜間	備考
12/4 火	10:00 閉講式、 オリエンテーション	15:00 17:00	19:00 21:00	22:00
5 水	自習 生け花一概論と実習	日本文化の 特質について 茶道の精神について	日本文化の 特質について 茶道の基礎と実習	
6 木	" 生け花一実習	茶道の基礎と実習	茶道の基礎と実習	自
7 金	" 生け花一実習	茶道の基礎と実習	茶道の基礎と実習	由
8 土	" 日本料理の基本と 実習	日本料理の 基本と実習	日本料理の 基本と実習	入浴日は月・水・金 17.00~20.00
9 日	鎌倉見学	法話、座禅	(円覚寺)	
10 月	自習 日本の 家庭生活について	救急看護	救急看護	ア-トフラワー
11 火	" 保健衛生	一生健康を保持	するため	ア-トフラワー
12 水	" はり絵	はり絵	はり絵	ま
13 木	講話(理事長)	閉講式		とめ

第6回現地日本語教師本邦研修生名簿

AKIRA FUJINO

藤野 章

Caixa postal 843 BELÉM PARÁ

CEP. 66000

BRASIL

TEL. 235-1304

TAKUE KOYAMA

小山 拓枝

Estrada da CEASA LÔT. ITORORÓ R-K-1 №82

MARCO BELEM PARÁ

CEP. 66000

BRASIL

TEL. 226-8715

MOMOYO DAITEN

大天 百々代

Rua Eldorado, 1055 POSTO DA MATA BAHIA

CEP. 45920

BRASIL

HATAO EGAMI

江上 轍生

Caixa Postal, 26 SÃO GOTARDO MINAS GERAIS

CEP. 38800

BRASIL

TEL. 034-671-1339

YASUJI BABA

馬場 康二

Caixa Postal, 457 REGISTRO Estado de SÃO

PAULO

CEP. 11900

BRASIL

EMIKO BANNO

坂野 恵美子

R. João Mascarenhas Neves, n.º 178

N. BOTAFOGO CAMPINAS Estado de SÃO PAULO

CEP. 13100

BRASIL

TEL. 41-2724

TAEKO I. OYAMA

大山 多恵子

Rua Vereador Adeodato Volpi, 485 Vila Araca

CURITIBA PARANÁ

CEP. 8000

BRASIL

TEL. 041-246-1419

TEREZA KIYOCO MONOBE

物部 テレザ 貴代子

Rua Padre Pacheco, 81-7. Sonia SÃO PAULO

S. Paulo

CEP. 05627

BRASIL

TEL. 211-8650

MARIA NAKAHARA

中原 マリア

Caixa Postal, 134-SÃO BERNARDO DO CAMPO

Est. de São Paulo

CEP. 09700

BRASIL

TEL. 448-2186

TAKETO UTO

宇都 武仁

Rua Vitor Valpirio, 490-B. Anchieta PORTO

ALEGRE RIC GRANDE DO SUL

CEP. 90000

BRASIL

TEL. 42-1353

KUNIO SATO

佐藤 邦夫

Caixa Postal, 153 FOZ DO IGUACU PARANÁ

BRASIL

MIYAKO YOMO

四方 都

CORREO DE PIRAPC KM.13 ENCARNACION

PARAGUAY

NOBUKO WAKITA

勝田 信子

C DE CORREC #13 PCIA DE MISIONES REP.

CEP. 3334

ARGENTINA

ANGELA HARUKO TAKAICHI

高市 春子

Reconquista, 1726 EL TALAR Provincia de

BUENOS AIRES

CEP. 1618

ARGENTINA

TEL. 740-7192

YUKIO KONDO K

近藤 幸男

A.V. CALDENAL CUSHING #40 SANTA CRUZ

CEP. 2006

BOLIVIA

TEL. 2-6891

YOKO NISHIO

西 尾 蓉 子

COLONIA JAPONESA #12 CONSTANZA

REPUBLICA

DOMINICANA

MICHIKO W. DE GUSHIKEN

具志堅 美智子

Proceres de La Independencia, 606 SAN JUAN

DE LURIGANCHO LIMA 36

PERU

TEL. 81-8336

MIDORI OTA

大 田 みどり

Jr. Hipolito Unanue #1512 LA VICTORIA

LIMA 13

PERU

TEL. 32-5239

KIKUYO TSUTSUI

箭 井 菊 代

APARTADO AEREC 6503 CALI VALLE

COLOMBIA S.A.

TEL. 398961

MICHIKO SUZUKI

鈴 木 美知子

24 Emerson Ave. TORONTO, ONTARIO, M6H

3S8

CANADA

TEL. 416-532-4512

昭和59年度現地日本語教師本邦研修生一覧

◎印：研修期間6カ月

推せん支那	地 区	氏 名	性別	年令	國 籍	出身地	學歷	経教 年数	所 属 学 校 名
ベレ	ン	藤野 章	男	37	日 本	東 京	高 卒	4	コンケイロ日本語学校
ベレ	ン	◎小山 拓枝	女	39	ブ 拉 ジ ー	宮 城	大 卒	2	汎アゾンニア日伯協会日本語講座教室
レシ	エ	大天 百々代	女	36	日 本	福 岡		7	ポスト・デ・マツタ日本語学校
リオ、デ、ジャネイロ	サンゴタルト	江上 徹生	男	46	日 本	秋 田	大 卒	6	サンゴタルト日語学校
サン・バウロ	レジストロ	馬場 康二	男	45	日 本	東 京	大 卒	12	レジストロ日語校
	カンビナーズ	坂野 恵美子	女	45	日 本	東 京	高 卒	10	カンビナーズ日語学校
	クリチーバ	大山 多恵子	女	47	ブ 拉 ジ ー	愛 知	短大 卒	1	クリチーバ日伯文化協議会日語講座
	サン・パウロ	◎物部テレガ代子	女	25	ブ 拉 ジ ー	福 岡	大 卒	4	サン・パウロ日伯文化連盟
	サンベルナルト	◎中原 マリア	女	38	ブ 拉 ジ ー	山 口	大 卒	2	サンベルナルト日本語学校
ポルト・アレグレ	ポルト・アレグレ	宇都 武仁	男	49	日 本	鹿 児 島	大 卒	3	ポルト・アレグレ日語教室
アスンシオン	イグアス	佐藤 邦夫	男	33	日 本	福 岡	大 卒	4	イグアス日本語学校
	アルトバラナ	西 方 都	女	42	日 本	愛 知	大 卒	4	富美村小学校
アエノス・アイレス	ガルアベ	阪田 信子	女	34	日 本	大 阪	短大 中途	10	{ガルアベー日本語学校 アルトバラナ日本語学校
	エル・タラル	◎高市 春子	女	29	アルゼンチン	愛 媛	短大 卒	6	ノルチ日本語学校
サンタ・クルス	サンタ・クルス	近藤 幸男	男	58	日 本	高 知	中 卒	6	サンタ・クルス日本語学校

推せん支那	地	区	氏名	性別	年令	国	籍	出身地	學歷	経験年数	所屬学校名
サンクト・ドミントン	コロンブス	サン	西尾 馨子	女	42	日	本	福島	中・中退	7	ドミニカ日本語学校コンスタンサ分校
リ	マ	マ	具志堅 美智子	女	41	ペル	—	—	高卒	9	ラ・ビクトリア学校
ボ	リ	マ	④ 太 印 みどり	女	24	ペル	—	沖縄	大在		日秘文化会館
ト	カ	リ	筒井 菊代	女	46	日	本	高知	短大卒	15	日本語学校ひかり園
ト	ト	ン	鈴木 美知子	女	46	日	本	東京	高卒	5	トロント園語教室日本語学校

昭和58年度現地日本語教師本邦研修生一覽

支	部	地	区	氏	名	性別	年齢	国	籍	出身地	学歴	経 験 年 数	学 校 名
リオ、デ、ジャネイロ	ベ	ニテロイ	イ	寛永由美子	子	女	40	日	本	熊本	高卒	8	ニテロイ日本語学校
		マナウ	ス	木場克子	子	女	42	ブラジル	ル	宵森	高卒	4	エフゼニオ・サールス日本語学校
		トメア	ス	榎末子	子	女	44	日	本	岐阜	中卒	4	トメアスー日本語学校
		ドウラード	ス	城田志輝子	子	女	46	日	本	北海道	高卒	13	共栄日語学校
		サンミゲール・アルカンジヨ	ジョ	石川勤	勤	男	49	日	本	福島	高卒	7	サンミゲール・アルカンジヨ日本語学校
		テイシエラ・デ・フレイタス	ダス	羽広妙子	子	女	39	ブラジル	ル	愛知	中卒	5	テイシエラ日本語学校
		モロ	ン	貝原嗣子	子	女	48	アルゼンティン	ン	岡山	高卒	25	西部日本語学校
		フロレンジオ・パレーラ	ラ	佐藤富美	美	女	46	日	本	三重	大卒	4	フロレンジオ・パレーラ日本語学校
		アスンシオン	ン	山真美子	子	女	26	日	本	鹿児島	大卒	3	パラグアイ三育学院
		エンカルナシオン	ン	小田俊春	春	男	41	日	本	広島	中・中退	4	エンカルナシオン日本語学校
		サンフアン	ン	二階堂慧子	子	女	46	日	本	北海道		16	サンフアン日語校
		サント・ドミンゴ	ゴ	小松和憲	憲	女	25	ドミニカ	ニ	高知	大在	5	サント・ドミンゴ日本語学校
		マリ	マ	村上みさか	か	女	48	ペル	ル	岡山	中卒	4	ラ・ウニオン総合学校
		マリ	マ	東恩納弘美	美	女	27	日	本	沖縄	中卒	1	ペルー中央日本人会文化部日本語講習会

昭和57年度現地日本語教師本邦研修生一覽

支 部	地 区	氏 名	性 別	年 令	国 籍	出 身 地	学 歴	経 験 年 数	学 校 名
リオ・デ・ジャネイロ	カンボ・グランデ	堀 場 潤 子	女	40	日 本	福 島	高 卒	3	カンボ・グランデ日本語学校
ベレ	トメアス	松 崎 紀太郎	男	43	ブラジル	福 島	高中退	3	トメアス一日本語学校
サン・パウロ	カストロ	小 林 一 世	男	51	日 本	京 東	大中退	7	カストロ奨学会
	サント・アンドレ	富 田 菜 子	女	47	日 本	愛 媛	高 卒	11	旭日本語学校
ポルト・アレグレ	ポルト・アレグレ	児 玉 芳 子	女	53	日 本	鹿 児 島	大中退	4	ポルト・アレグレ日本語教室
ブエノス・アイレス	コルドバ	今 井 礎 都子	女	50	日 本	宮 崎	高 卒	15	コルドバ日本語学園
アスンシオン	アラ	小 倉 正 義	男	47	日 本	徳 島	中 卒	6	サンタローサ日本語学校
サンタ・クルス	オキナワ	大 熊 豊 子	女	42	日 本	埼 玉	高 卒	4	沖純第一学校
サント・ドミンゴ	コンスタンサ	神 前 和 子	女	36	日 本	鹿 児 島	小中退	5	コンスタンサ日本語学校
リ	マダレナーナ	棚 原 恵 子	女	28	日 本	沖 縄	大 卒	7	ラ・ウニオン総合学校

昭和56年度現地日本語教師本邦研修生一覽

支部	氏名	性別	年齢	国籍	籍	出身県	最終學歷	学校名	学校所在地	経験年数	備考
サン・パウロ	酒井 政 広	男	48才	日 本	本	東京	高 卒	ロンドリーナ 文化体育協会	パラナ州 コンドリナーナ市	22年	団 長
	木 内 務	男	41才	日 本	本	静岡	高 校 中 退	イビウーナ 日本語学校	サンパウロ州 イビウーナ市	11年	
ベレレーン	佐々木 邦 子	女	36才	日 本	本	兵庫	看護婦養成所 卒	イガラツパレス 日本学校	パラナ州 イガラツパレス郡	3年	副団長
	大 西 保 子	女	44才	日 本	本	香川	高 卒	トメアス 文化協会日本語学校	パラナ州 トメアス郡	3年	
レシーフェ	西 山 喜多雄	男	56才	日 本	本	愛媛	尋常小学校卒	クビチニョック 日本語学校	バイヤ州 マツタテ・サンジョア郡	12年	
サンタ・クルス	笹 本 久美子	女	21才	日 本 ポリアニア	本	東京	高 卒	サンフアン日本語学校	サンタ・クルス州 サンフアン	4年	2 世
アスンシオン	樽 木 寿	男	59才	日 本	本	福岡	農 学 校 卒	アロンバイ日本人会	パラグアイ国 アマンバイ県	20年	
サント・ミゴ	矢 内 愛 子	女	41才	日 本	本	福島	高 卒	ドミニカ日本語学校	ドミニカ国 ラベীগ州	11年	
アルゼンティン	塚 田 勇	男	54才	日 本	本	長野	農 学 校 卒	西部日本語学校	アルゼンティン国 ブエノス・アイレス州	15年	
リマ	森 川 早 苗	女	37才	ペルー	本	広島	女子専門学校卒	ワラル日本入学校	ペルー国 リマ 県	3年	

昭和55年度現地日本語教師本邦研修生一覽

支 部	地 区	氏 名	年 令	経 験 年 数	学 校 名	生 徒 数	渡 航 年	本 籍 地
ベ （ ラ ジ ル）	サンタ・イザベル	古和田 道 弘	33	5	サンタ・イザベル 文化協 会	92名	1972年	京都府綾部市五津合町前56番地
リ （ オ ・ ヂ ・ ジ ャ ネ イ ロ）	ベラビスタ	小薮子川 力雄	61	8	ベラビスタ植民地自治 会アサヒ日語学校	56名	1953年	宮城県遠田郡南郷町二郷字才兵 工沖名
サ （ ン ・ ラ ジ ル）	アンジャール	加 藤 英 子	57	13	アンジャール日語学校	48名	1961年	長崎県諫早市高城町734番地
サ （ ン ・ ラ ジ ル）	スザノ・フクヒロ	山 本 豊	38	8	フクハク日語学校	131名	1960年	兵庫県水上郡春日町野山15
ポ （ ル ト ・ ア レ グ レ ）	ラ ー モ ス	森 徳 子	41	3	ラモース日語学校	48名	1967年	三重県桑名市和泉904
ア （ エ ノ ス ・ ア イ レ ス ）	ア ン デ ス	岸 本 久 子	54	9	南部メントサ日語学校	25名	1963年	大阪市浪速区塩草町1134
ア （ ス ラ グ ア イ）	ビ ラ	水 見 悦 子	40	4	ピラボ中央日語小学校	53名	1960年	高知県高岡郡越知町横昌東226
サ （ ン タ ・ ク ル ア）	アスンション	鍋 山 絃 一	39	2	アスンション日本学校	82名	1976年	東京都立川市羽衣町2-28-6
サ （ ン タ ・ ク ル ア）	オキナワ第1	儀 間 弘 治	40	9	オキナワ第1日語校	101名	1958年	沖縄県中頭郡読谷村字名渡
サ （ ン タ ・ ク ル ア）	サンファン	深 浦 野 子	49	15	サンファン日語学校	207名	1961年	長崎県長崎市東立神町74

昭和54年度現地日本語教師本邦研修生一覽

支 部 名	教 師 名	学 校 名	生徒数	経営形態	授業時間	備 考
ベレーン支部	上田 和子	サンタイザベル日本語学校	88名	日本人会の中 の教育委員会	週 3~5hr 年 200hr	日本語のみ
レシーフェ支部	西本 フミ	ウナ植民地日本語学校	25名	個 人	週 3hr 年 200hr	日本語のみ
サン・パウロ支部	森 脇 礼之	カンジョエリンニヤだるま塾	65名	個 日本人会後援	週 33hr 年 1,320hr	日本語, 音楽, 体育, 図工
サント・ドミンゴ支部	渡辺 次雄	アラサツーンバ日本語学校	348名	日本人会経営	週 7.5hr 年 300hr	日本語, 絵画, 音楽
リマ事務所	上原 邑子	ドミニカ日本語学校	38名	個 人	週 7hr 年 367hr	日本語
サンタ・クルス支部	橋田 久子	ラ・ビクトリア小学校	389名	父母会経営	週 5hr 年 150hr	日本語
アスンシオン支部	高野 美智夫	サンフアン日本語校	188名	日本人会経営	週 10hr 年 320hr	日本語, 数学, 社会, 情報教育
ブエノス・アイレス支部	野本 武生	サンタローサ日本語小学校	66名	日本人会経営	週 4hr 年 225hr	日本語, 算数
	石川 宏紀	ビジャ・エルサ日本語学校	24名	父母会経営	週 9hr 年 410hr	日本語, 音楽, 工作, 絵画, 体操
	古川 鶴雄	ノルチ日本語学校	66名	日本語クラブ	週 16hr 年 660hr	日本語

JICA